

加東市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
見直しのためのアンケート調査結果

《クロス集計編》

目次

I	調査の概要	1
II	一般高齢者・要支援者 調査結果	2
1	回答者属性	2
2	家族や生活状況について	3
3	機能別リスク該当者割合	5
4	健康について	9
5	からだを動かすことについて	10
6	食べることについて	13
7	毎日の生活について	14
8	地域での活動について	17
9	たすけあいについて	21
10	市で実施している主な介護予防・生活支援・福祉サービスについて	22
11	今後の生活と福祉や介護保険制度について	28
12	日常生活圏域別にみた一般高齢者・要支援者の調査結果のまとめ、考察	30
III	要介護認定者 調査結果	33
1	回答者属性	33
2	家族や生活状況について	34
3	からだを動かすことについて	36
4	毎日の生活について	38
5	介護保険制度と介護保険サービスについて	42
6	市で実施している主な保健福祉サービスについて	50
7	今後の生活と福祉や介護保険制度について	58
8	介護者の年齢、介護をしている家族の就労、働き方の調整状況	60
9	介護者が不安に感じる介護	64
10	認知症状と介護について	65
11	要介護度別、家族構成別にみた調査結果のまとめ、考察	66

I 調査の概要

1 調査の目的

平成 27 年 3 月に策定した「加東市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」を見直すための基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

- ・ 65 歳以上の要介護認定を受けておられない方の中から無作為抽出
- ・ 要支援、要介護の認定者

3 調査期間

平成 28 年 11 月 18 日から平成 28 年 12 月 5 日

4 調査方法

郵送による配布・回収

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
一般高齢者・ 要支援認定者	2,000 通	1,587 通	79.4%
要介護認定者	974 通	673 通	69.1%

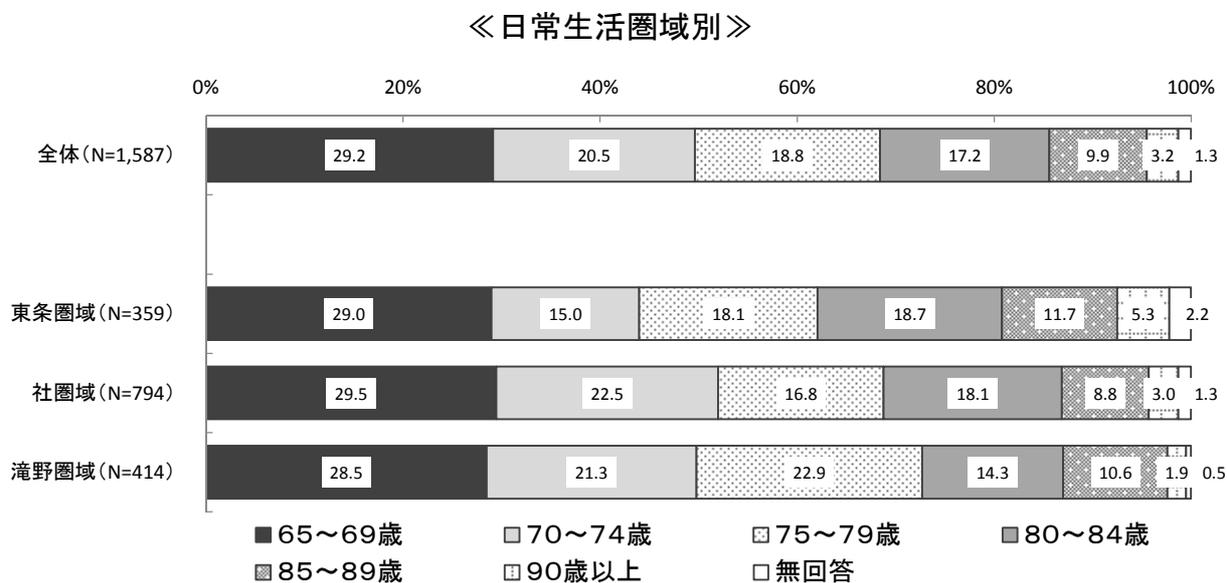
6 調査結果の表示方法

- ・ 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・ 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・ クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。

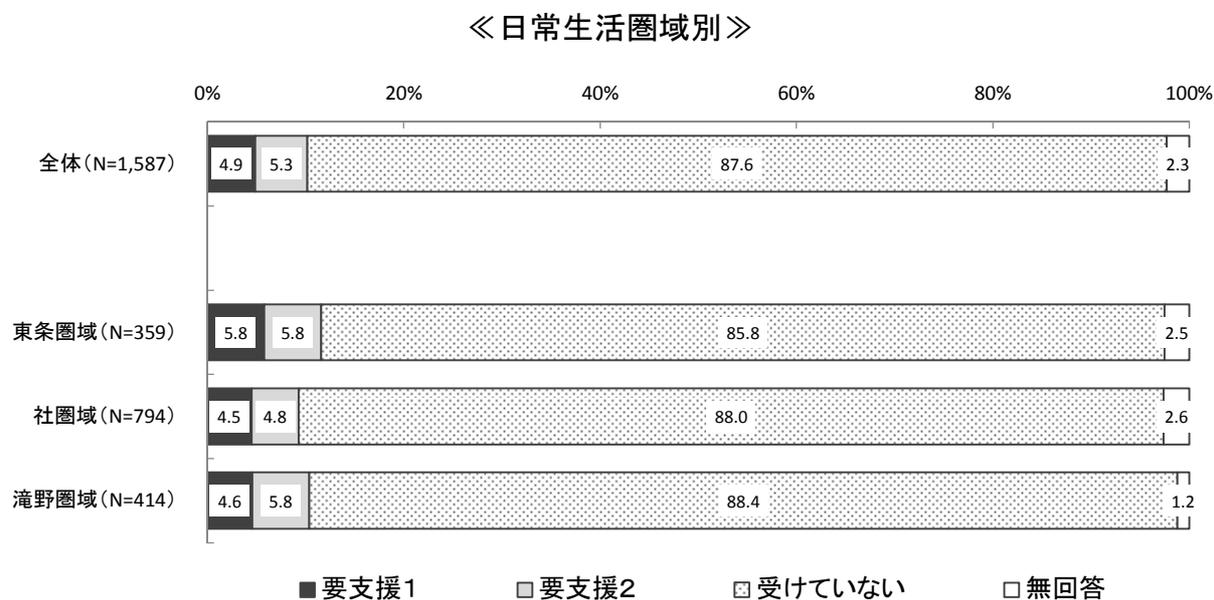
Ⅱ 一般高齢者・要支援者 調査結果

1 回答者属性

(1) 年齢

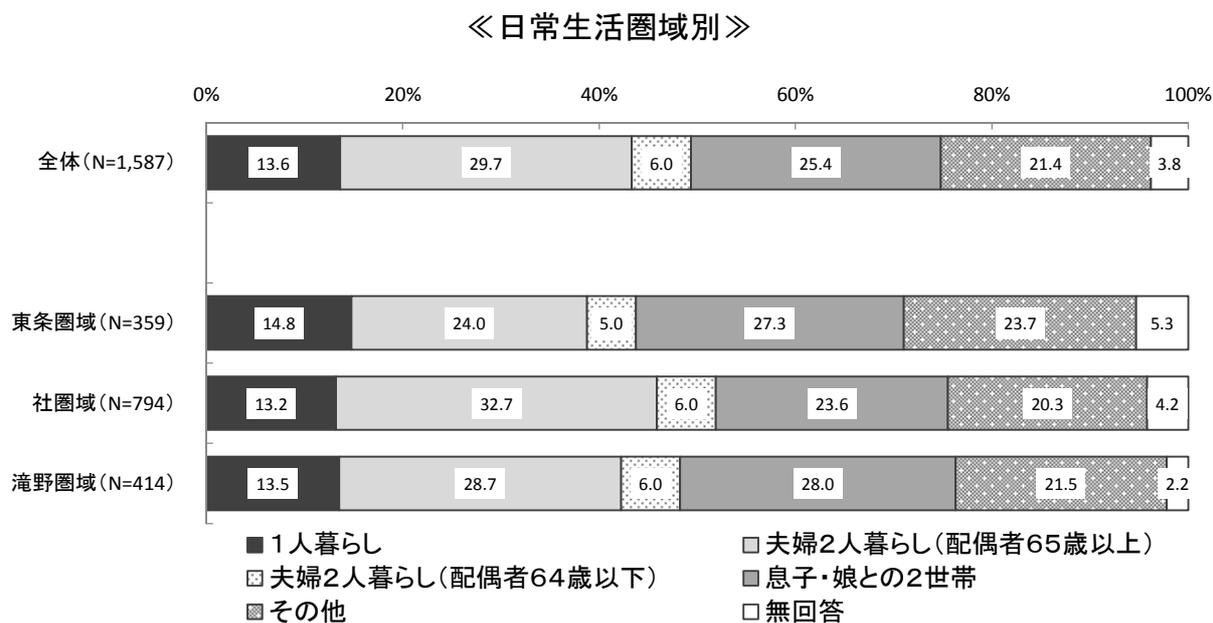


(2) 要介護認定

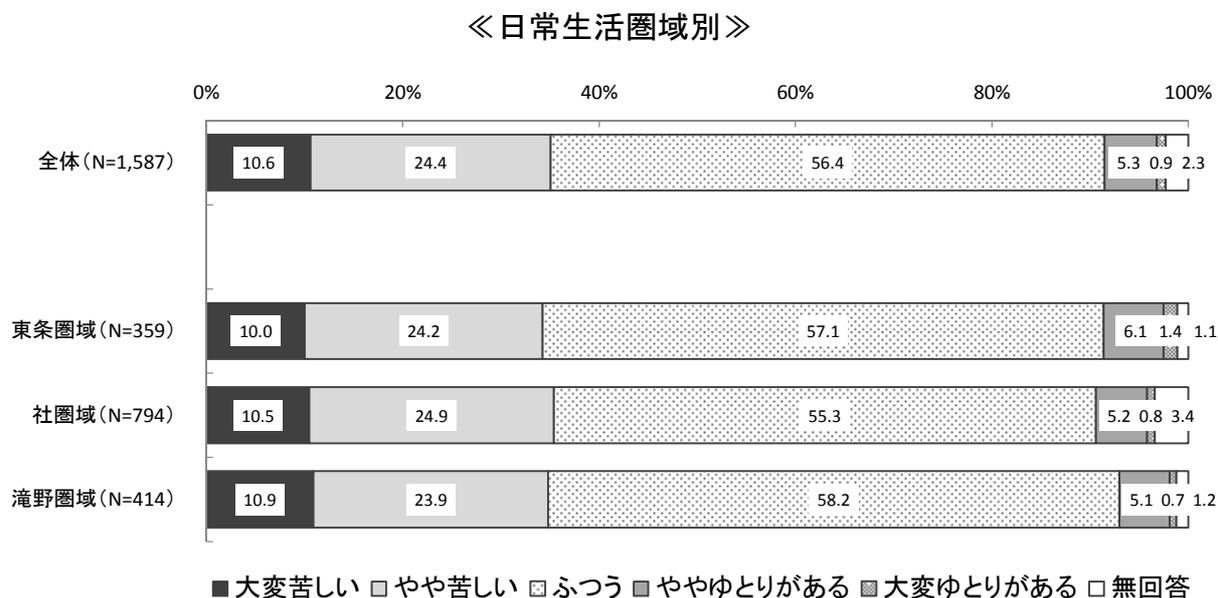


2 家族や生活状況について

(1) 家族構成

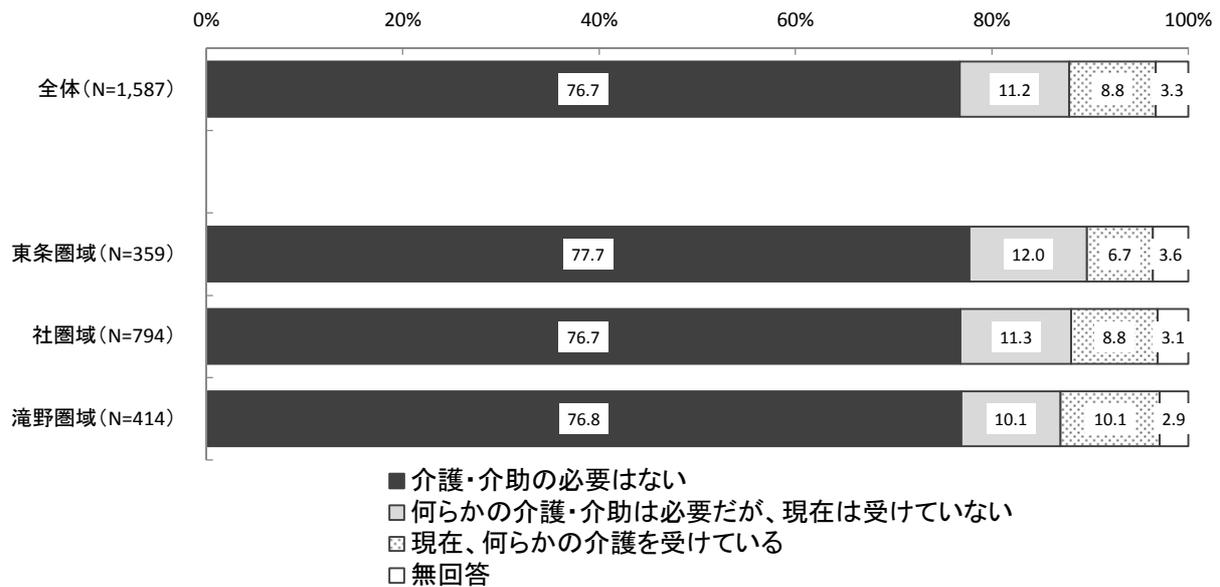


(2) 暮らしの状況



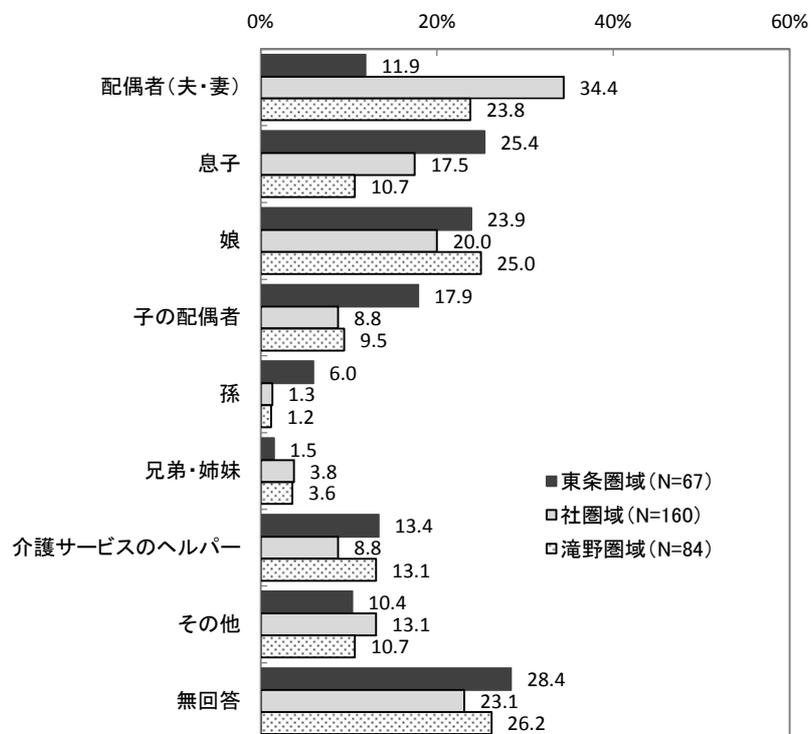
(3) 介護・介助が必要か

《日常生活圏域別》



(4) 主な介護・介助者

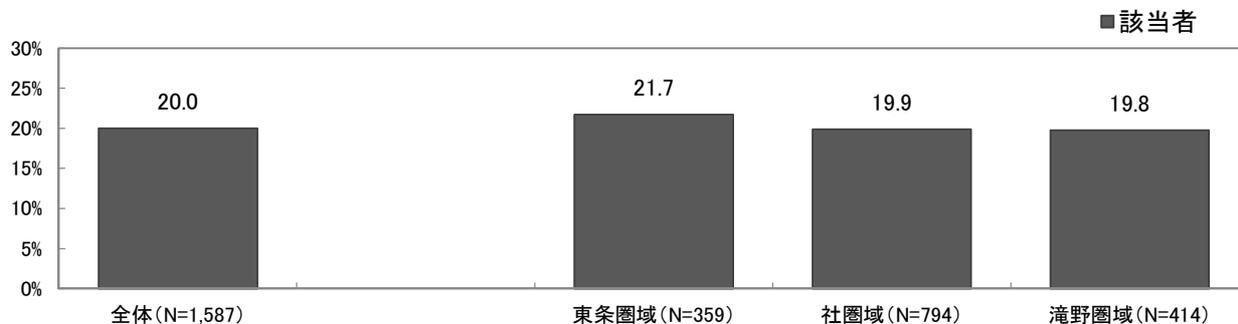
《日常生活圏域別》



3 機能別リスク該当者割合

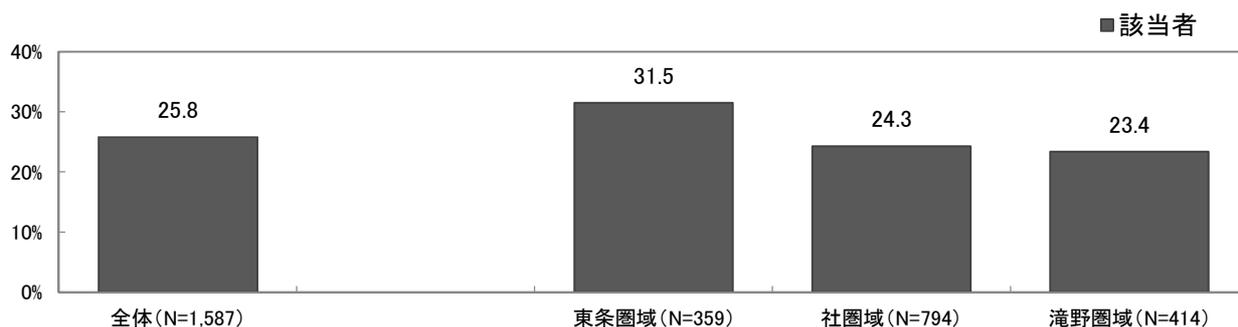
(1) 運動器

《日常生活圏域別》



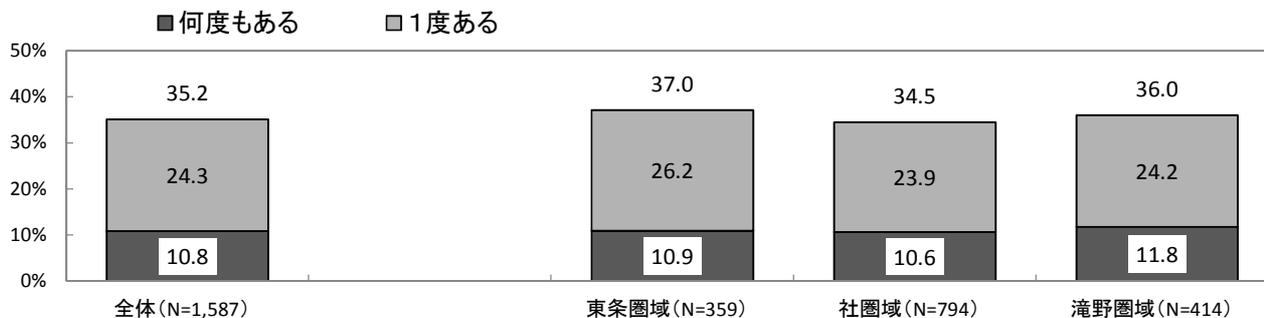
(2) 閉じこもり

《日常生活圏域別》



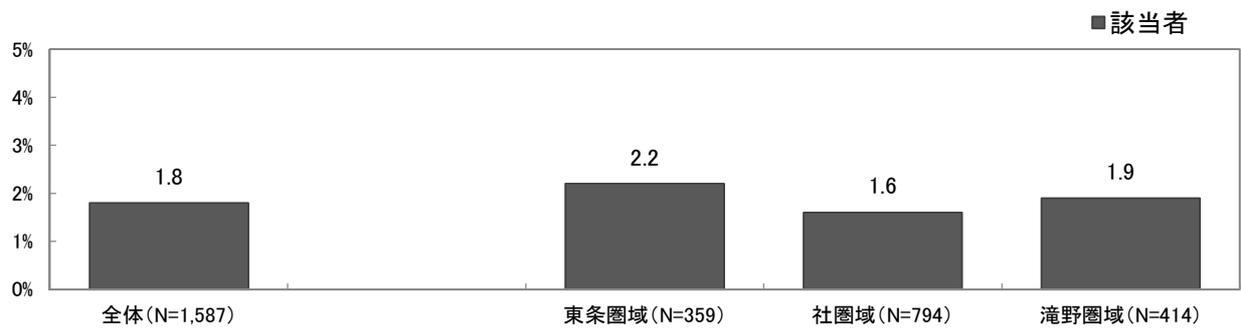
(3) 転倒

《日常生活圏域別》



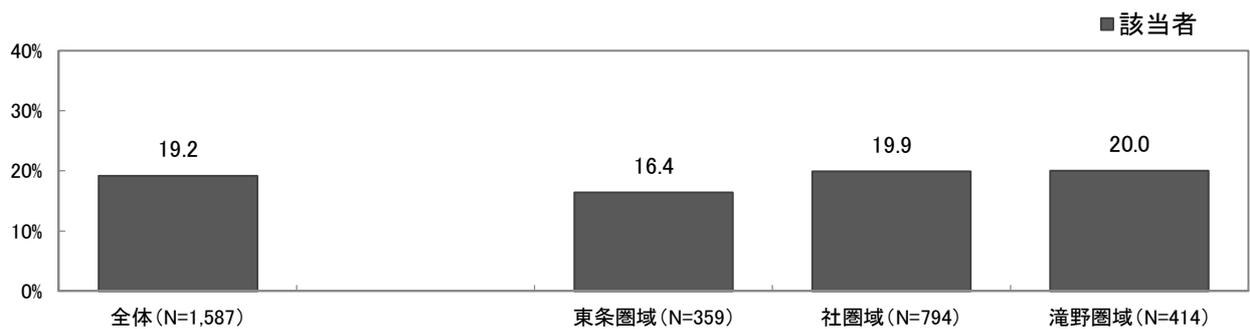
(4) 栄養

《日常生活圏域別》



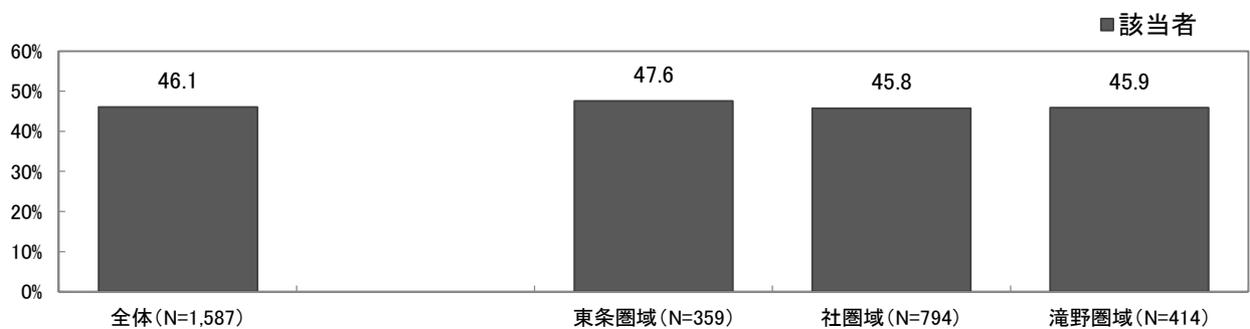
(5) 口腔

《日常生活圏域別》



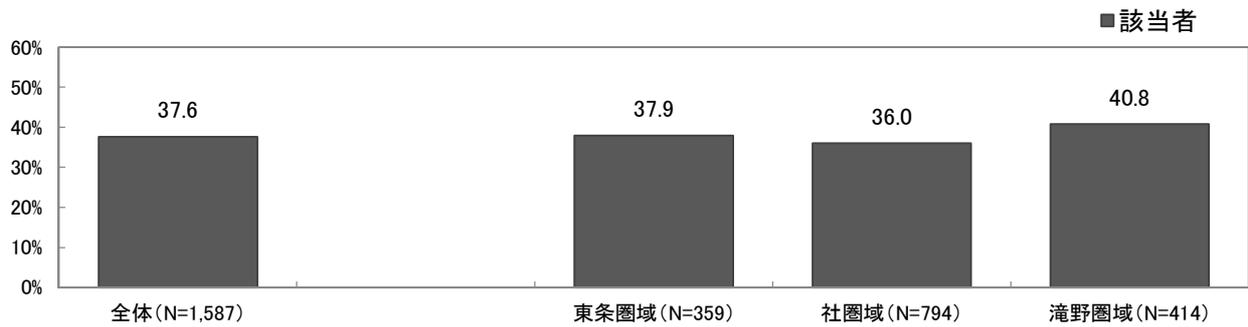
(6) 認知

《日常生活圏域別》



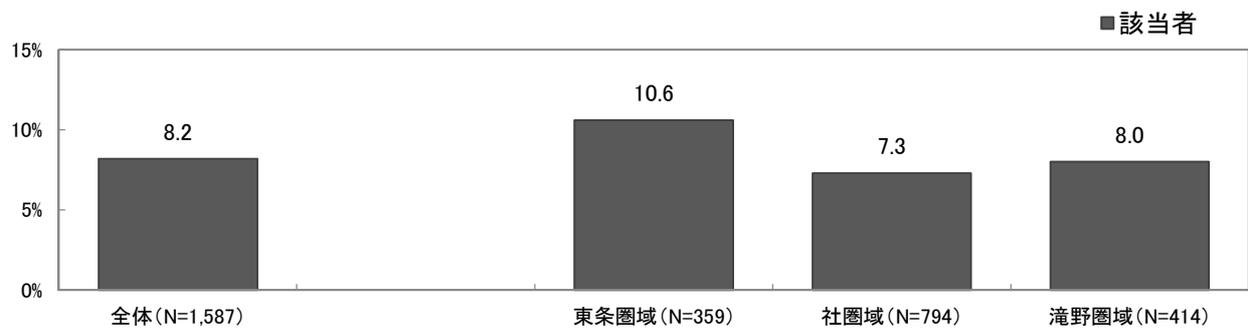
(7) うつ

《日常生活圏域別》



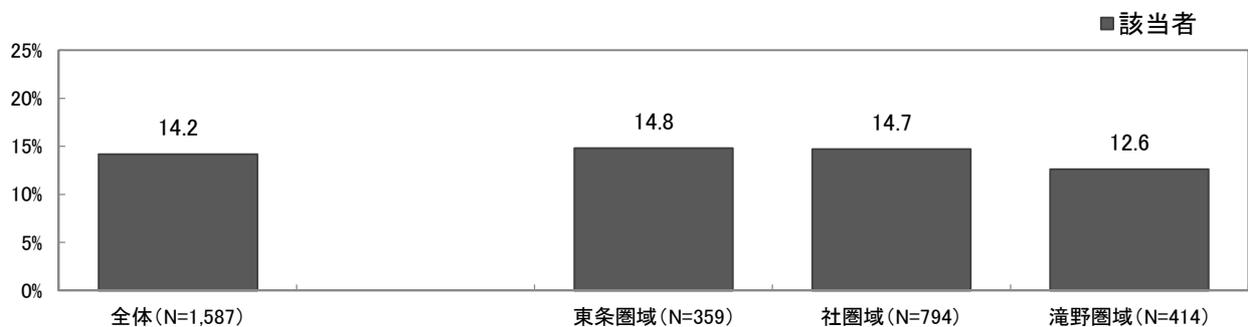
(8) 手段的自立度 (IADL)

《日常生活圏域別》



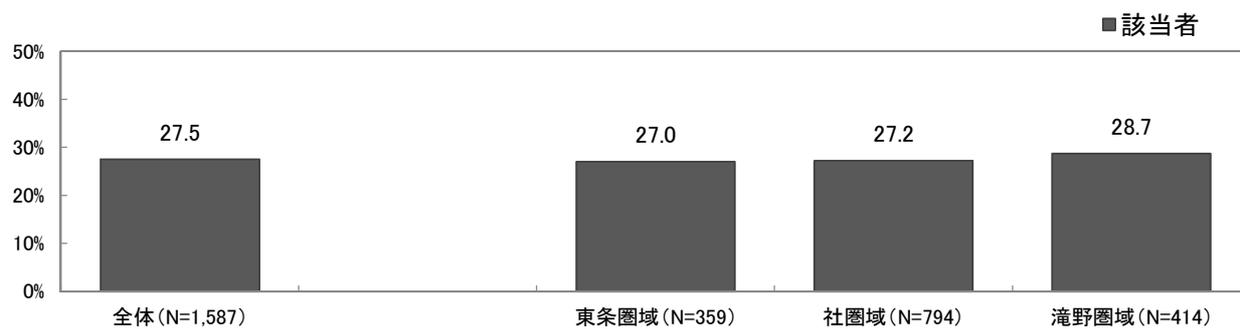
(9) 知的能動性

《日常生活圏域別》



(10) 社会的役割

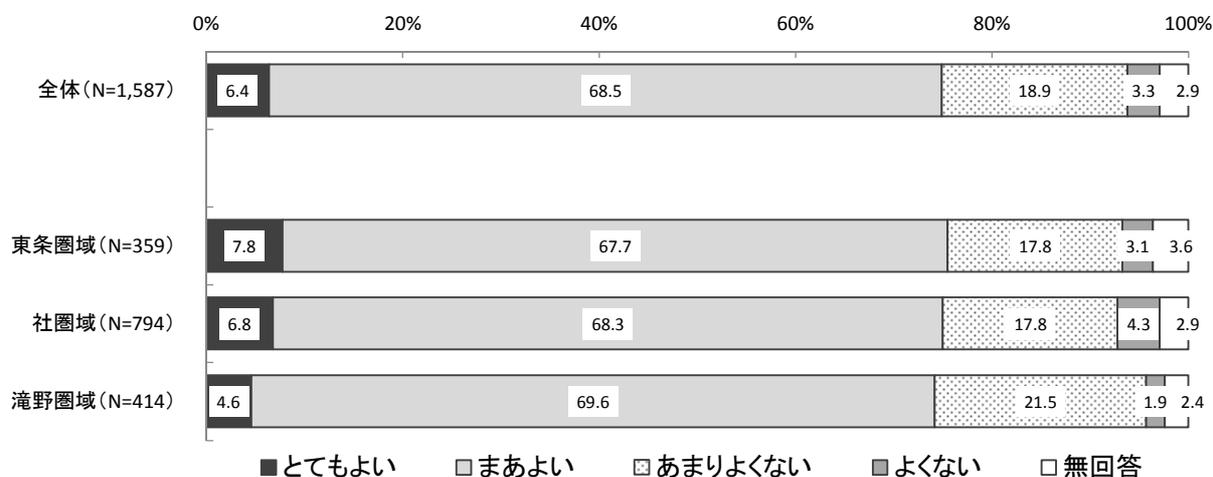
《日常生活圏域別》



4 健康について

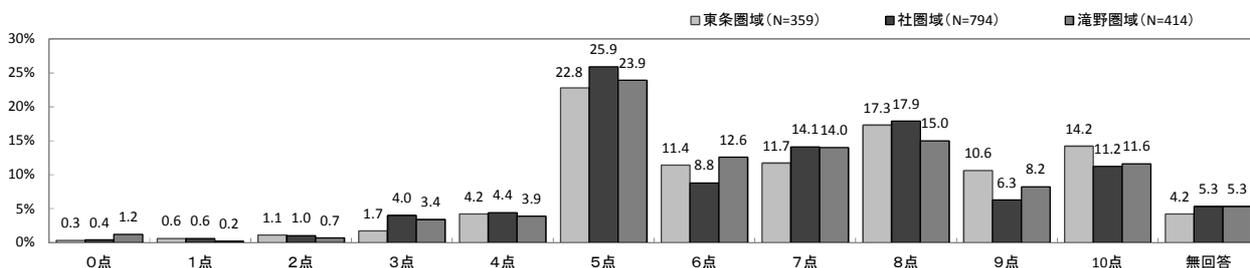
(1) 健康状態

《日常生活圏域別》



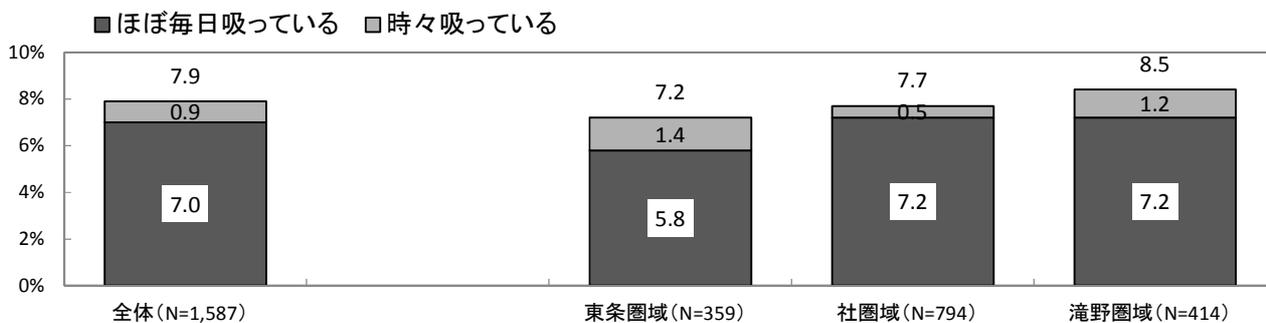
(2) 幸せの程度

《日常生活圏域別》



(3) 喫煙率

《日常生活圏域別》

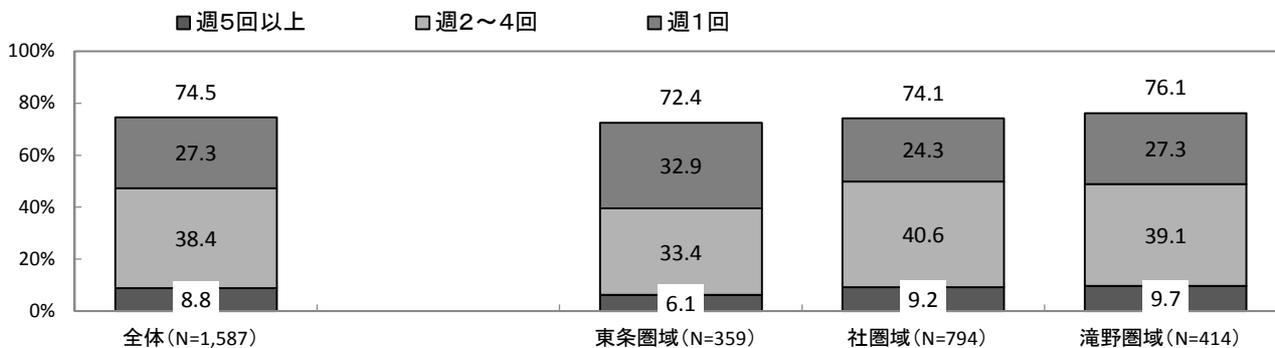


5 からだを動かすことについて

(1) 目的別の外出頻度

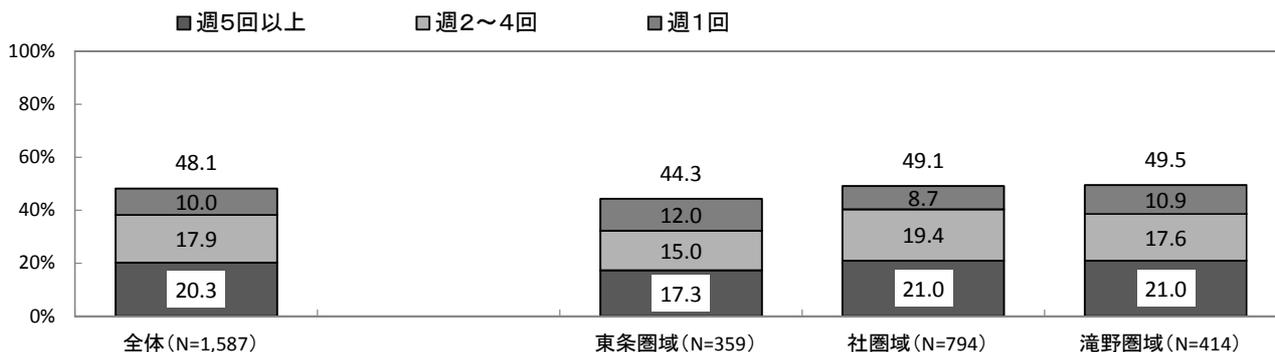
① 買い物

《日常生活圏域別》



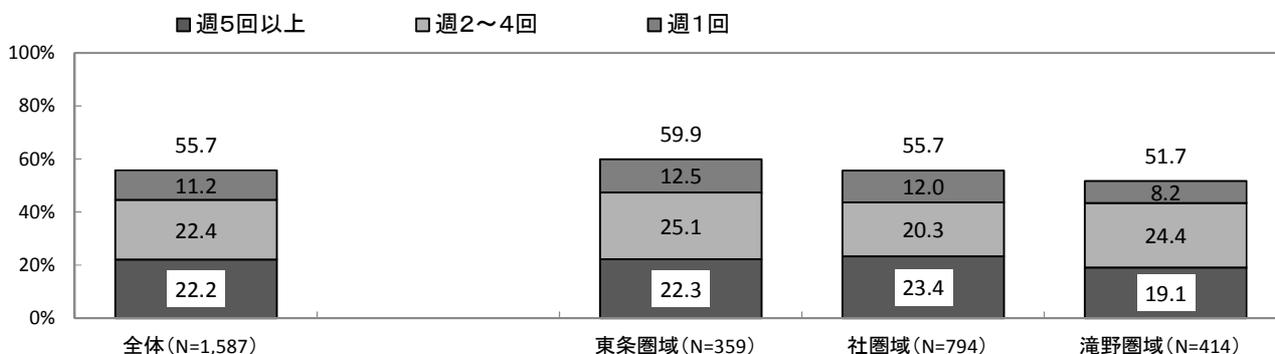
② 散歩

《日常生活圏域別》



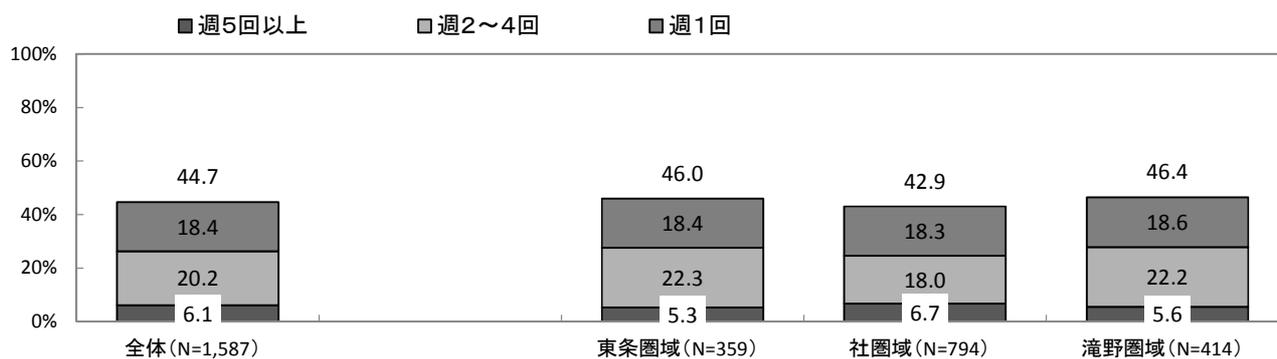
③ 仕事（農作業含む）

《日常生活圏域別》



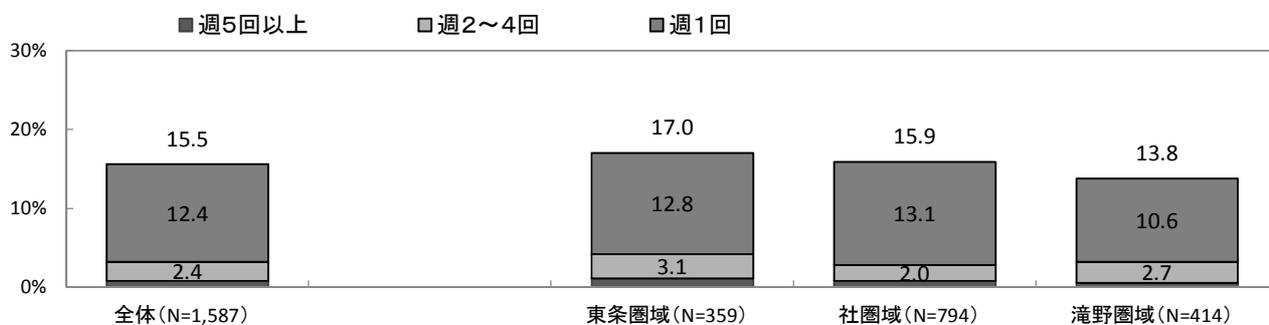
④趣味

《日常生活圏域別》



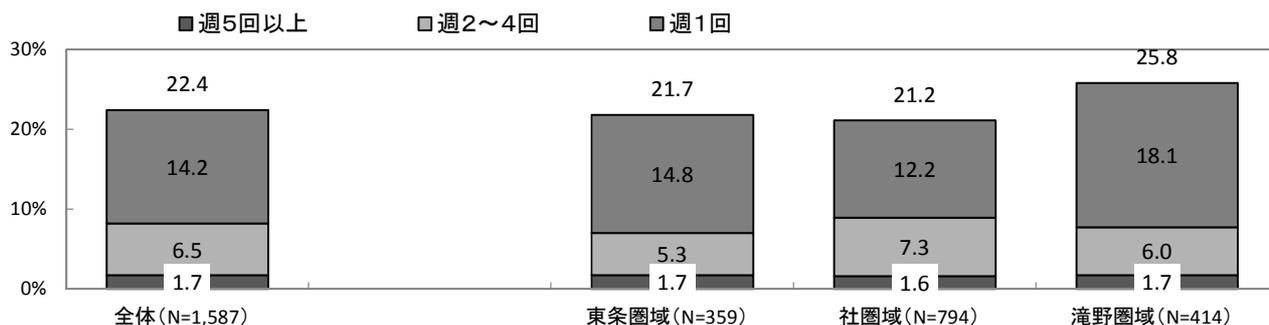
⑤まちかど体操や物忘れ予防カフェ

《日常生活圏域別》



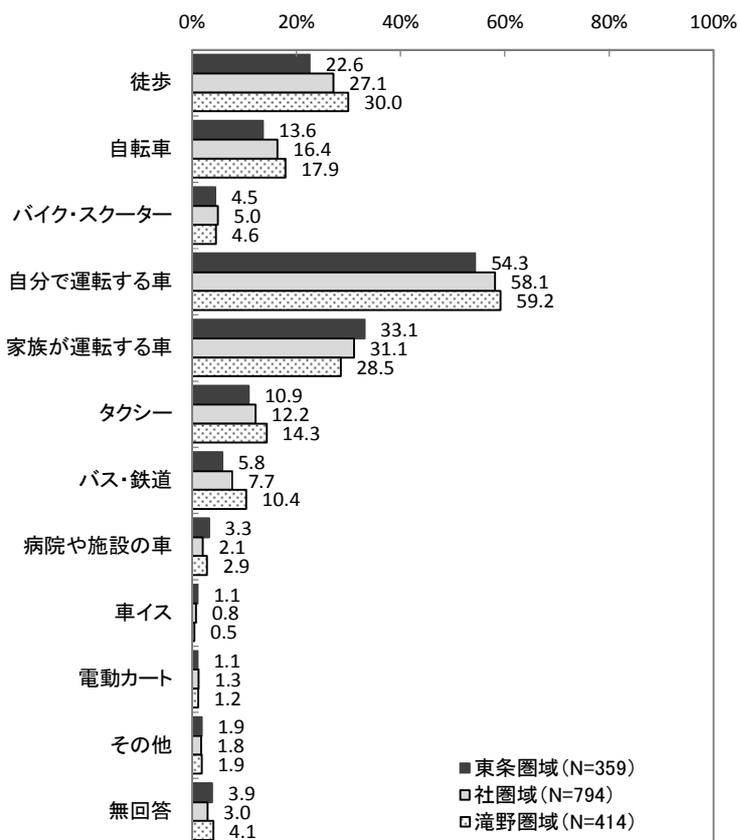
⑥通院・通所

《日常生活圏域別》



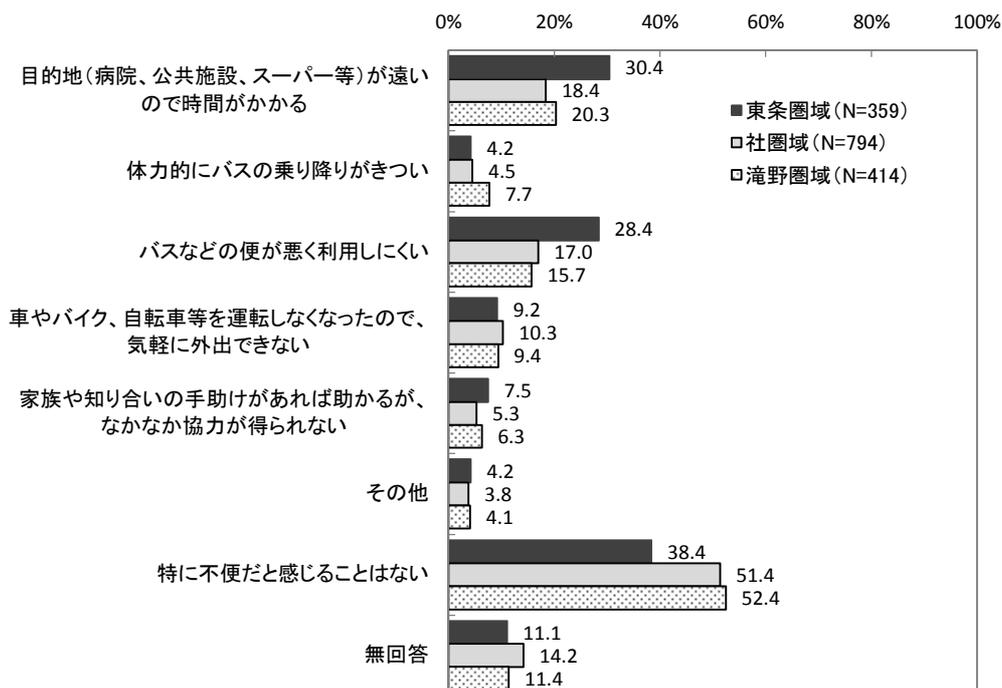
(2) 外出する際の移動手段

《日常生活圏域別》



(3) 外出する際に、不便だと感じること

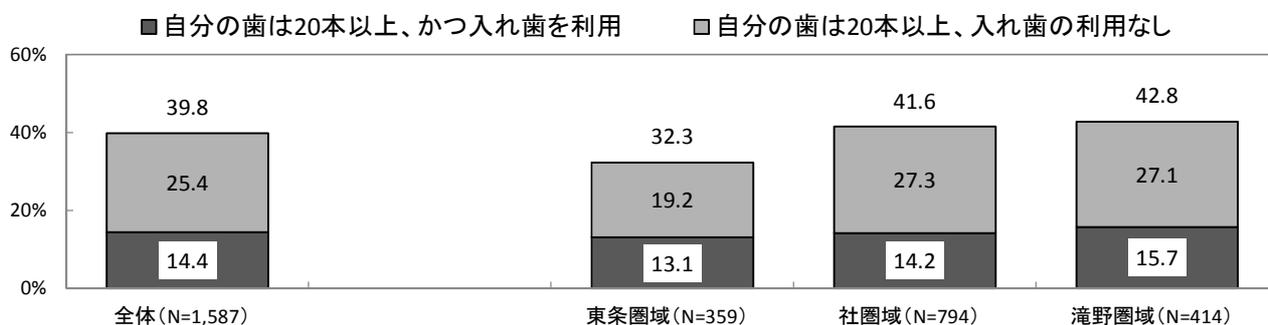
《日常生活圏域別》



6 食べることについて

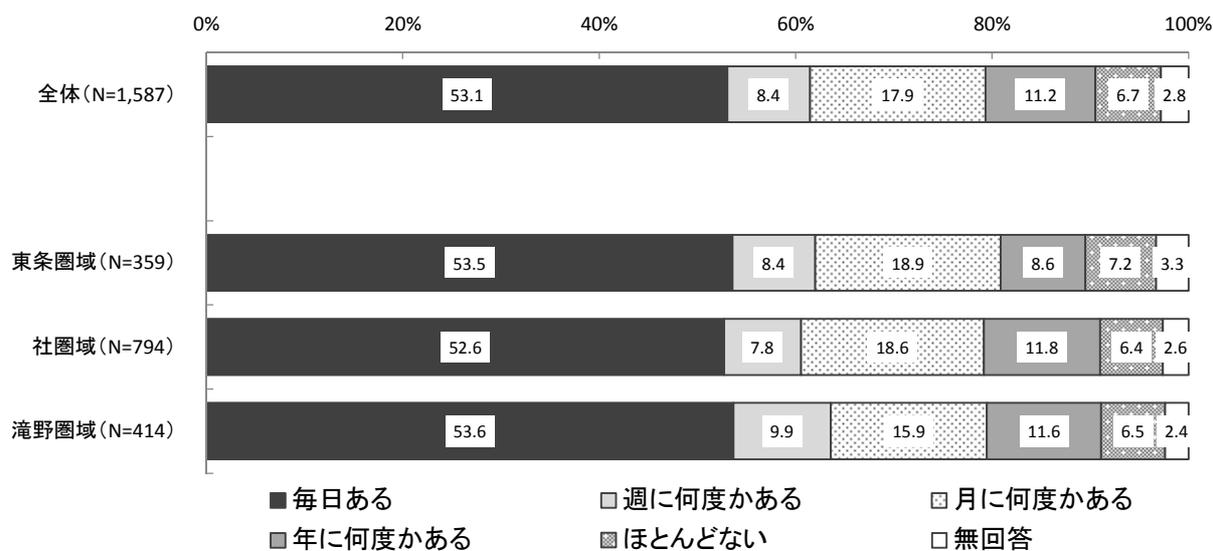
(1) 自分の歯が20本以上ある人の割合

《日常生活圏域別》



(2) 誰かと食事をとる機会

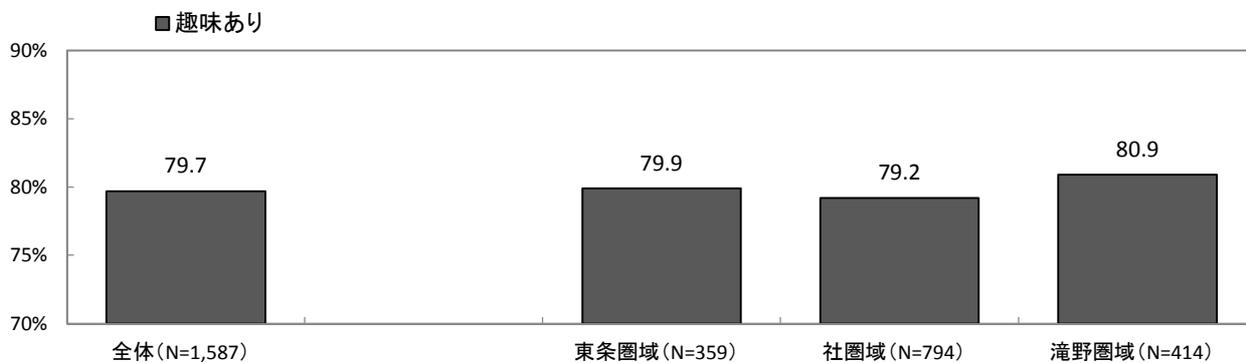
《日常生活圏域別》



7 毎日の生活について

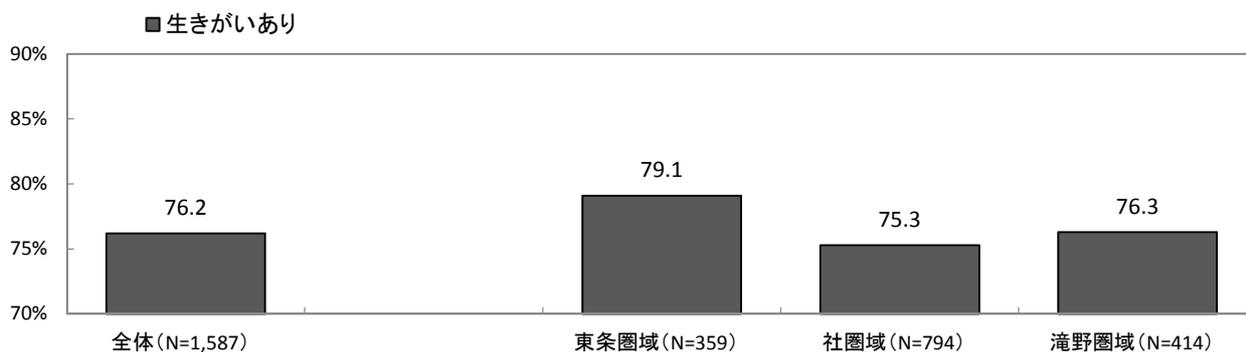
(1) 趣味がある人の割合

《日常生活圏域別》



(2) 生きがいがある人の割合

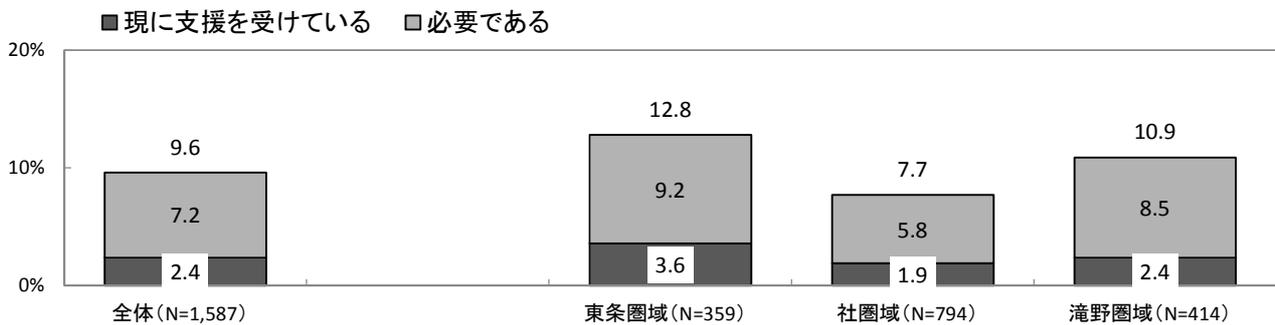
《日常生活圏域別》



(3) 外部の支援が必要だと感じること

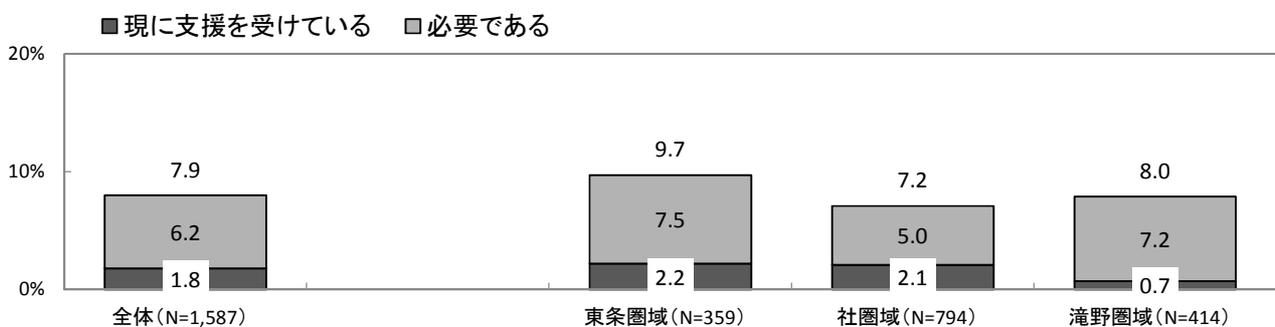
① 買い物

《日常生活圏域別》



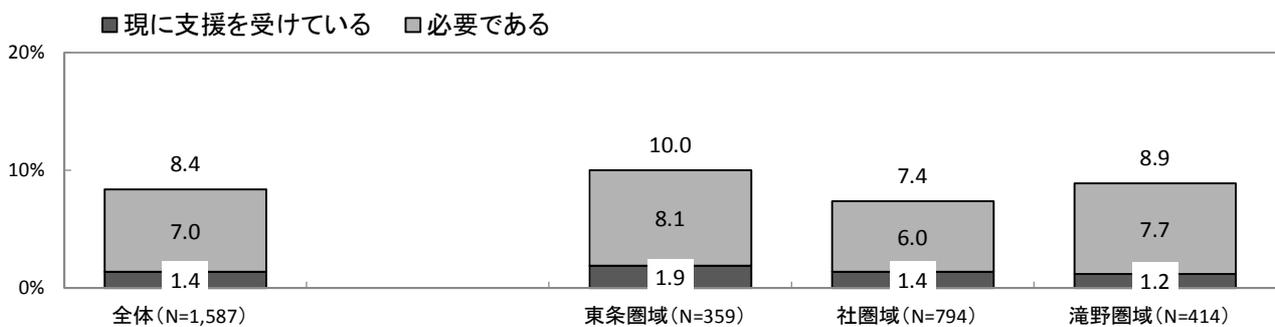
② ごみ出し

《日常生活圏域別》



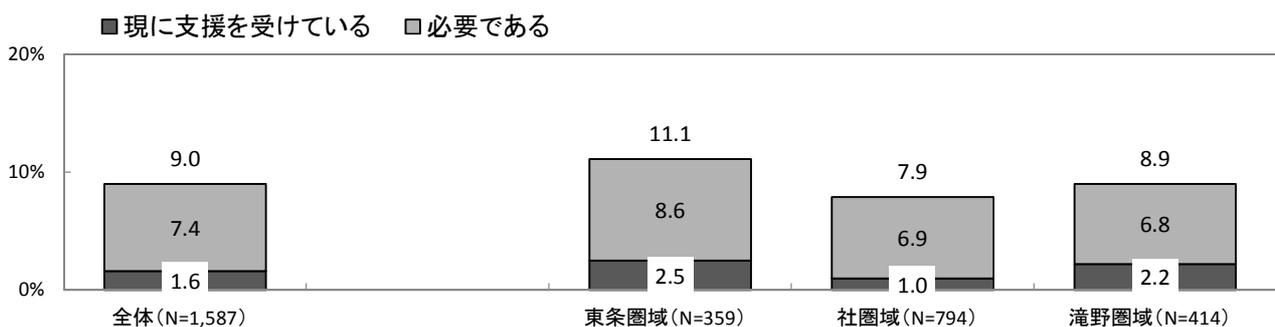
③ 食事を作ること

《日常生活圏域別》



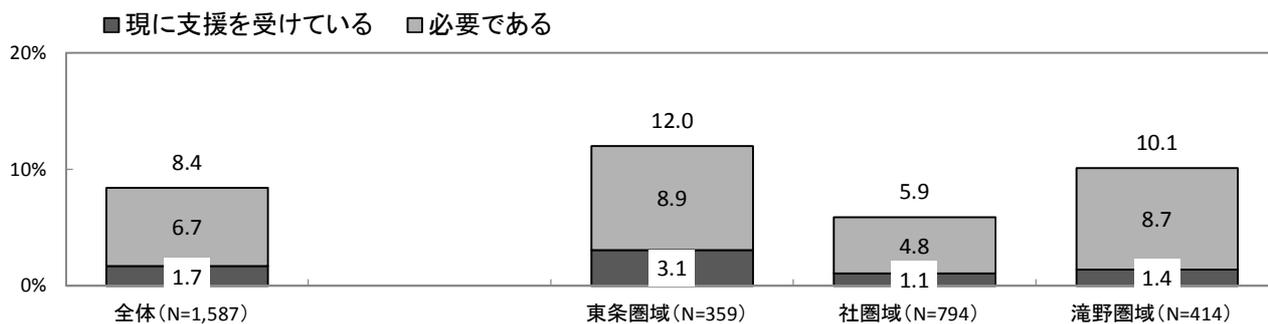
④ 居室の掃除

《日常生活圏域別》



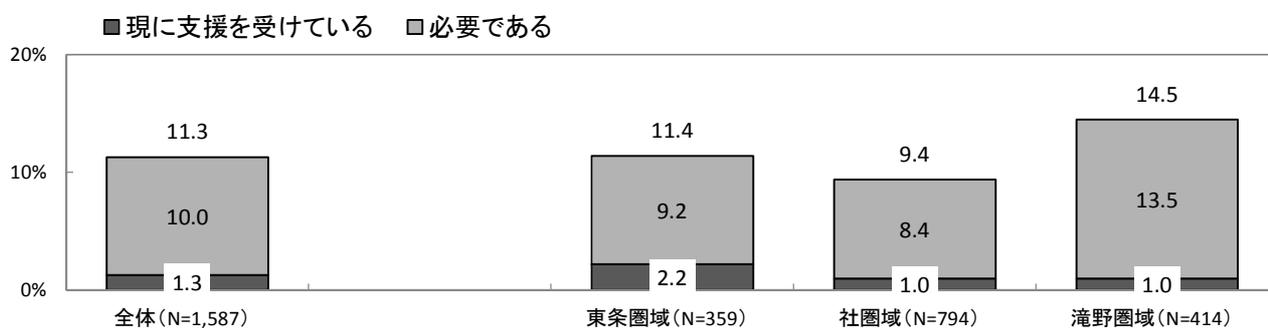
⑤外出支援（散歩や受診の付き添い等）

《日常生活圏域別》



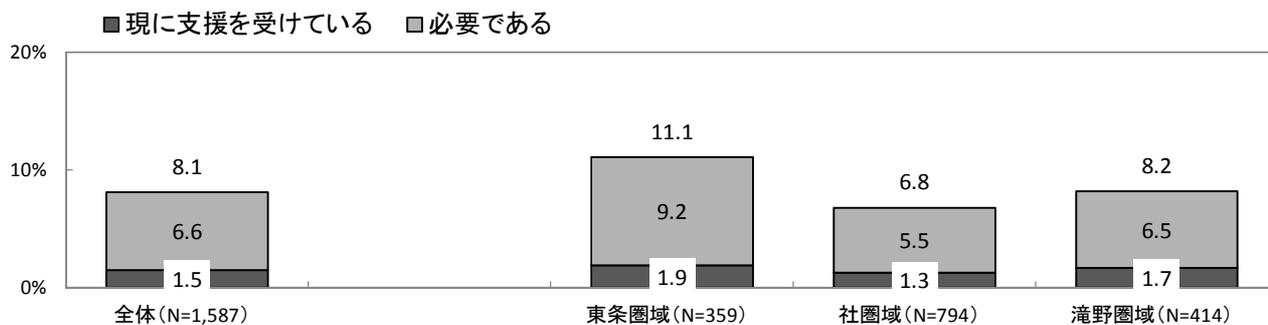
⑥話し相手

《日常生活圏域別》



⑦移送支援（送迎や車いす対応車の貸し出し）

《日常生活圏域別》

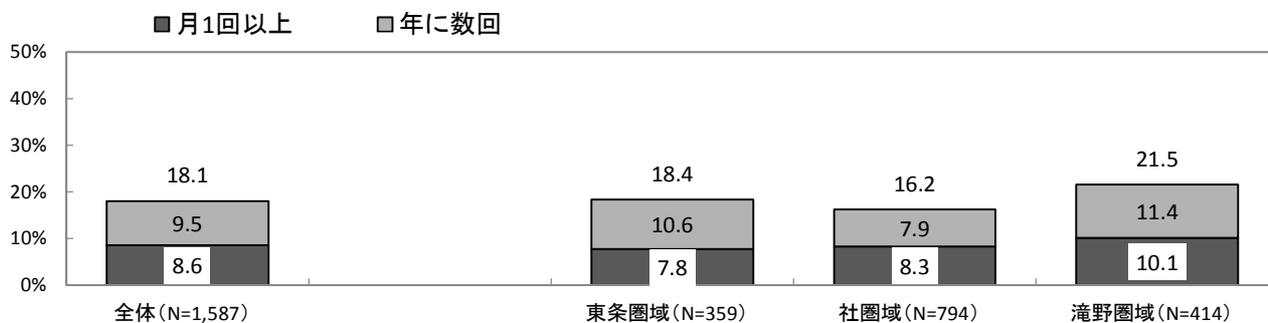


8 地域での活動について

(1) 会・グループ等への参加頻度

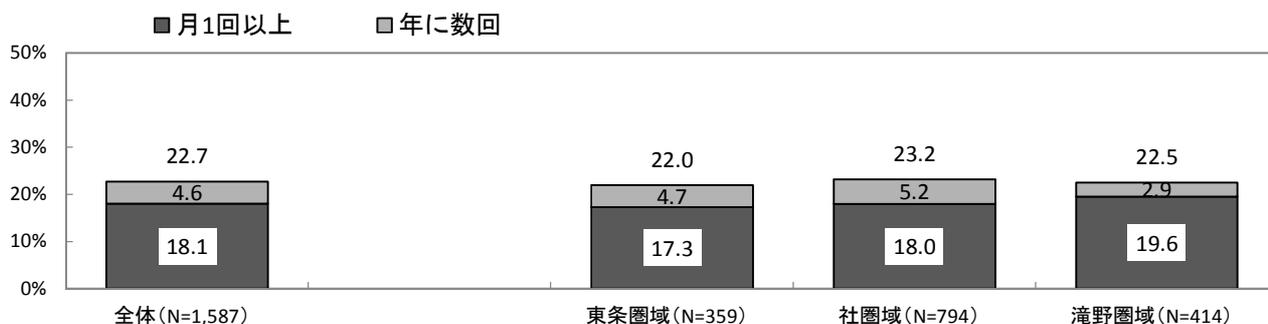
① ボランティアのグループ

《日常生活圏域別》



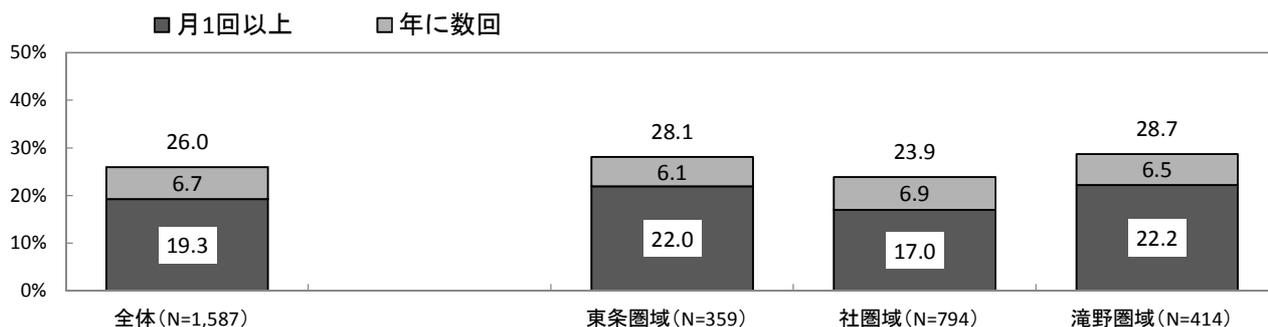
② スポーツ関係のグループ

《日常生活圏域別》



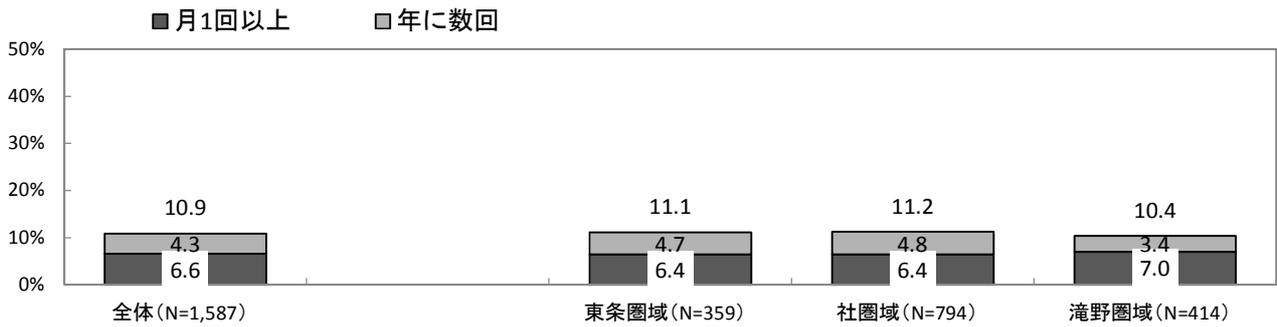
③ 趣味関係のグループ

《日常生活圏域別》



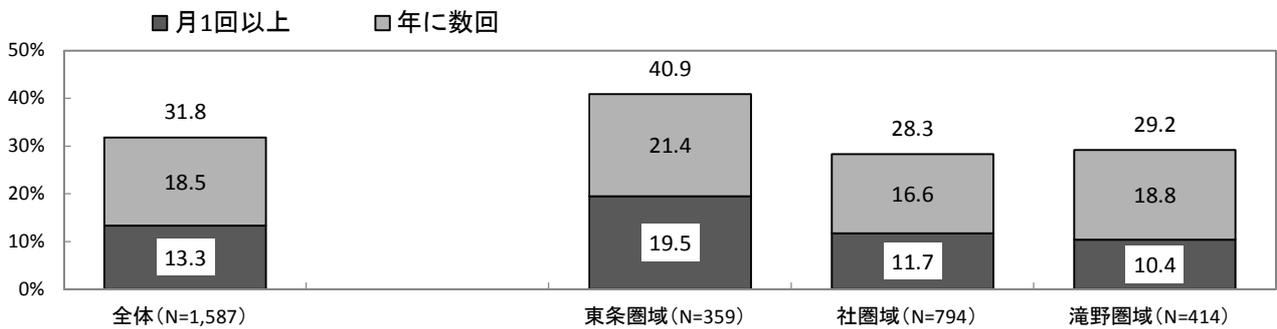
④学習・教養サークル

《日常生活圏域別》



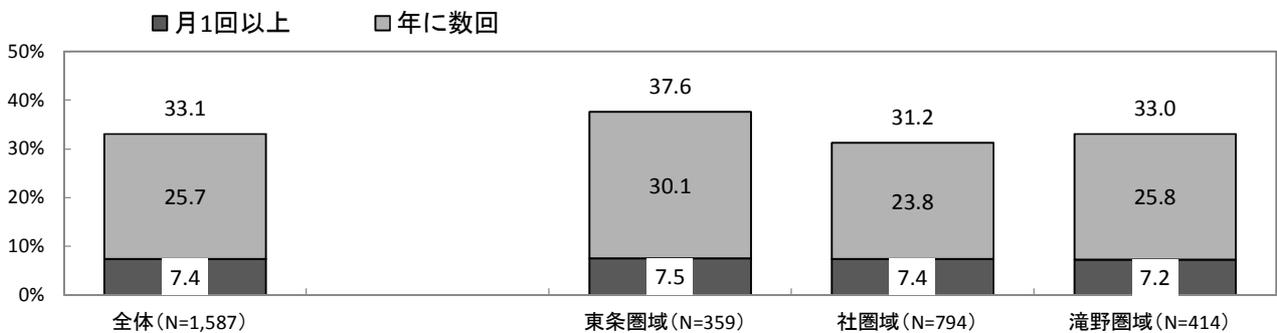
⑤老人クラブの活動

《日常生活圏域別》



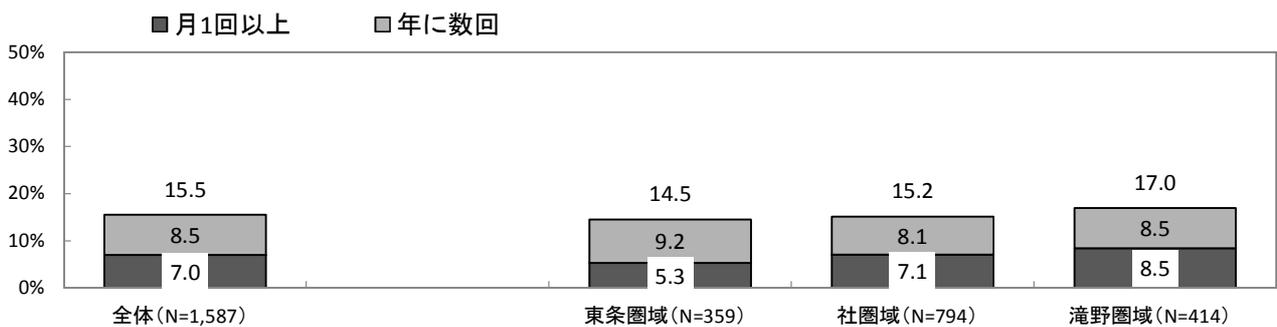
⑥町内会・自治会活動

《日常生活圏域別》



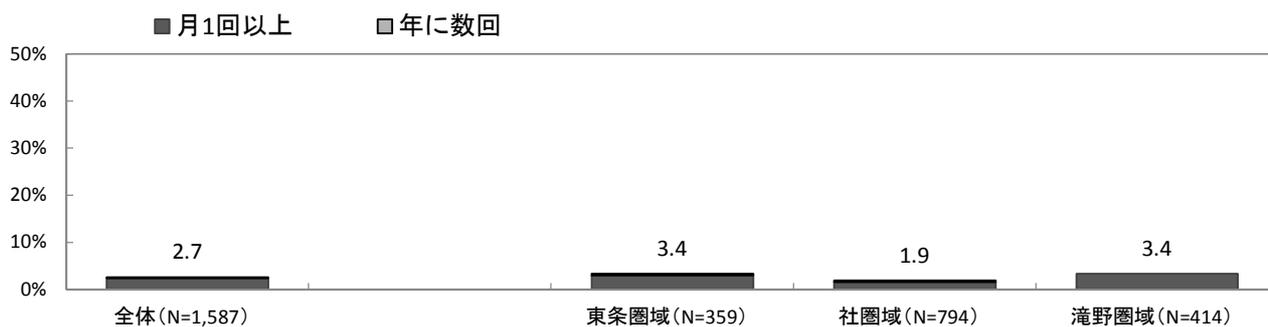
⑦サロン等の身近に集う場

《日常生活圏域別》



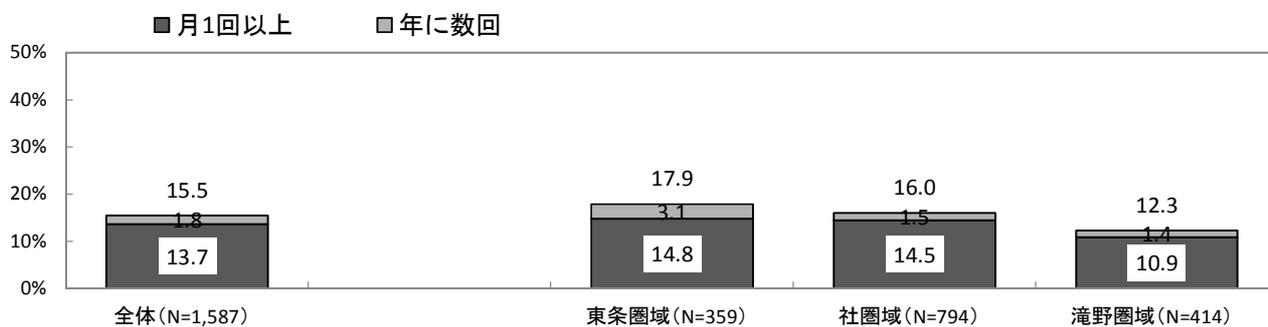
⑧シルバー人材センターの仕事

《日常生活圏域別》



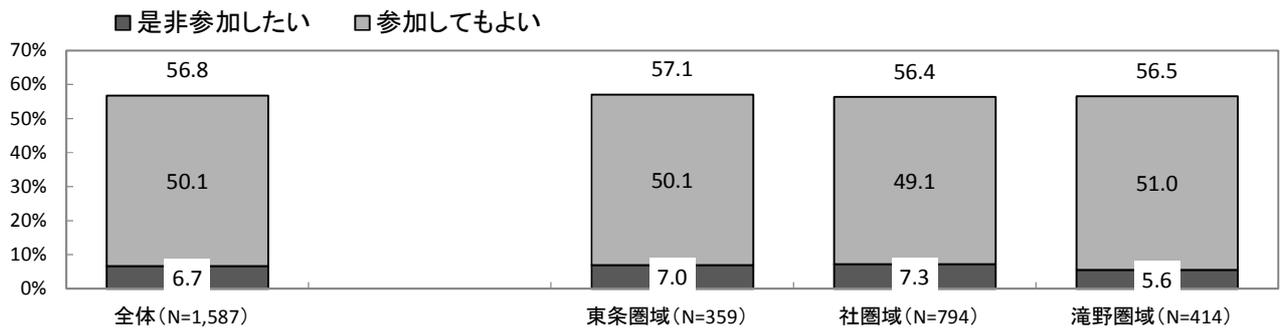
⑨その他収入のある仕事

《日常生活圏域別》



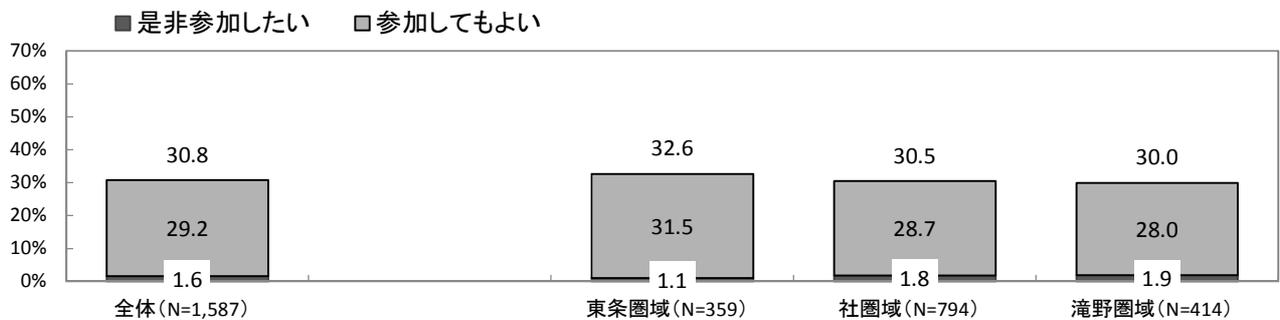
(2) 地域住民の有志による地域づくり活動への参加意向（参加者として）

《日常生活圏域別》



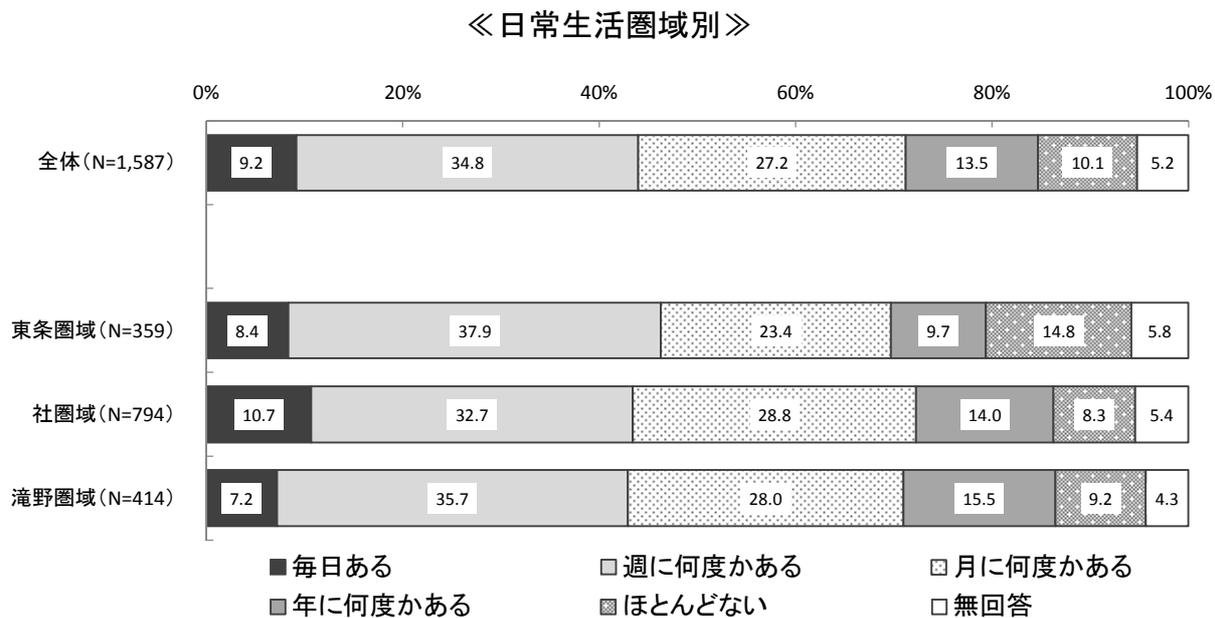
(3) 地域住民の有志による地域づくり活動への参加意向（企画・運営側として）

《日常生活圏域別》



9 たすけあいについて

(1) 友人・知人と会う頻度

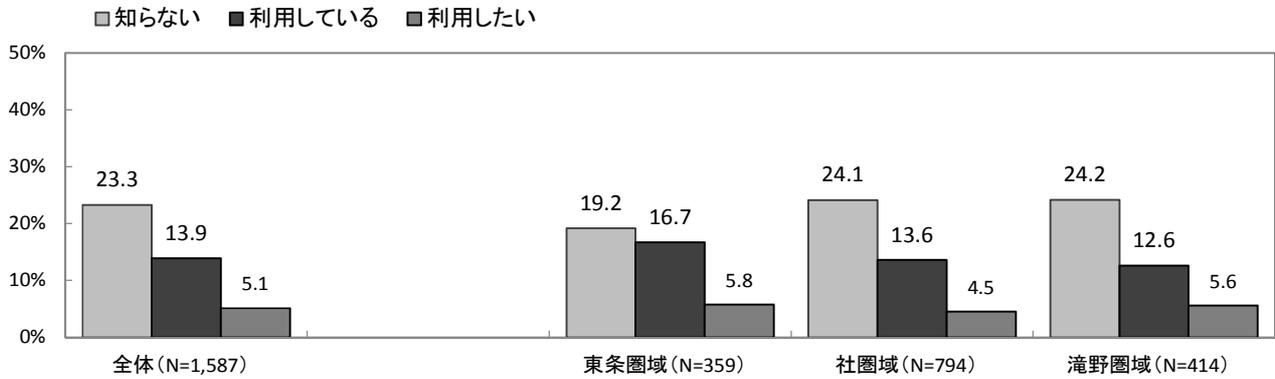


10 市で実施している主な介護予防・生活支援・福祉サービスについて

(1) 介護予防・生活支援サービスの利用状況

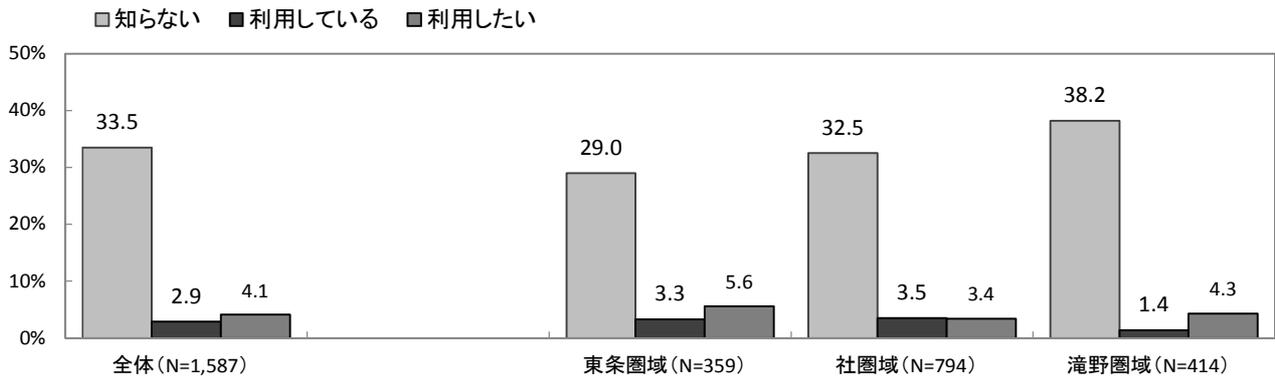
①かとうまちかど体操教室

《日常生活圏域別》



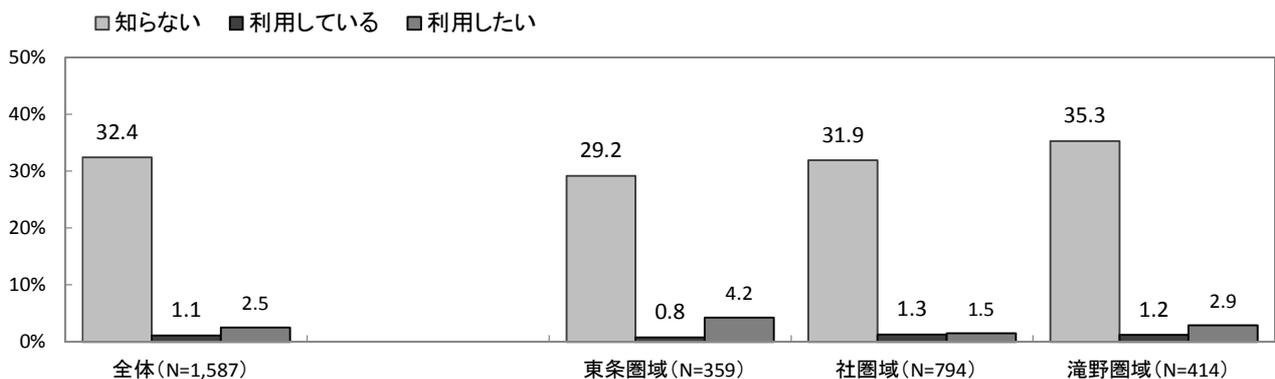
②物忘れ予防カフェ

《日常生活圏域別》



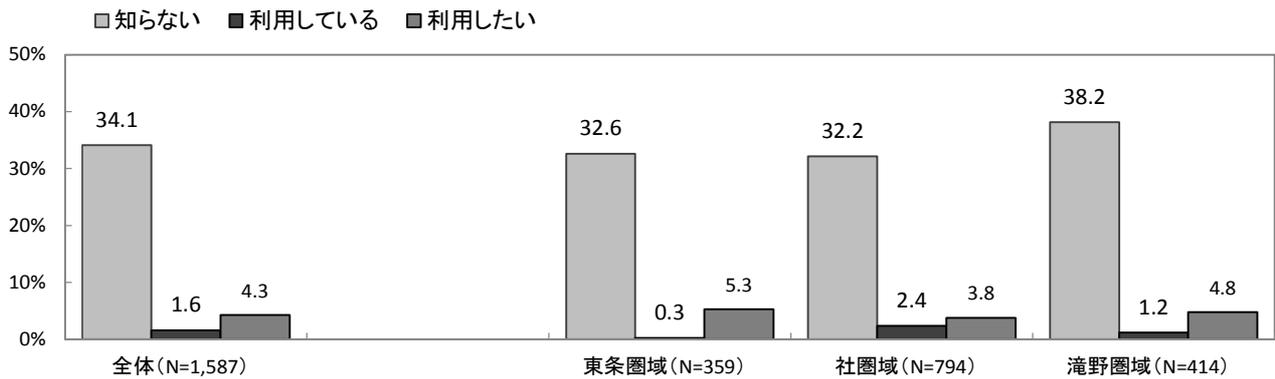
③かとう介護ファミリーサポートセンター

《日常生活圏域別》



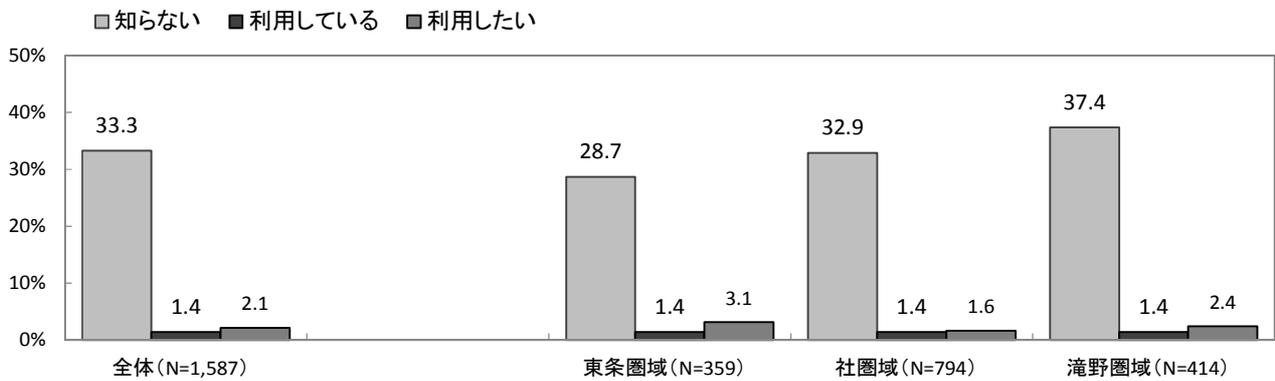
④物忘れチェック

《日常生活圏域別》



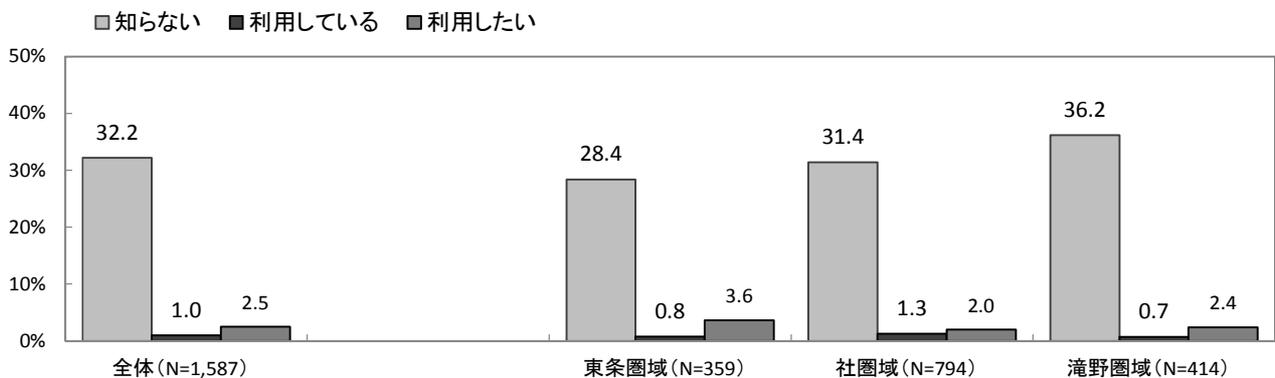
⑤元気応援通所事業

《日常生活圏域別》



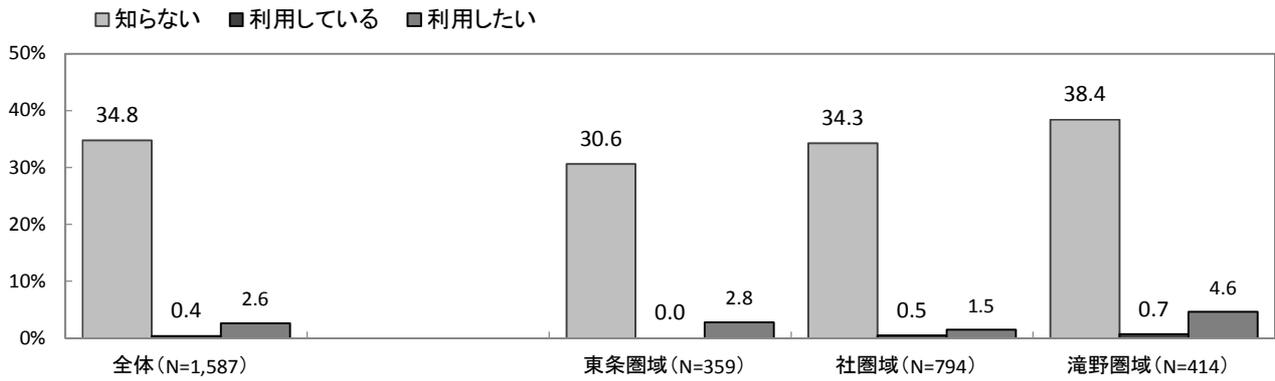
⑥ミニデイサービス

《日常生活圏域別》



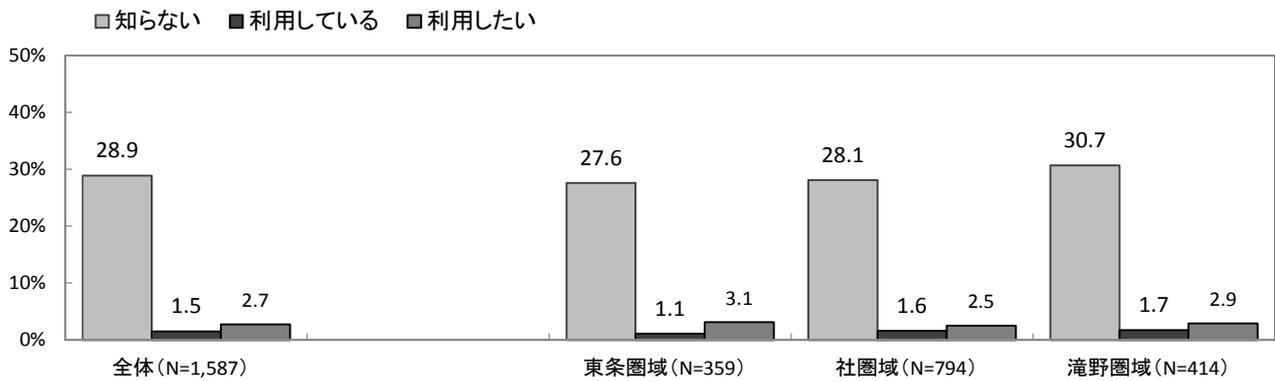
⑦元気になるうデイ

《日常生活圏域別》



⑧訪問型介護予防事業

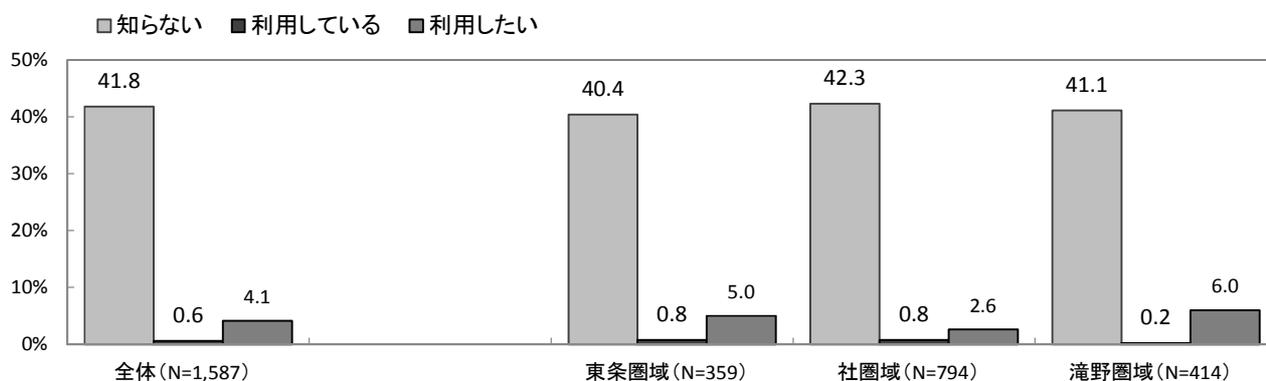
《日常生活圏域別》



(2) 福祉サービスの利用状況

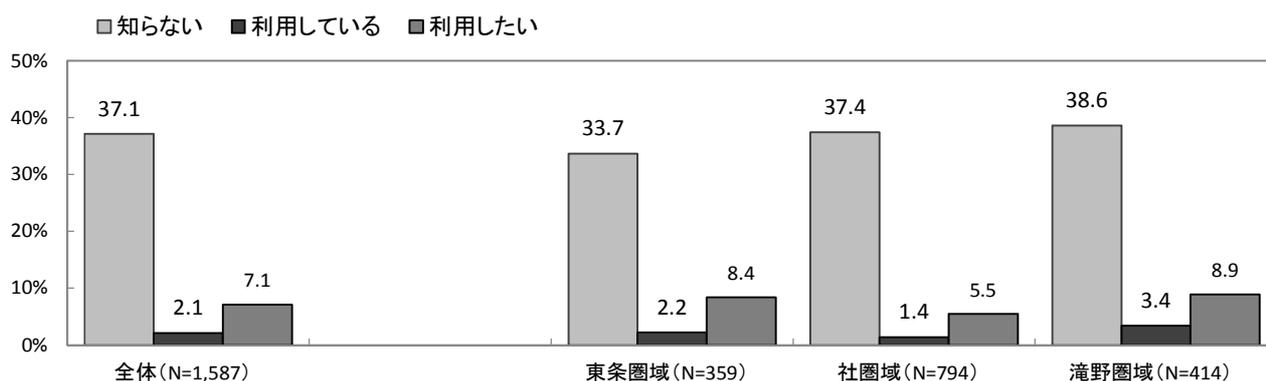
①権利擁護事業

《日常生活圏域別》



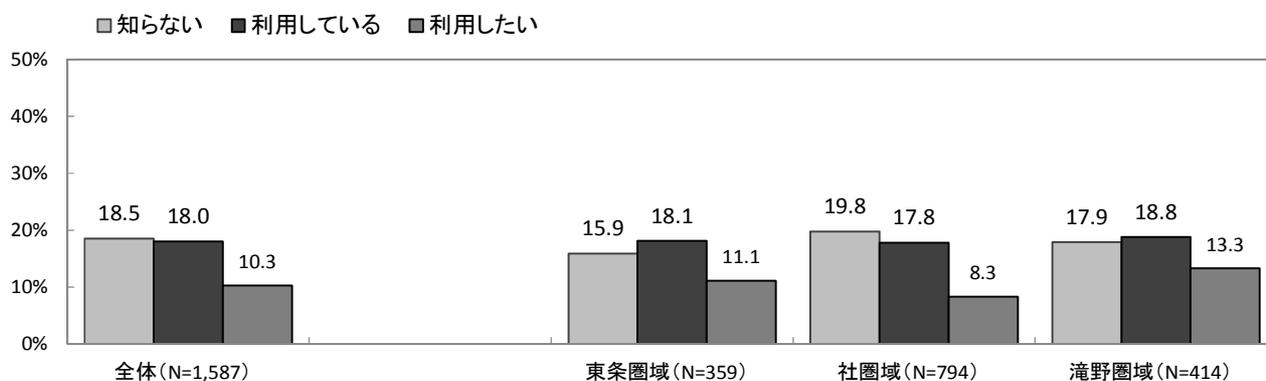
②人生 80 年いきいき住宅助成

《日常生活圏域別》



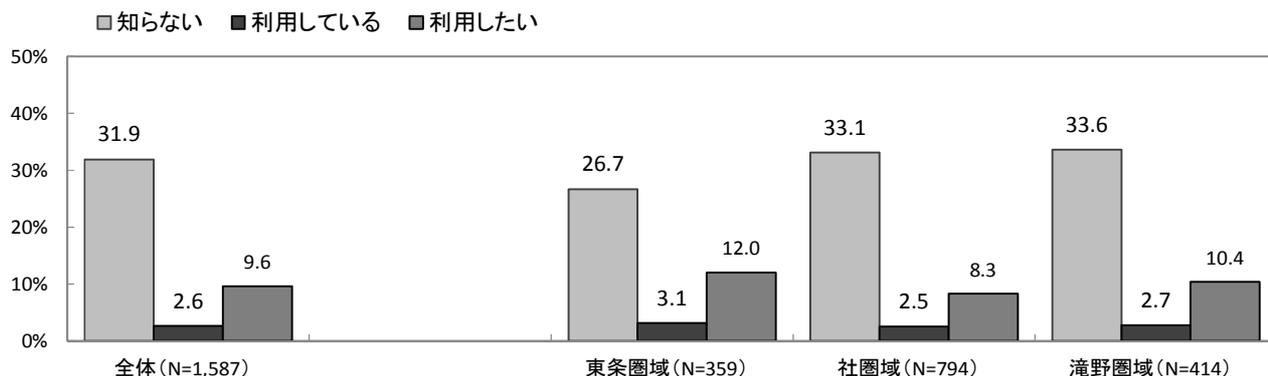
③福祉タクシー利用券助成事業

《日常生活圏域別》



④はり・灸・あんま・マッサージ・指圧施術費助成事業

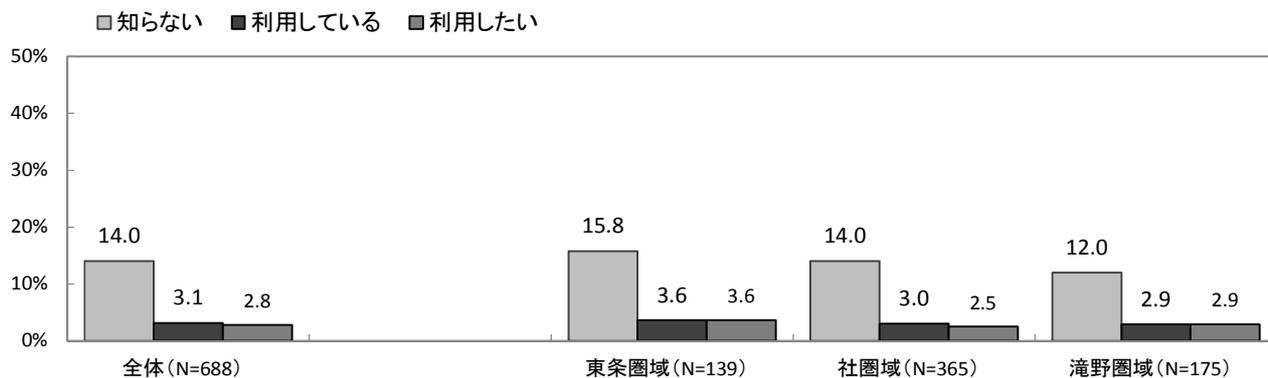
《日常生活圏域別》



(3) ひとり暮らし・高齢世帯対象のサービスの利用状況

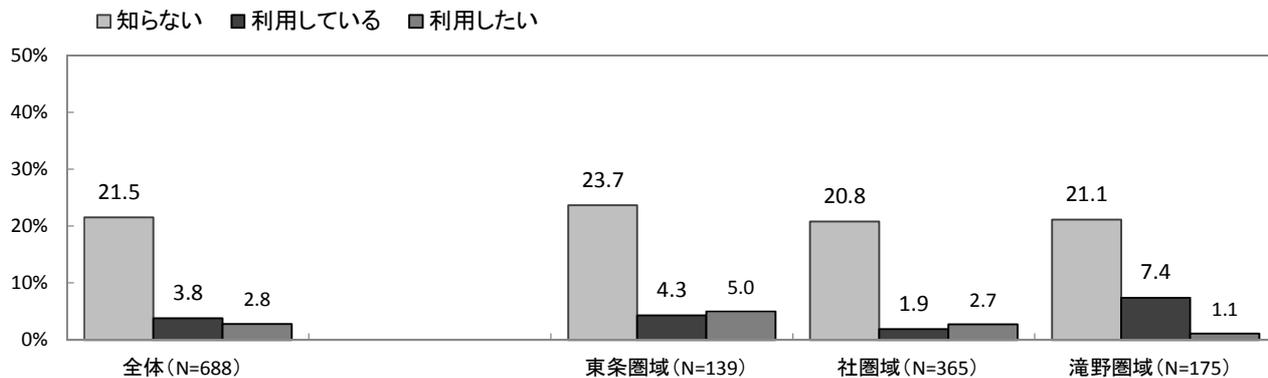
①給食サービス

《日常生活圏域別》



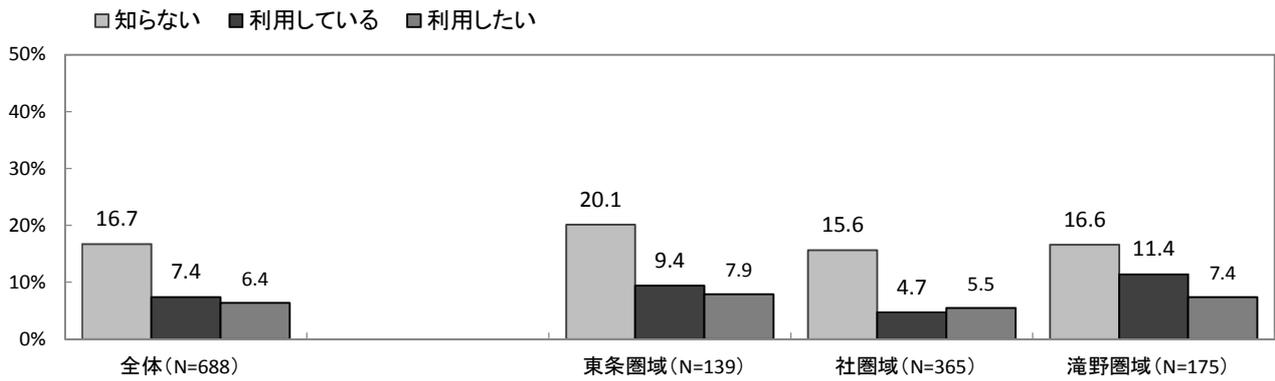
②日常生活用具給付事業

《日常生活圏域別》



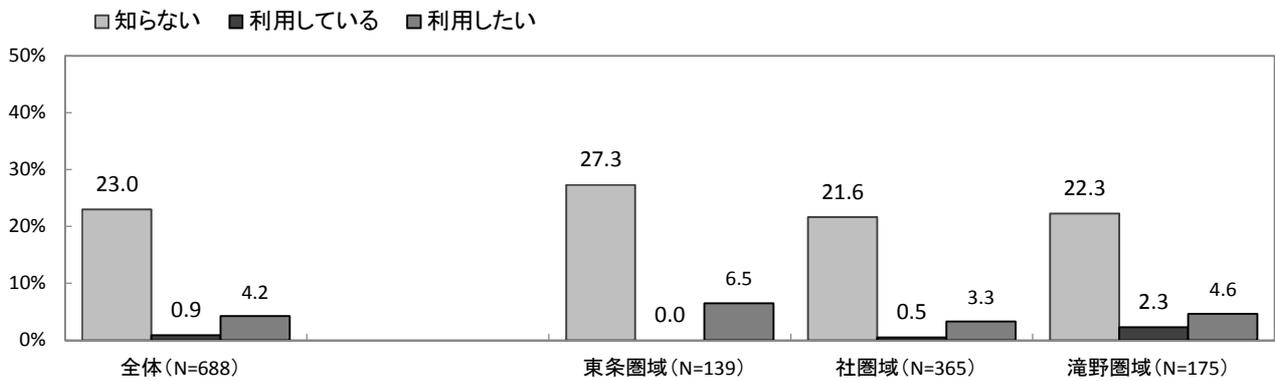
③緊急通報システム事業

《日常生活圏域別》



④おうちで安心見守り事業

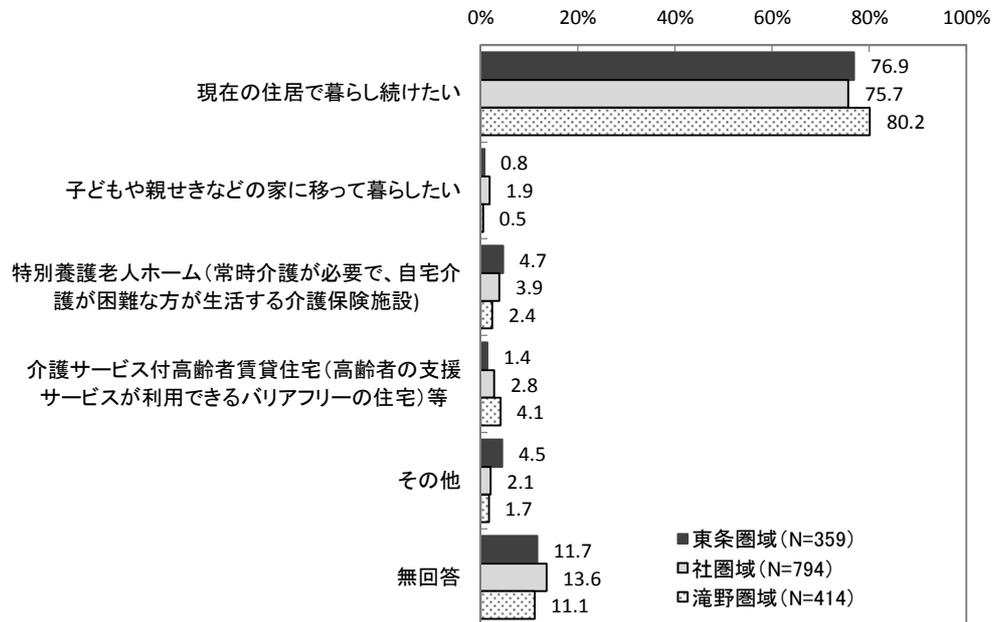
《日常生活圏域別》



11 今後の生活と福祉や介護保険制度について

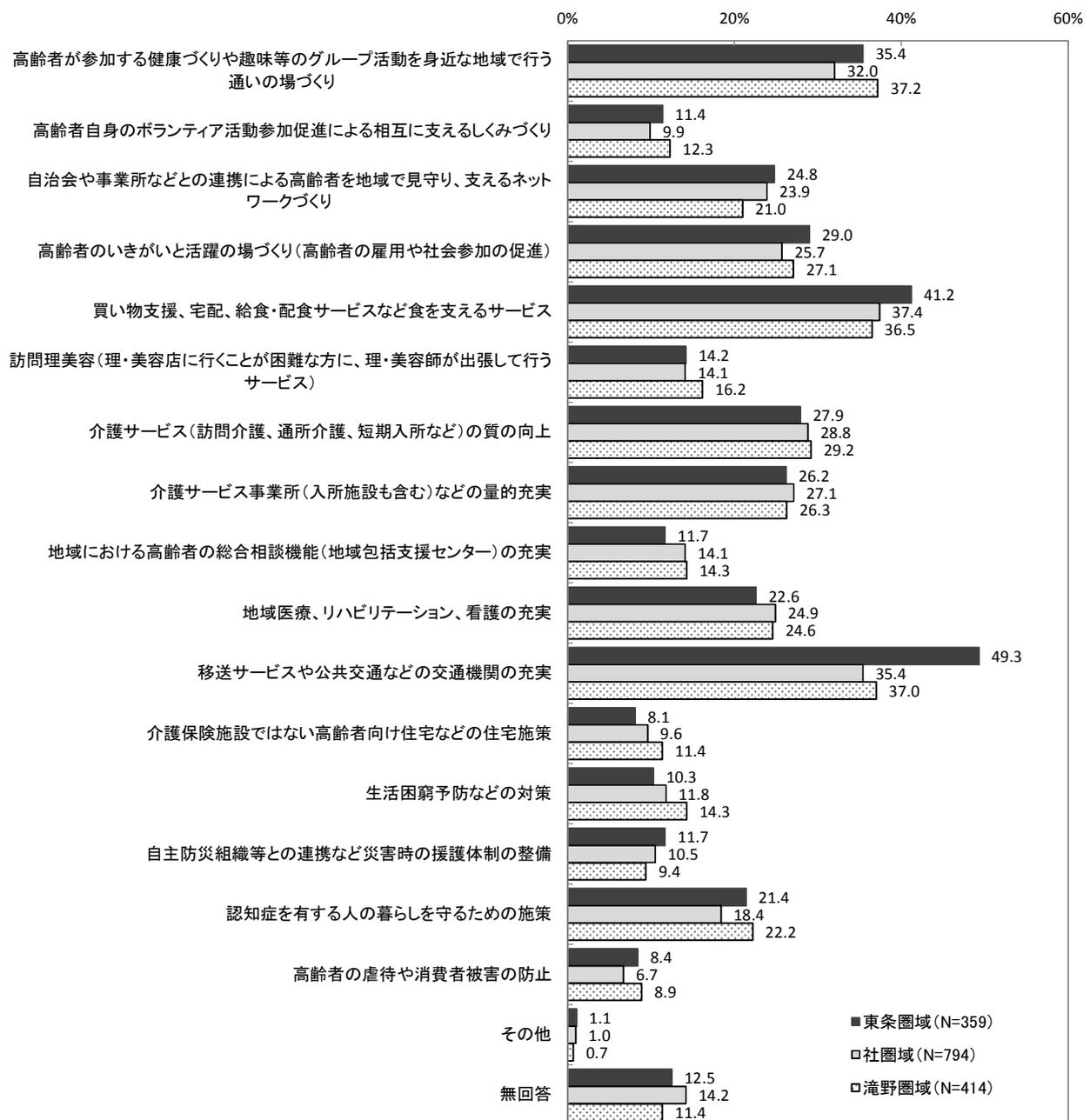
(1) 今後の住まいの希望

《日常生活圏域別》



(2) 加東市において、特に重要になると思う施策

《日常生活圏域別》



12 日常生活圏域別にみた一般高齢者・要支援者の調査結果のまとめ、考察

(1) 日常生活圏域別の状況

	東条圏域	社圏域	滝野圏域
前期高齢者：後期高齢者	(44%：54%) 後期高齢者が多い	(52%：47%) 前期高齢者が多い	(50%：50%) 前期・後期高齢者が半数ずつ
要支援者	(11.7%) 要支援者が最も多い	(9.3%) 要支援者が最も少ない	(10.4%)
家族構成 一人暮らし：高齢世帯：2世帯	(15%：24%：27%) 一人暮らしがやや多い	(13%：33%：24%) 高齢世帯が多い	(14%：29%：28%) 2世帯がやや多い
主な介助者	子が多い	配偶者が多い	配偶者と子が多い
何らかの介護・介助が必要な人	(18.7%)	(20.2%) 介護・介助が必要な人が多い	(20.3%) 介護・介助が必要な人が多い
リスク判定該当者の割合が最も高い圏域	運動器 閉じこもり(特に多い) 転倒 栄養 認知 IADL 知的能動性		口腔 うつ 社会的役割
自分の歯が20本以上ある人	(32.3%) 自分の歯が20本以上ある人が少ない	(41.6%)	(42.8%)
健康状態 「あまりよくない」「よくない」	(20.9%)	(22.0%)	(23.4%) 健康状態がよくないと感じる人が多い
幸せの程度8点以上 8点：9点：10点	(42.1%) (17%：11%：14%)	(35.4%) (18%：6%：11%)	(34.8%) (15%：8%：12%) 幸せの程度が高い人が少ない
喫煙率	(7.2%)	(7.7%)	(8.5%) 喫煙者がやや多い
週1回以上、外出している人(買い物等)	買い物、散歩 ←-----> 少ない		-----> 多い
週1回以上、外出している人(仕事等)	仕事(農作業含む)、まちかど体操や物忘れ予防カフェ ←-----> 多い		-----> 少ない
週1回以上、外出している人(趣味)	(46.0%)	(42.9%) 趣味で外出する人が少ない	(46.4%)
週1回以上、外出している人(通院・通所)	(21.7%)	(21.2%)	(25.8%) 通院・通所している人が多い
外出する際、不便に感じる事	「目的地まで時間がかかる」「バスなどの便が悪い」との回答が多い		

	東条圏域	社圏域	滝野圏域
食事をとむにする機会 「年に何度か」「ほとんどない」	(15.9%)	(18.3%) 共食機会がない人が多い	(18.1%) 共食機会がない人が多い
生きがいがある人	(79.1%)	(75.3%) 他の圏域と比べて生きがいがある人が少ない	(76.3%)
外部の支援を現に受けているまたは必要であると感じる人の割合が最も多い圏域	買い物 ごみ出し 食事を作ること 居室の掃除 外出支援 移送支援		話し相手
地域での活動 (年に数回以上)	老人クラブ、町内会・自治会の参加者、収入のある仕事をしている人が多い	趣味関係のグループに参加している人が少ない	ボランティアをしている人がやや多い。 サロン等の身近に集う場に参加している人がやや多い。 収入のある仕事をしている人が少ない。
地域づくり活動への参加意向(参加者:運営側)	(57%:33%) 参加意向がやや高い	(56%:31%)	(57%:30%)
介護予防・生活支援サービスを知らない人の割合	←----- 少ない		-----> 多い
福祉サービスを知らない人の割合		多い	多い
一人暮らし・高齢世帯対象のサービスを知らない人の割合	多い		
重要になると思う施策	「移送サービスや交通機関の充実」との回答が多い		

(2) 日常生活圏域別の現状・課題

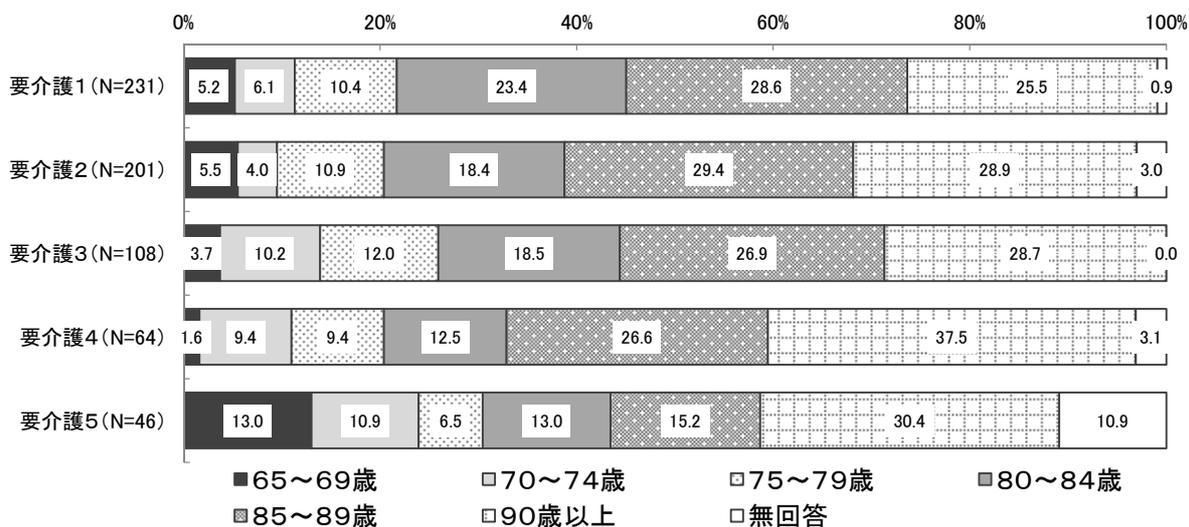
東条圏域	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク判定の該当者が多くなっていますが、要支援者や後期高齢者が多いためと考えられます。 ・リスク判定者や要支援者・後期高齢者が多いものの、健康状態がよくないと感じている人が最も少なく、何らかの介護が必要と答える人も少なくなっており、主観的な健康状態がよい人が多いことがうかがえます。さまざまな疾患の要因となる喫煙者についても最も少なくなっていました。 ・買い物や散歩で週1回以上外出する人は少なくなっていますが、仕事をしていたり、まちかど体操や物忘れ予防カフェ、老人クラブ、町内会など、人と交流する場に参加する人が多く、そのような背景から生きがいのある人が多くなっていると考えられます。 ・リスク判定で閉じこもりの傾向がある人の割合が高いことや、外出時にバスなどの便が悪い等の不便があること、移送サービス等の要望が多いことから、主に外出支援に対する取り組みが必要であると考えられます。 ・また、外部の支援を必要とする人が多いものの、人口が最も少なく高齢化率が最も高い圏域であることから、支援者の確保を地域全体で検討することも必要といえます。
社圏域	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者に占める後期高齢者の割合が一番低い圏域ですが、運動器機能の低下や閉じこもり傾向のリスクに該当する人の割合が2番目に多くなっています。何らかの介護を必要と答える人も滝野圏域と同程度の割合となっています。健康状態をよくないと感じている人も多くなっています。 ・生きがいのある人の割合は最も少なく、趣味で外出する人も少なくなっていました。 ・このような状況から、今後、加齢とともにさらに体力等が衰えていった場合に、閉じこもりの傾向が増し、運動器機能の低下や、ひいては介護を必要とする人が増加することが懸念されます。 ・趣味や生きがいづくりの支援などを通じて、運動器機能の維持・向上や閉じこもり予防につなげることが、介護予防の一つの方策になると考えられます。
滝野圏域	<ul style="list-style-type: none"> ・うつリスク判定者が多くなっています。健康状態がよくないと感じている人が最も多く、通院・通所で週1回以上外出している人も最も多くなっています。喫煙率についても最も高くなっています。心身の状態がよくない人が多い圏域であることがうかがえます。 ・買い物や散歩で週1回以上外出する人は多いものの、仕事をしている人や、まちかど体操、物忘れ予防カフェといった交流の場に出かける人は少なくなっています。また、2世帯がやや多いものの、共食の機会が少ない人が多くなっています。 ・市のサービスについては、知らない人が多くなっています。 ・話し相手について、支援を求める人が多くなっています。 ・ボランティア活動やサロン等の身近な場に集う人がやや多いなど、健康状態がよく、活動的な人がいる一方で、健康状態が悪く、地域とのつながりが希薄になっている人もいますと考えられます。支援を必要とする人に必要な情報が届き、地域ぐるみで支い合えるよう、ソーシャル・キャピタルをより意識した健康づくりや介護予防の取り組みが必要であると考えられます。

Ⅲ 要介護認定者 調査結果

1 回答者属性

(1) 年齢

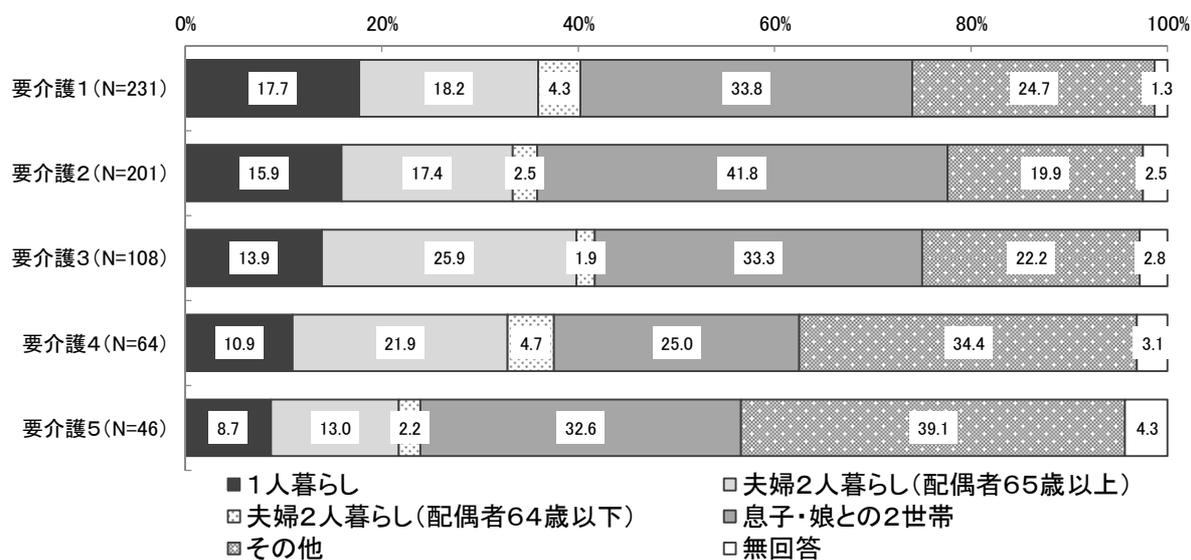
《要介護度別》



2 家族や生活状況について

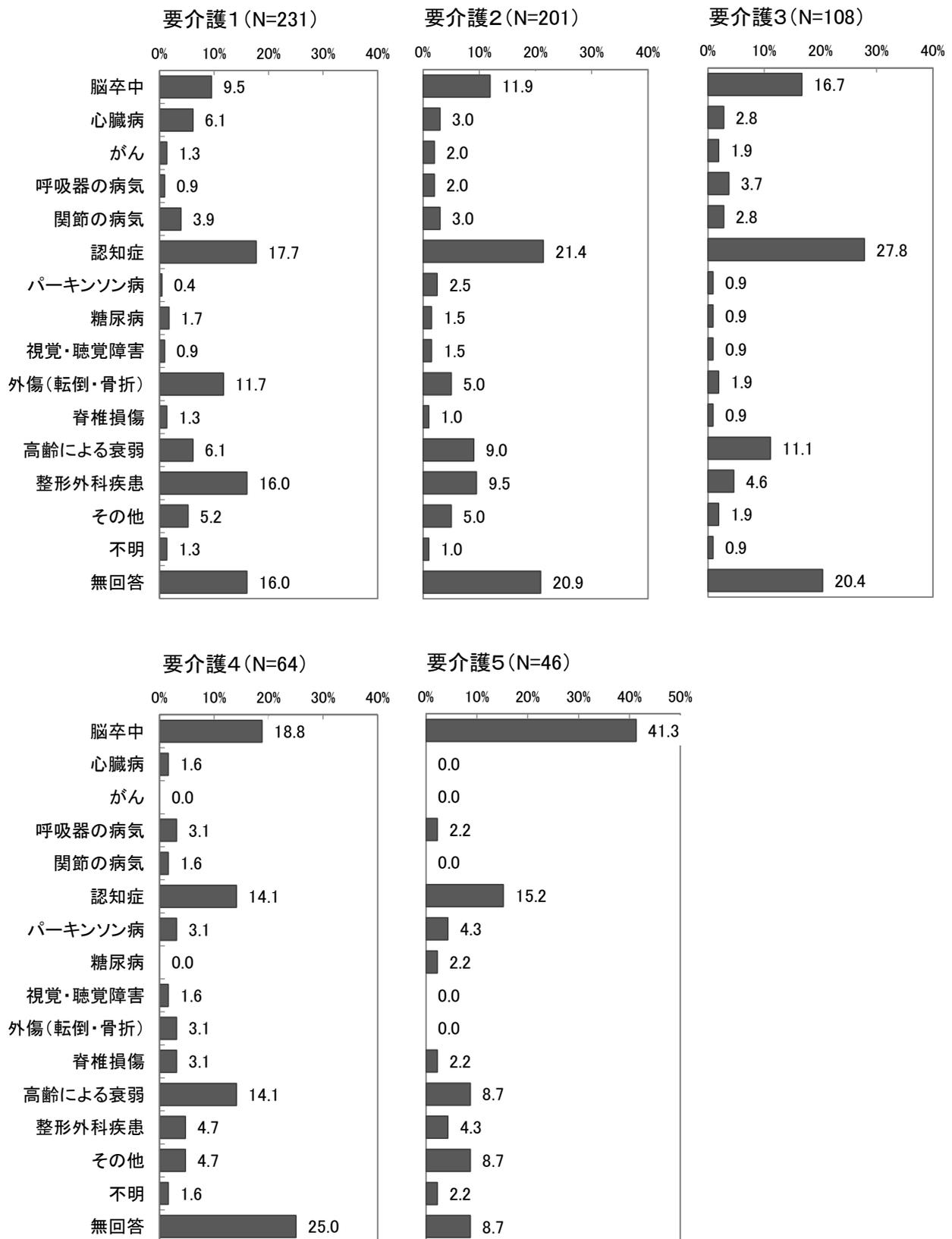
(1) 家族構成

《要介護度別》



(2) 認定を受ける原因となった主な病気等

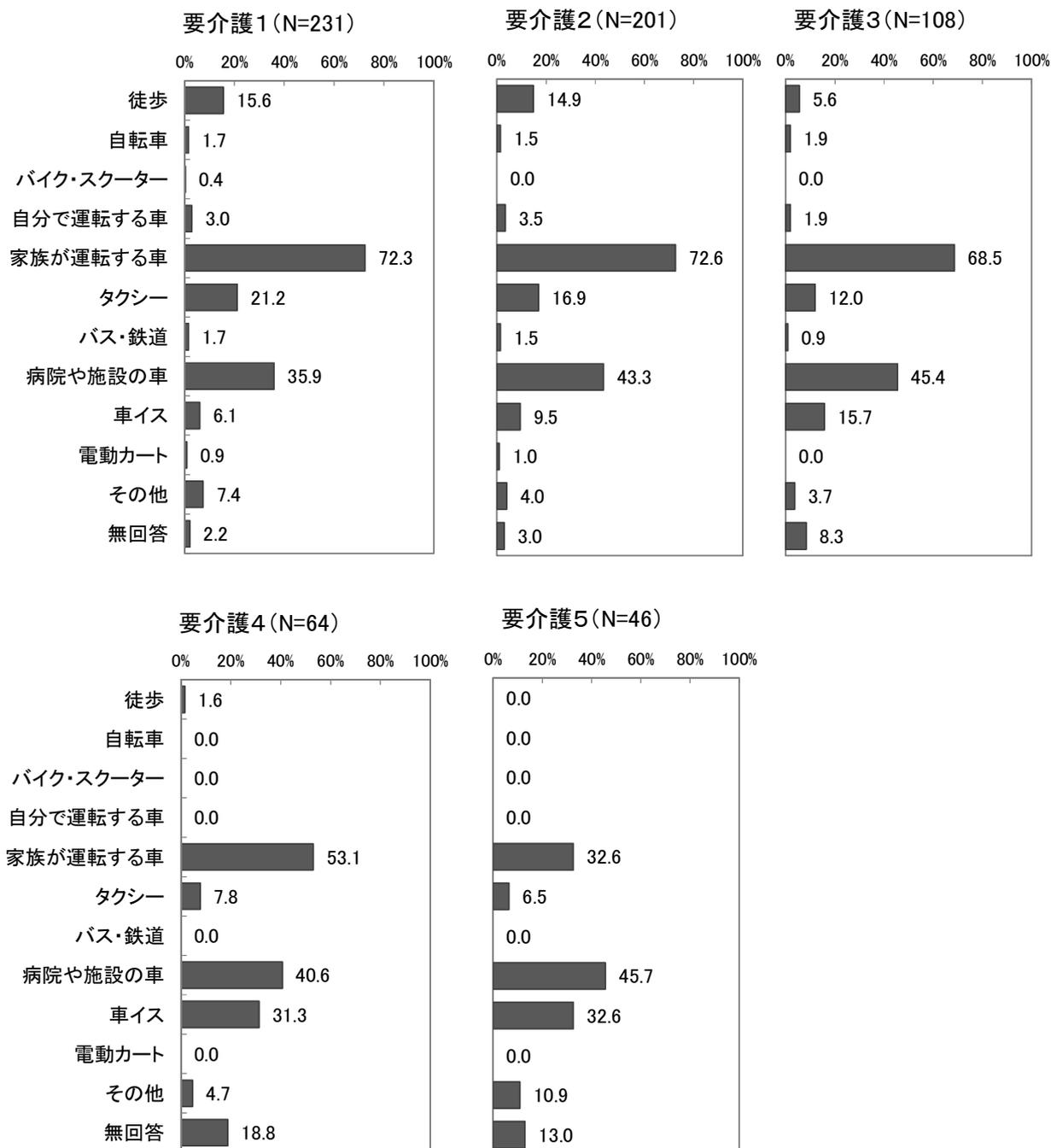
《要介護度別》



3 からだを動かすことについて

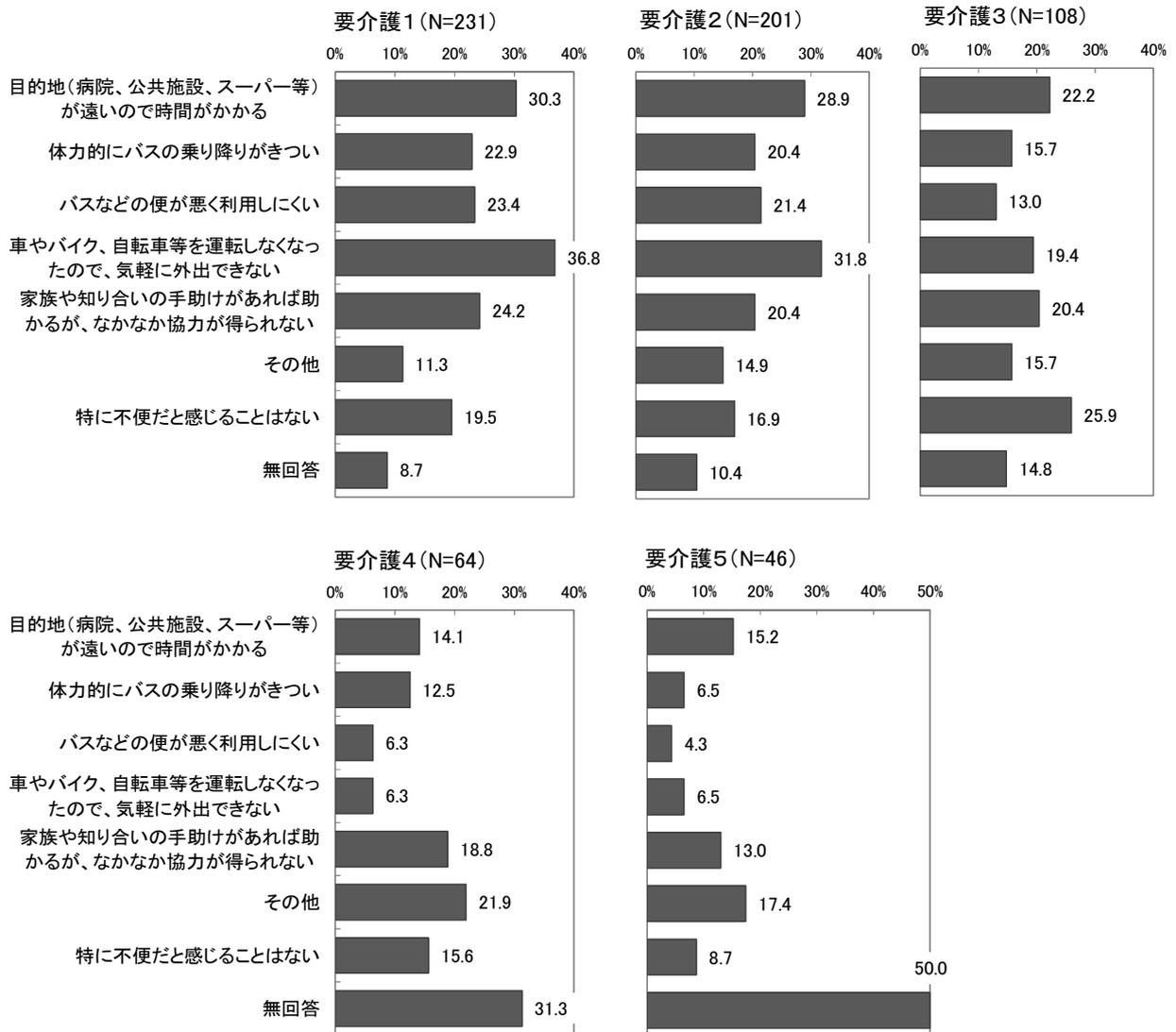
(1) 外出する際の移動手段

《要介護度別》



(2) 外出する際に、不便だと感じること

《要介護度別》

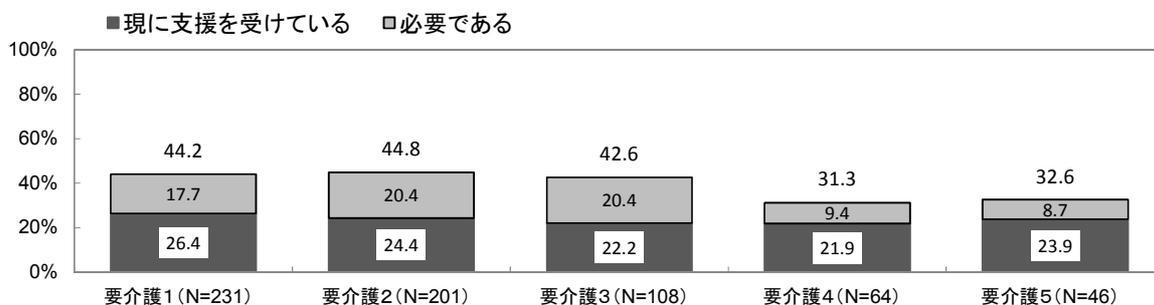


4 毎日の生活について

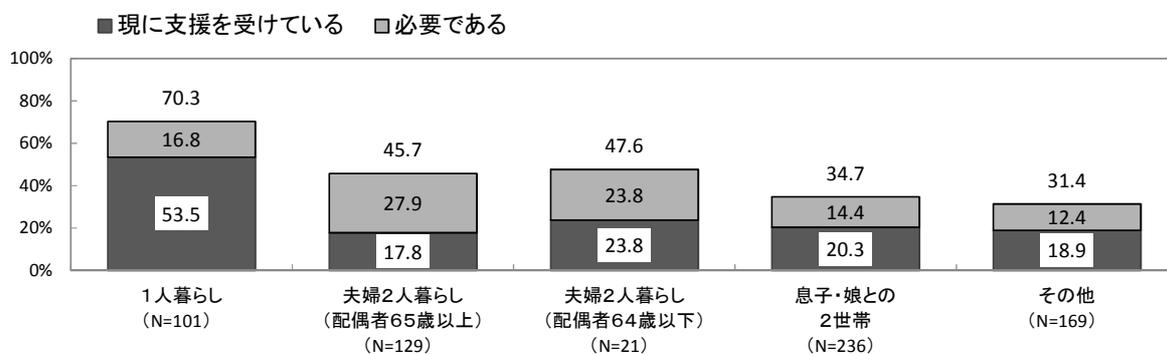
(1) 外部の支援が必要だと感じること

① 買い物

《要介護度別》

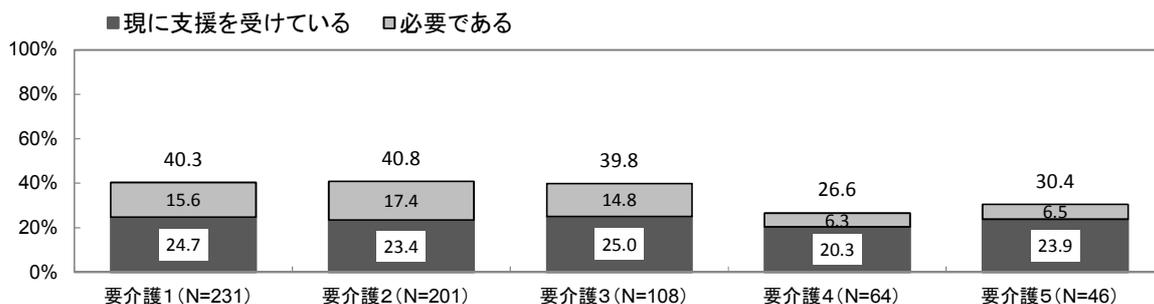


《家族構成別》

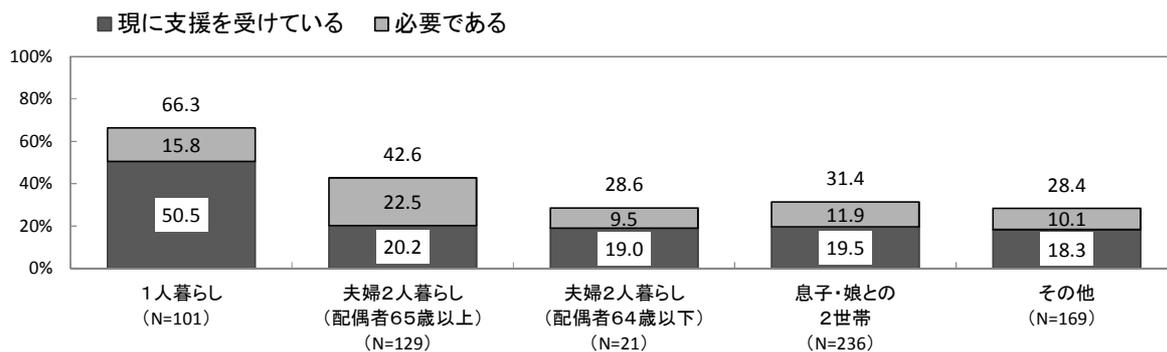


② ごみ出し

《要介護度別》

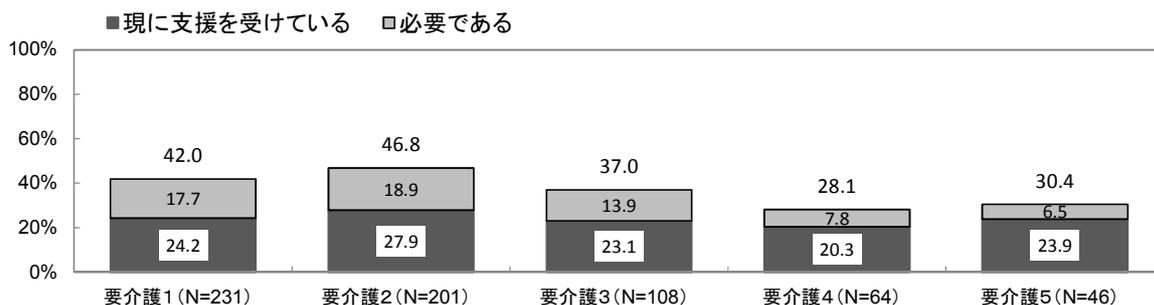


《家族構成別》

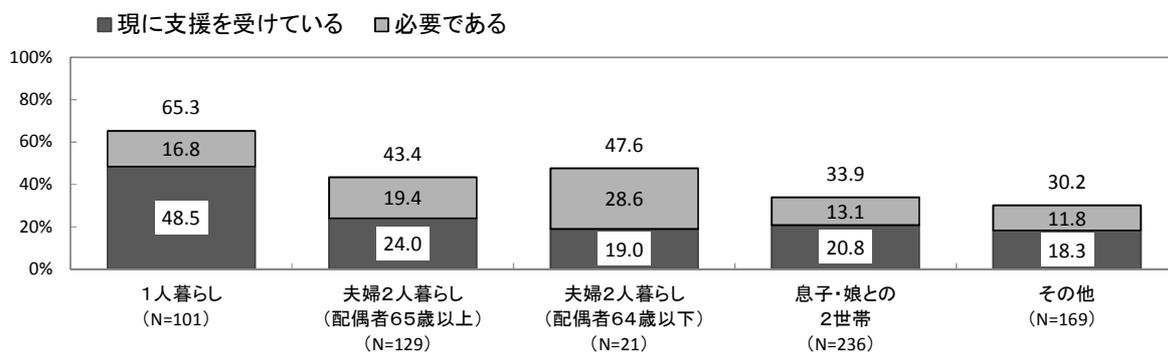


③食事を作ること

《要介護度別》

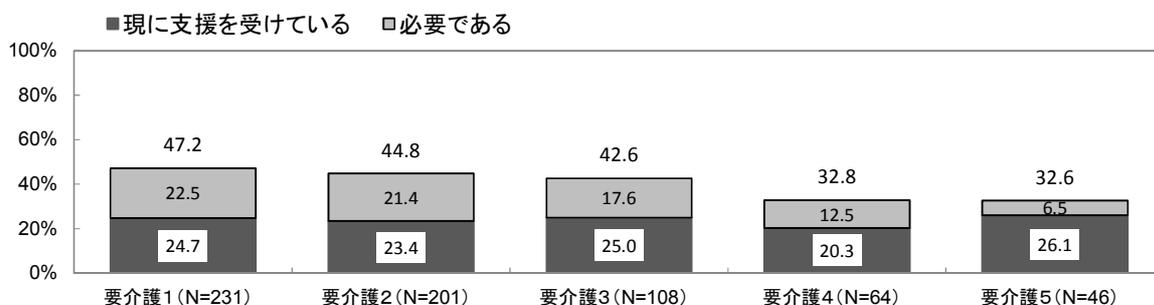


《家族構成別》

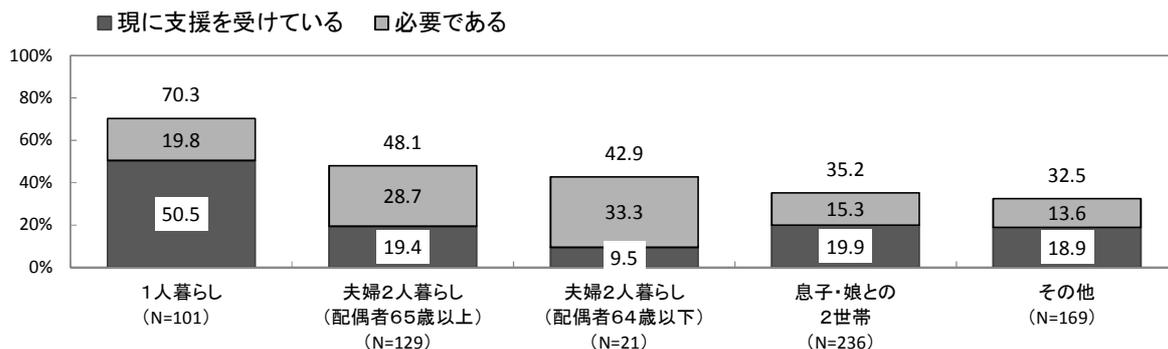


④居室の掃除

《要介護度別》

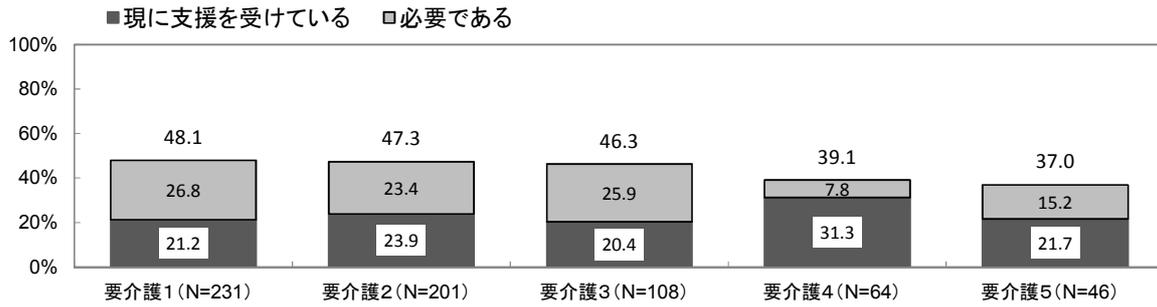


《家族構成別》

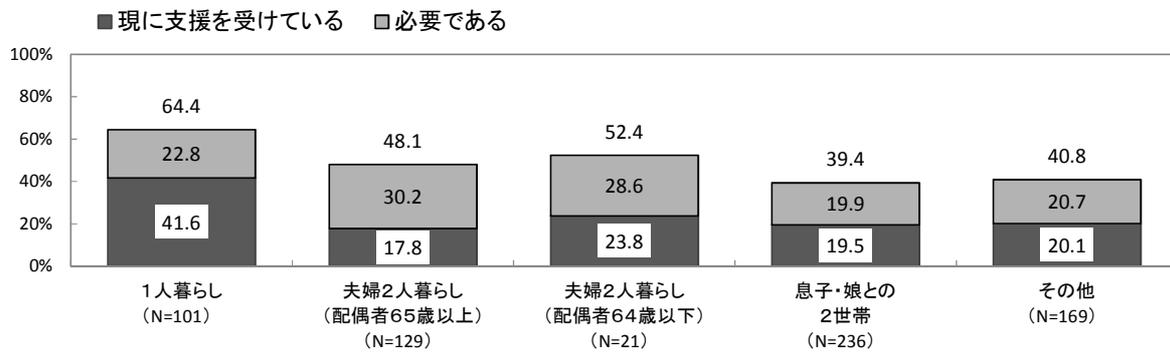


⑤外出支援（散歩や受診の付き添い等）

《要介護度別》

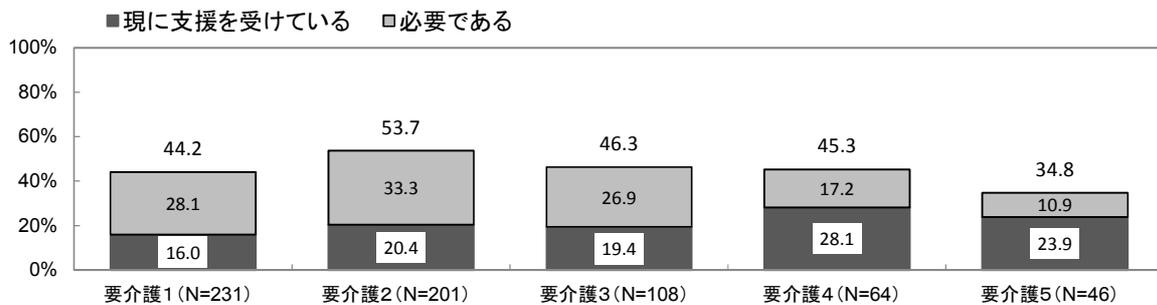


《家族構成別》

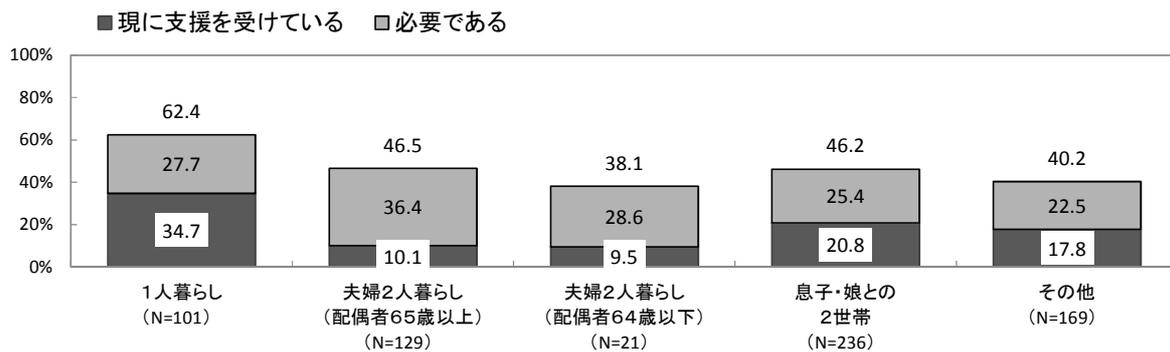


⑥話し相手

《要介護度別》

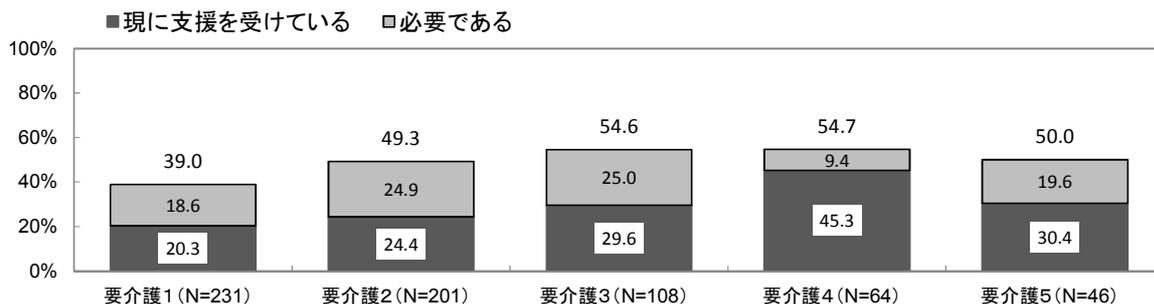


《家族構成別》

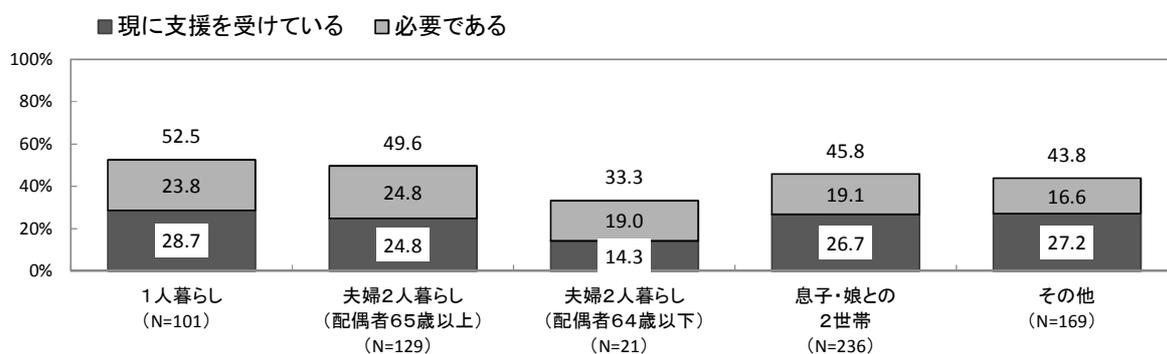


⑦移送支援（送迎や車いす対応車の貸し出し）

《要介護度別》



《家族構成別》

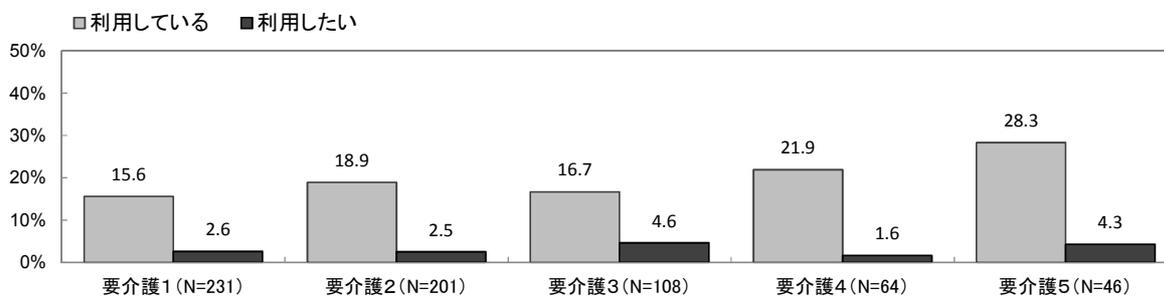


5 介護保険制度と介護保険サービスについて

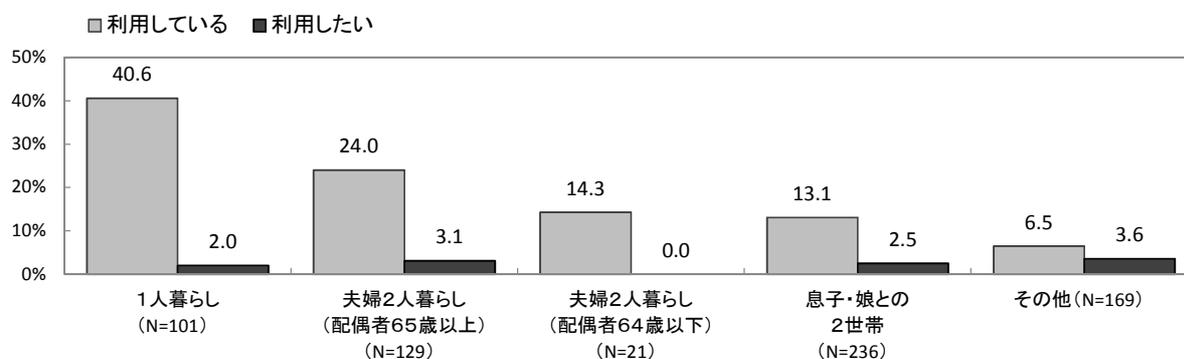
(1) 介護サービス等の利用状況

①訪問介護

《要介護度別》

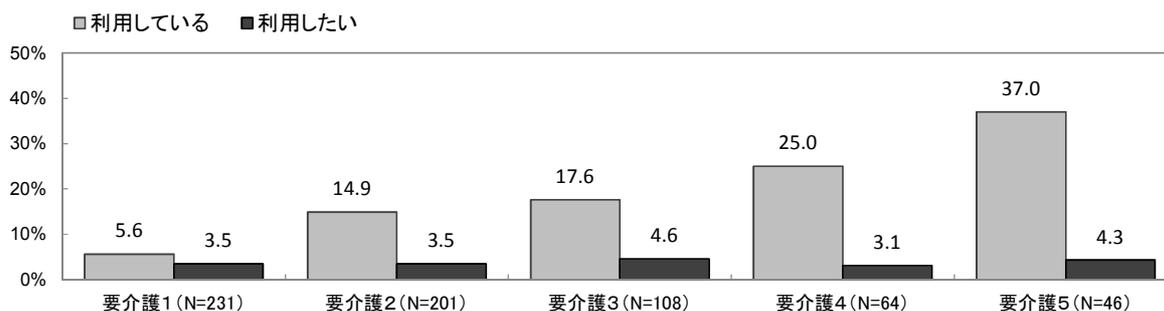


《家族構成別》

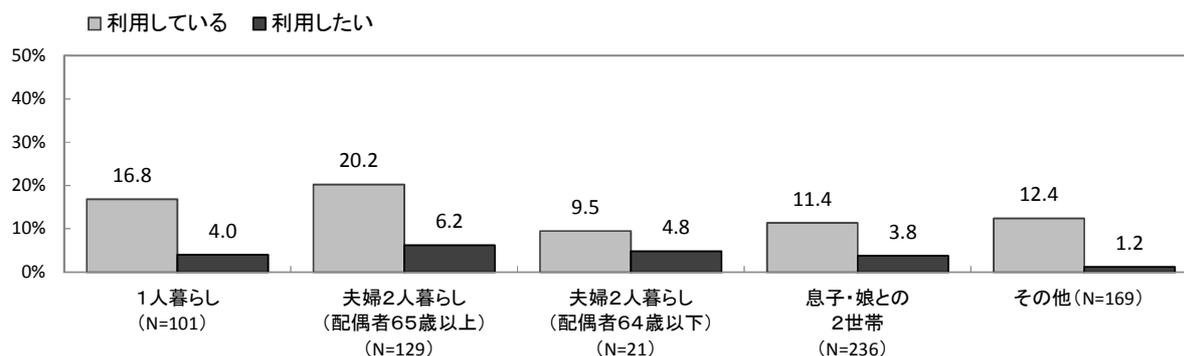


②訪問看護

《要介護度別》

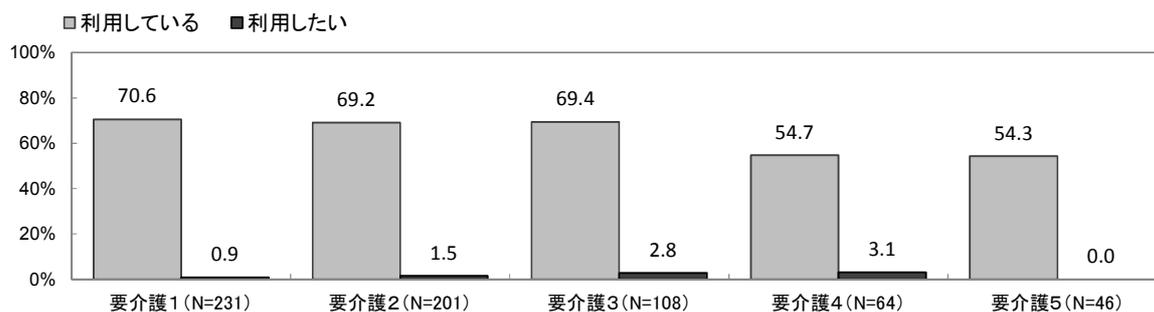


《家族構成別》

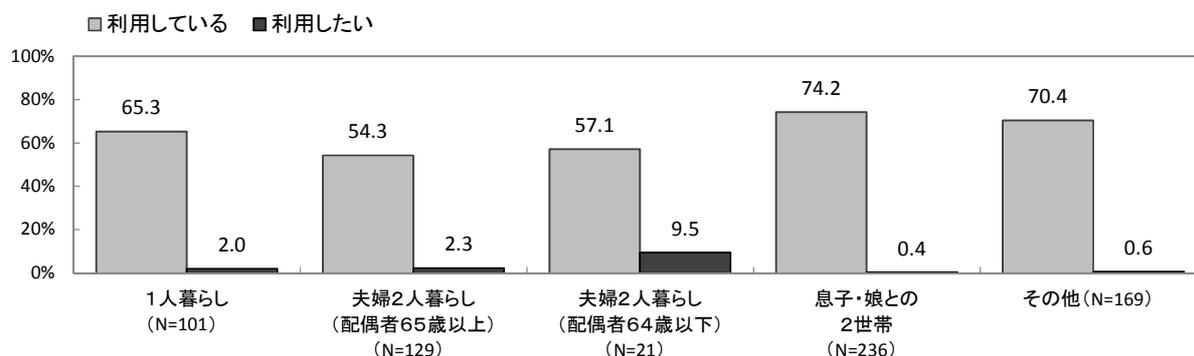


③通所介護

《要介護度別》

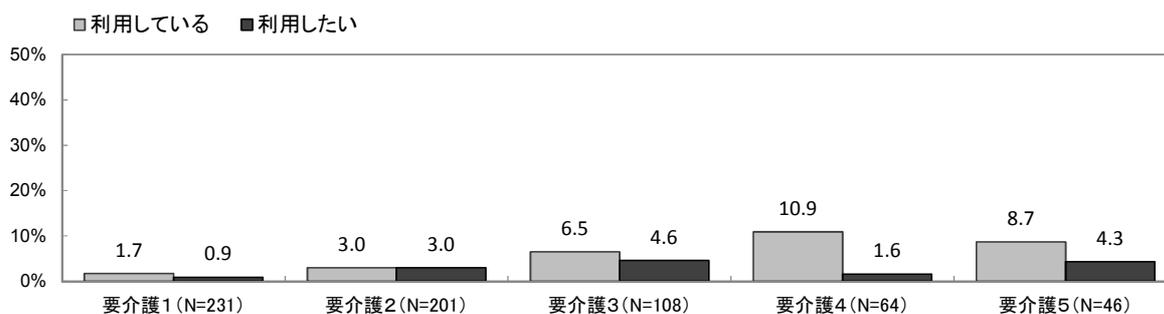


《家族構成別》

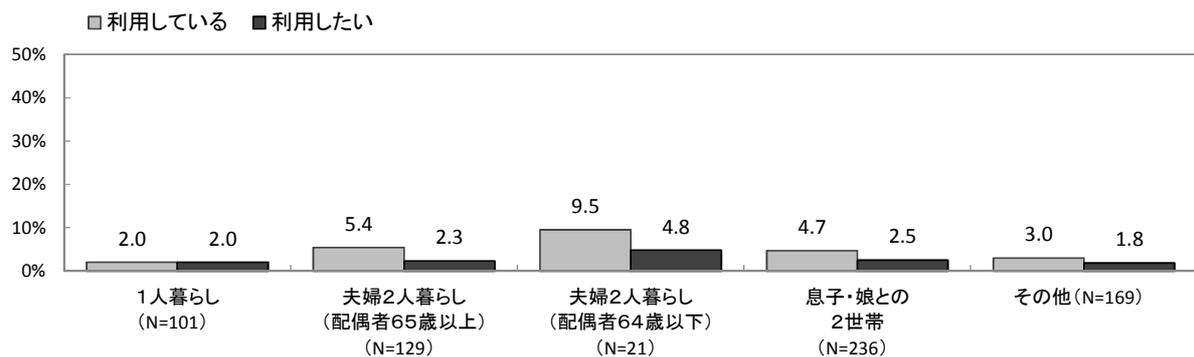


④訪問入浴介護

《要介護度別》

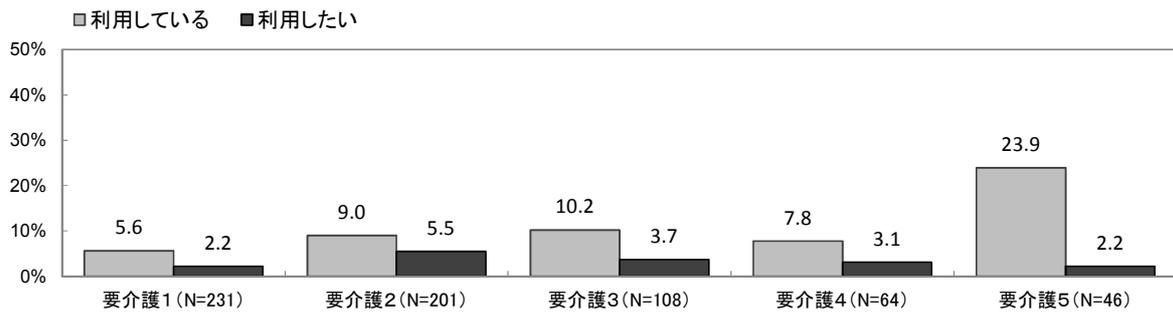


《家族構成別》

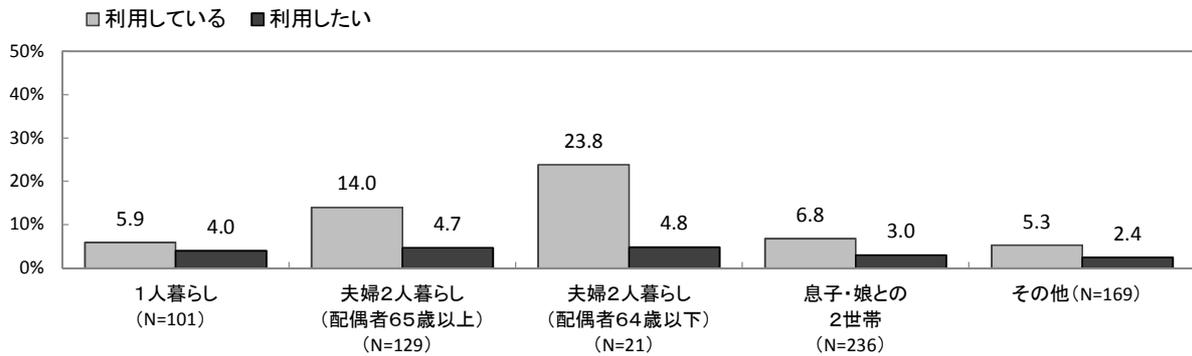


⑤訪問リハビリテーション

《要介護度別》

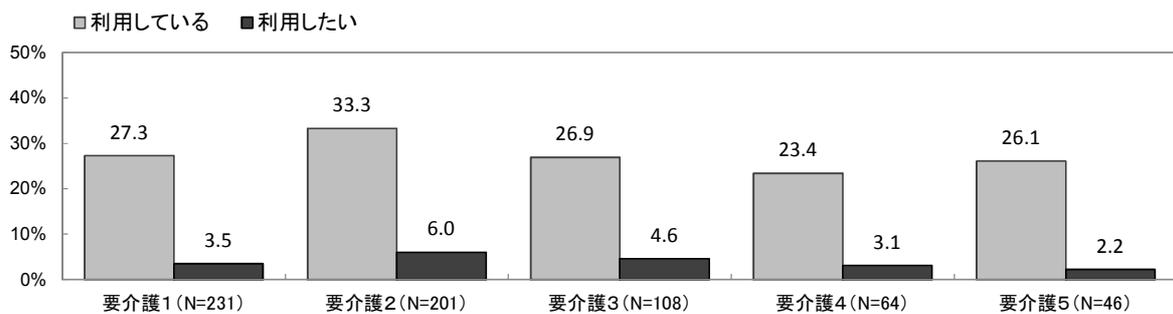


《家族構成別》

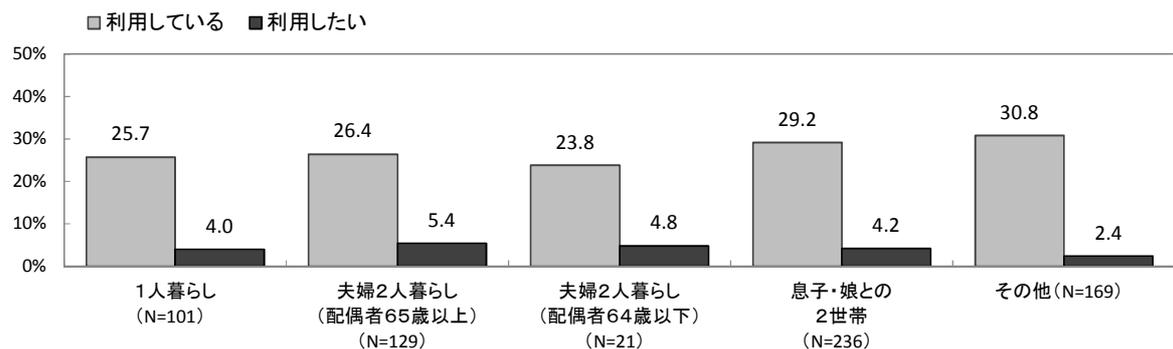


⑥通所リハビリテーション

《要介護度別》

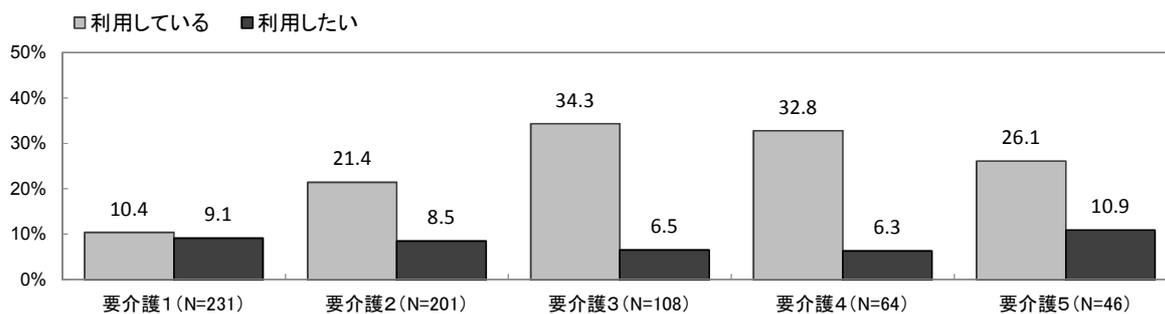


《家族構成別》

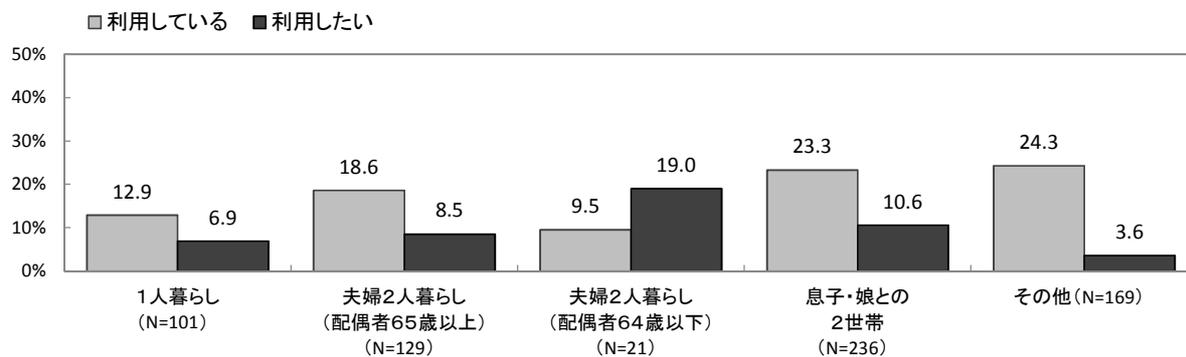


⑦短期入所生活介護

《要介護度別》

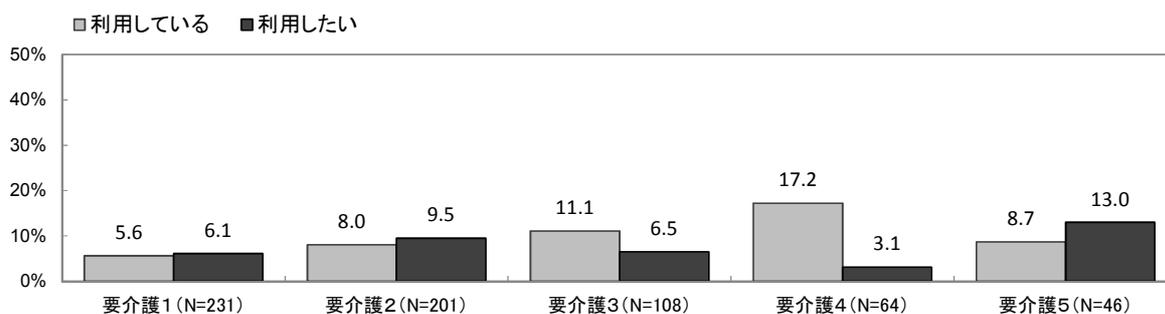


《家族構成別》

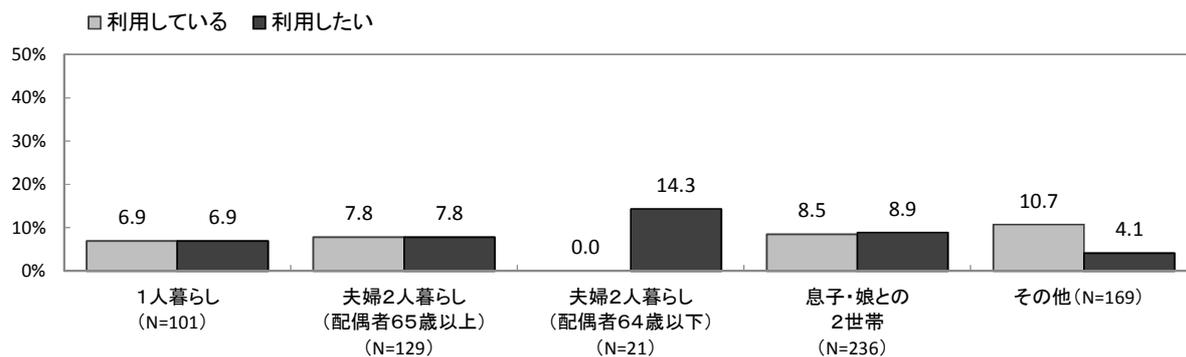


⑧短期入所療養介護

《要介護度別》

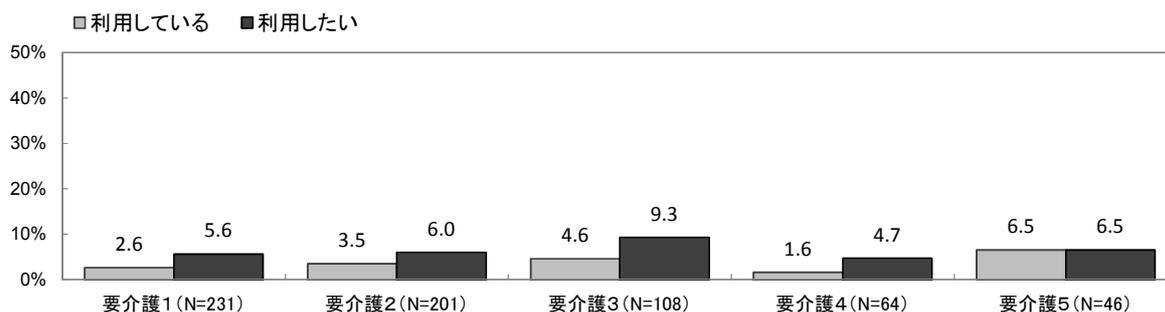


《家族構成別》

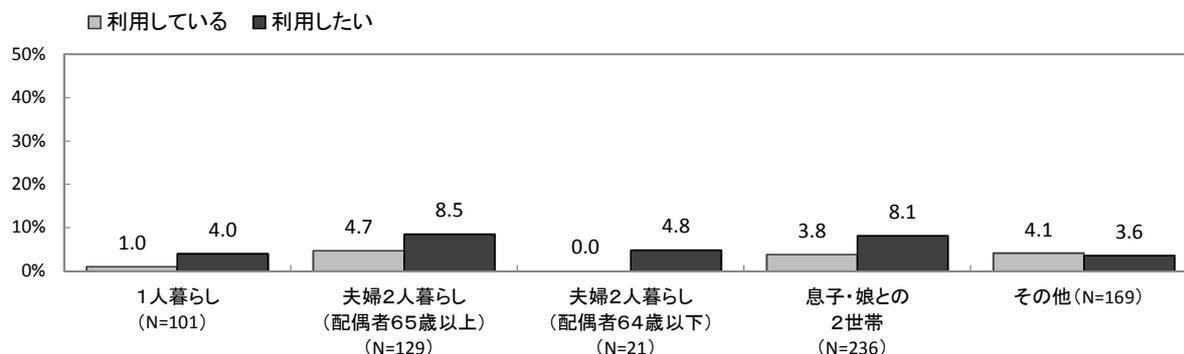


⑨認知症対応型通所介護

《要介護度別》

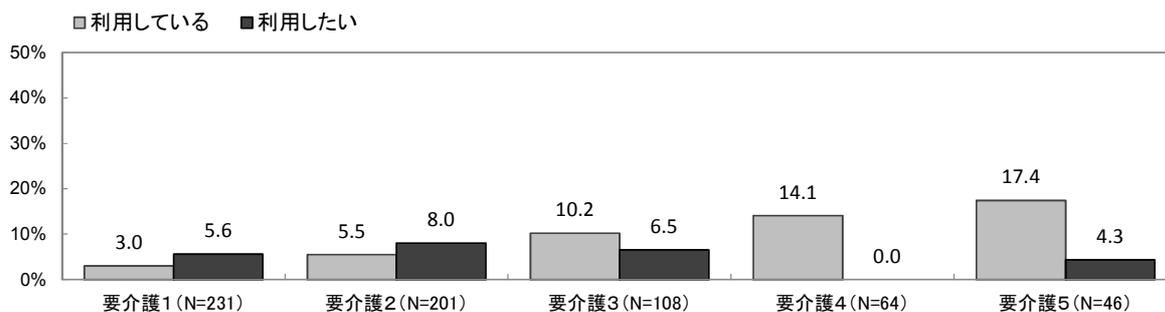


《家族構成別》

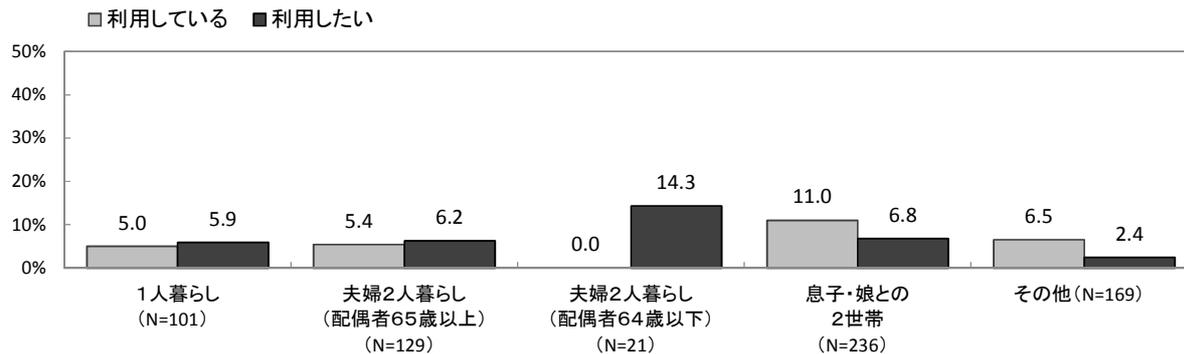


⑩小規模多機能型居宅介護

《要介護度別》

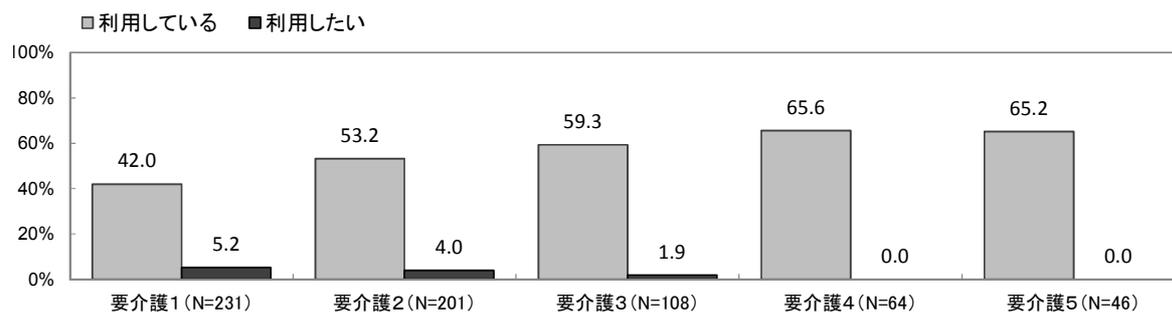


《家族構成別》

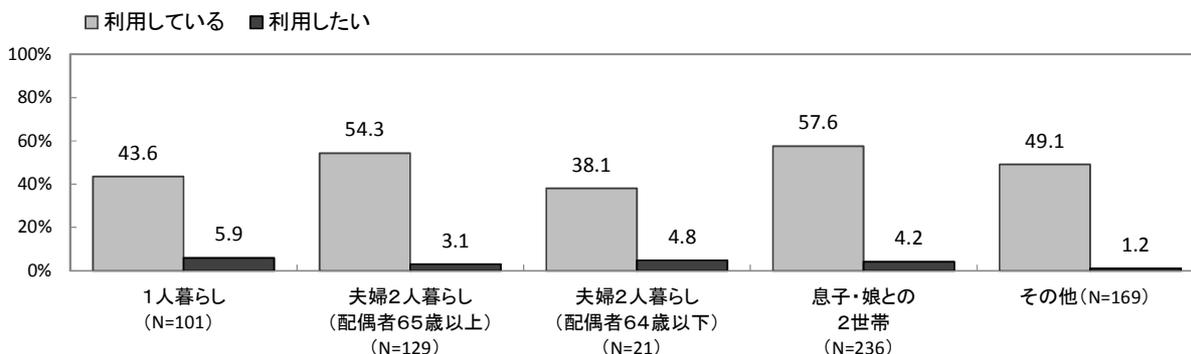


⑪福祉用具貸与

《要介護度別》

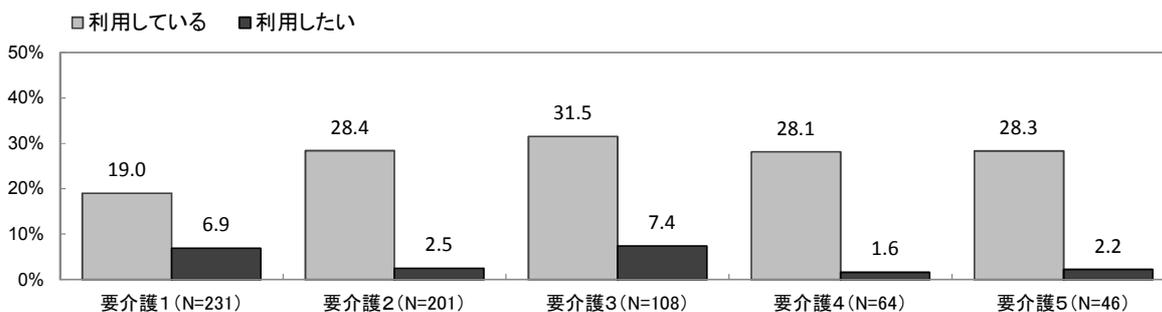


《家族構成別》

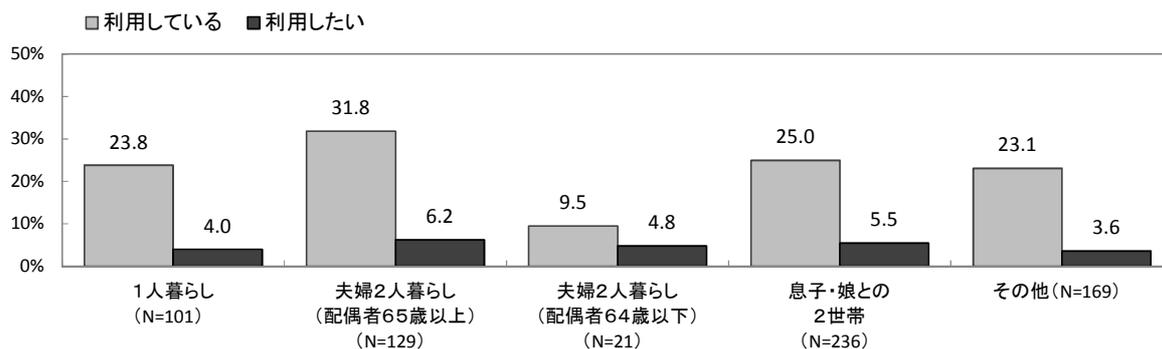


⑫福祉用具購入費支給

《要介護度別》

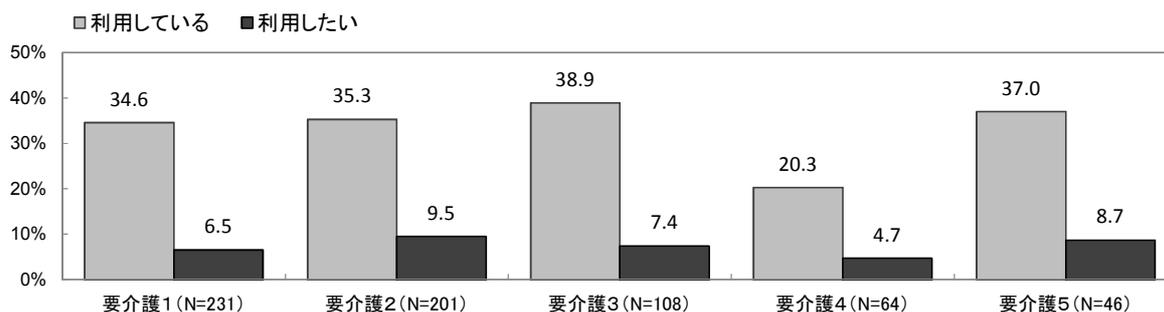


《家族構成別》

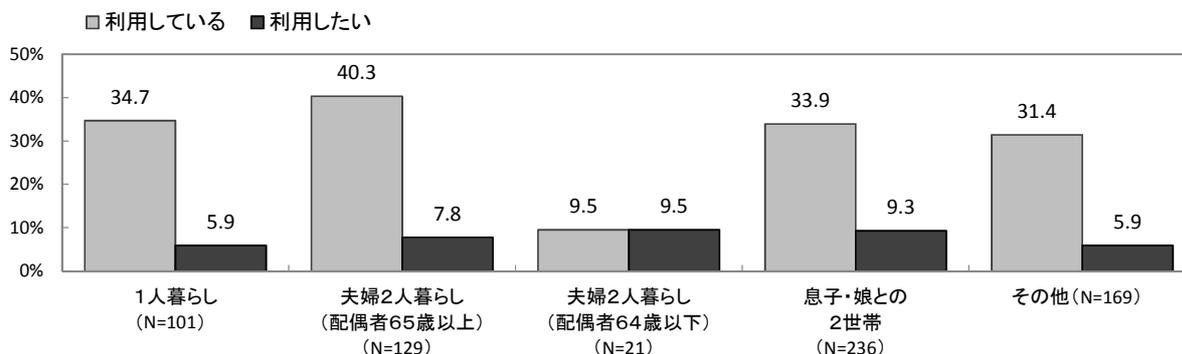


⑬住宅改修費支給

《要介護度別》

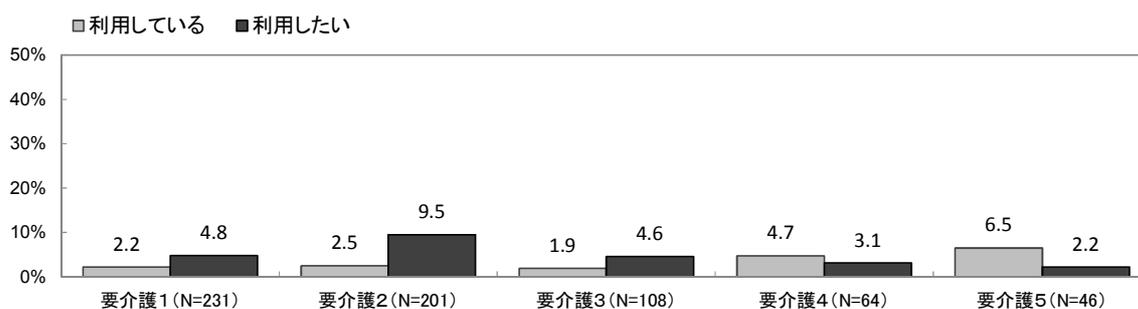


《家族構成別》

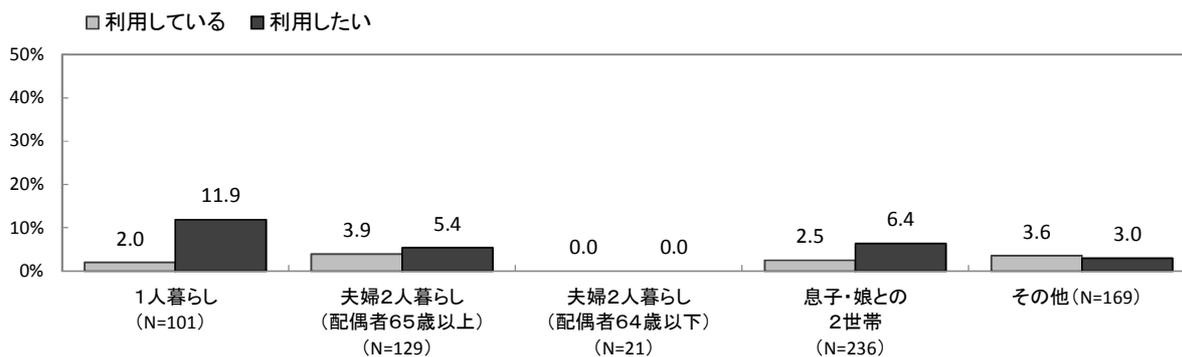


⑭有料老人ホームやケアハウス

《要介護度別》

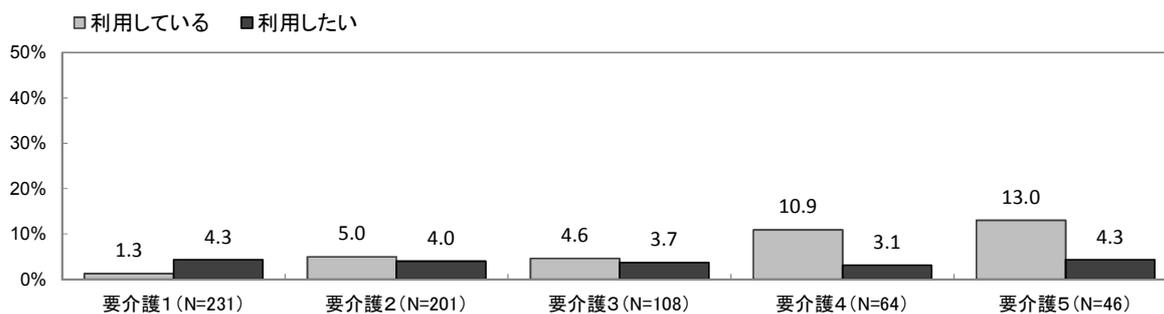


《家族構成別》

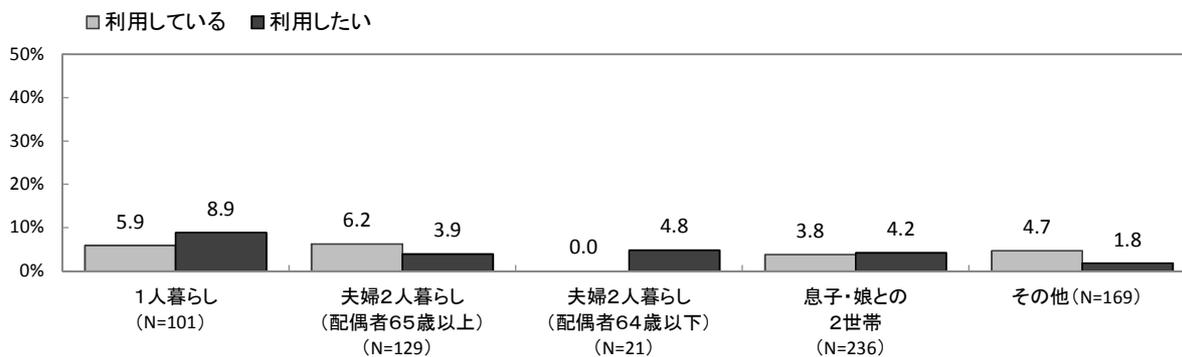


⑮定期巡回・随時対応型訪問介護看護

《要介護度別》

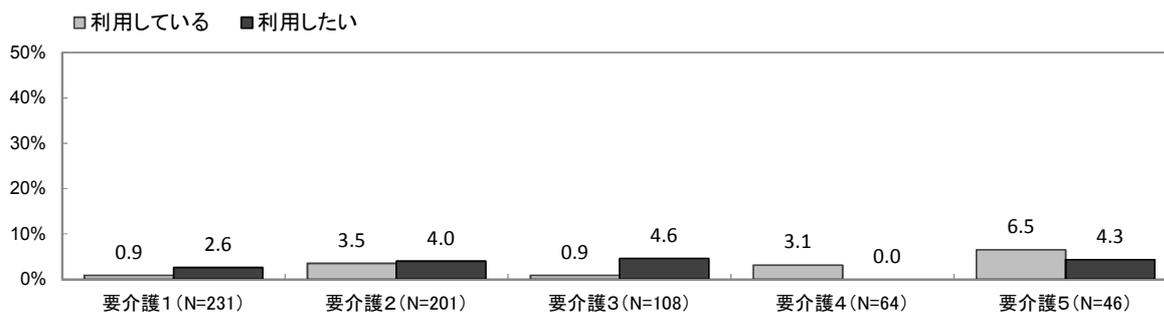


《家族構成別》

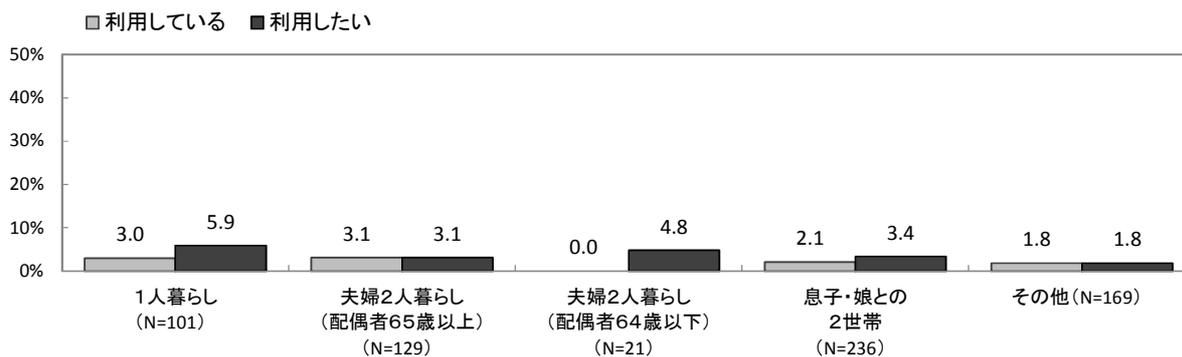


⑯複合型サービス

《要介護度別》



《家族構成別》

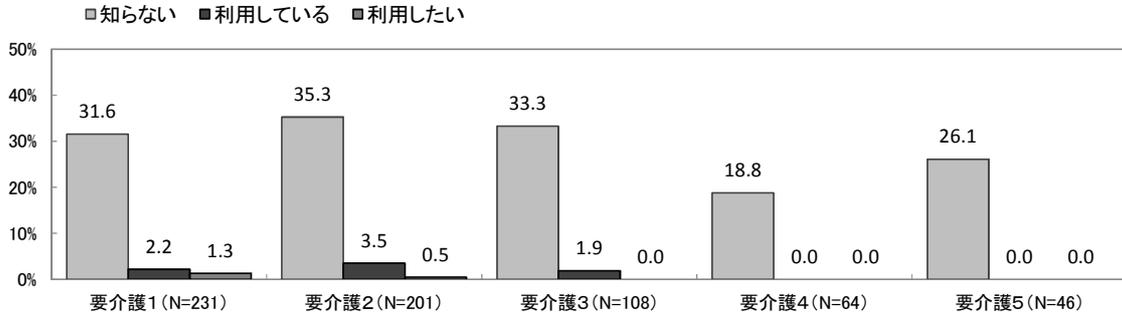


6 市で実施している主な保健福祉サービスについて

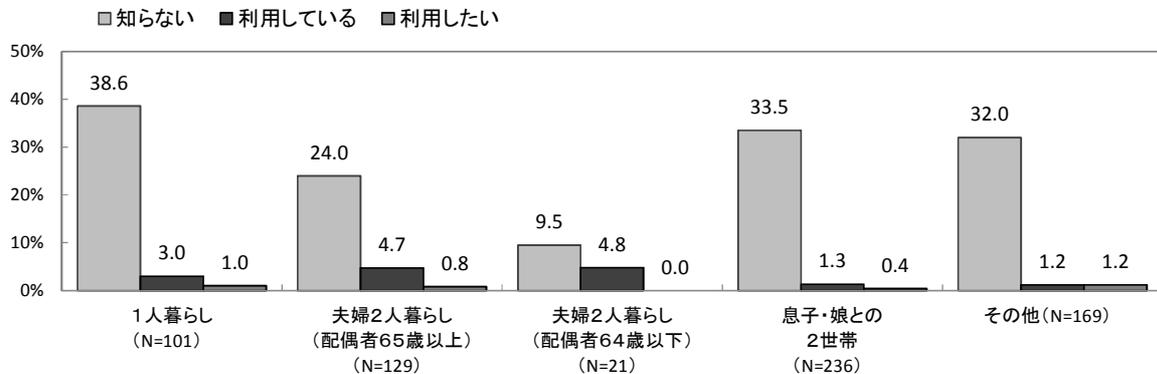
(1) 保健福祉サービスの利用状況

①かとうまちかど体操教室

《要介護度別》

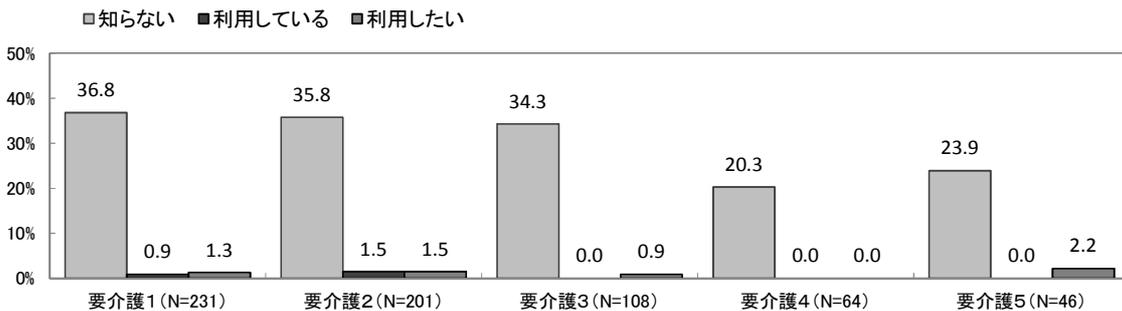


《家族構成別》

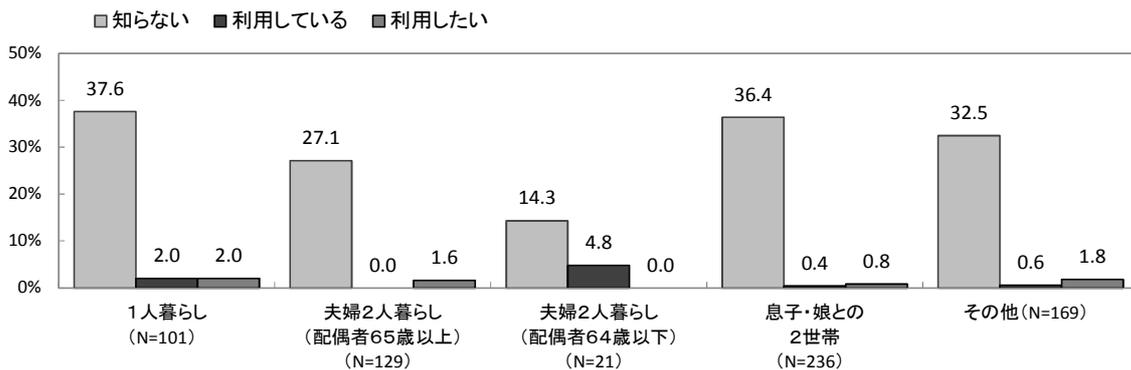


②物忘れ予防カフェ

《要介護度別》

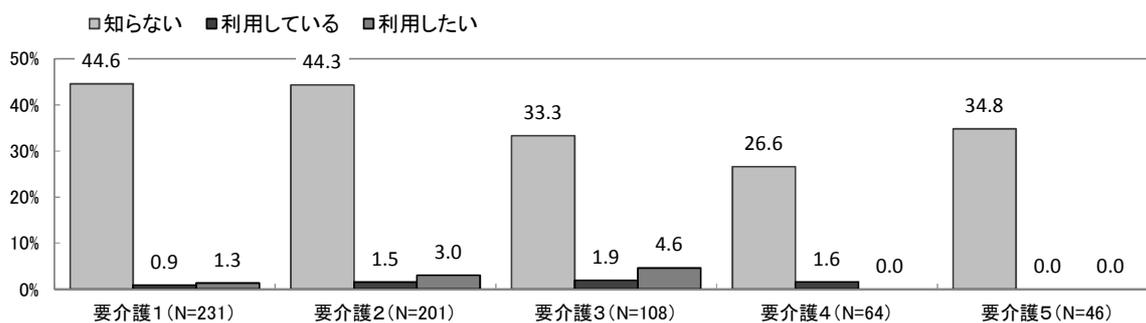


《家族構成別》

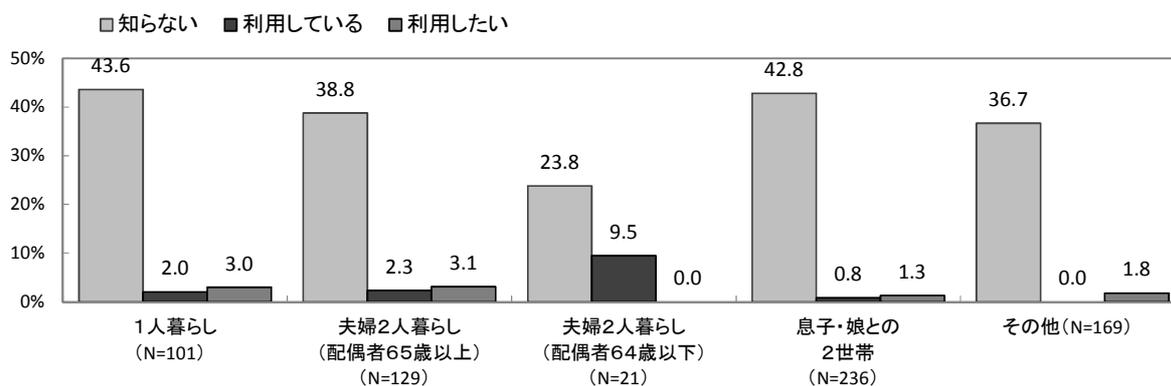


③権利擁護事業

《要介護度別》

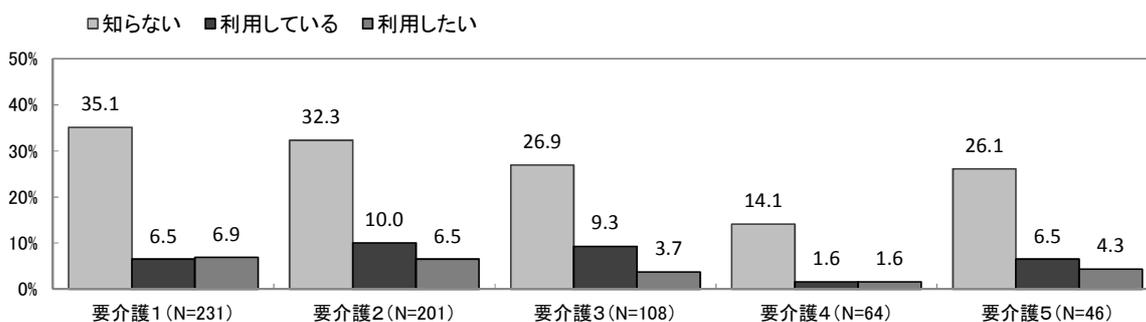


《家族構成別》

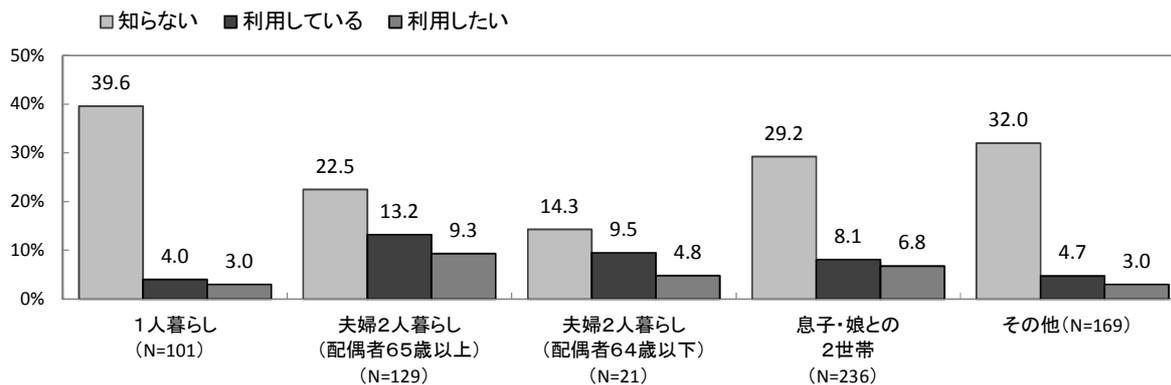


④人生80年いきいき住宅助成

《要介護度別》

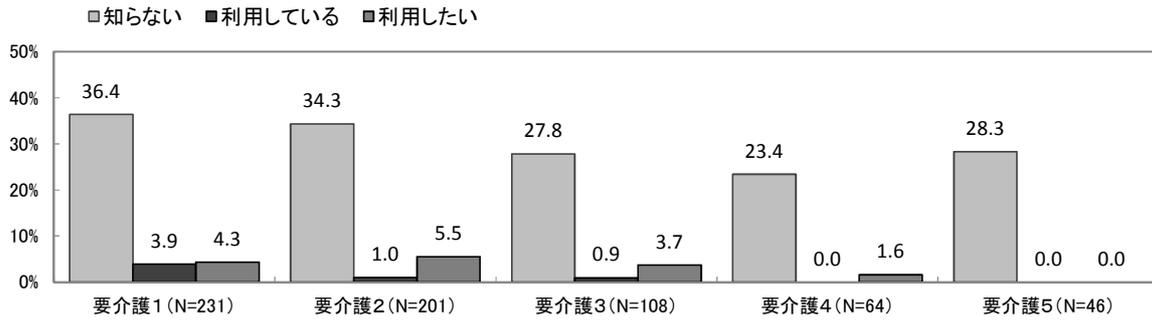


《家族構成別》

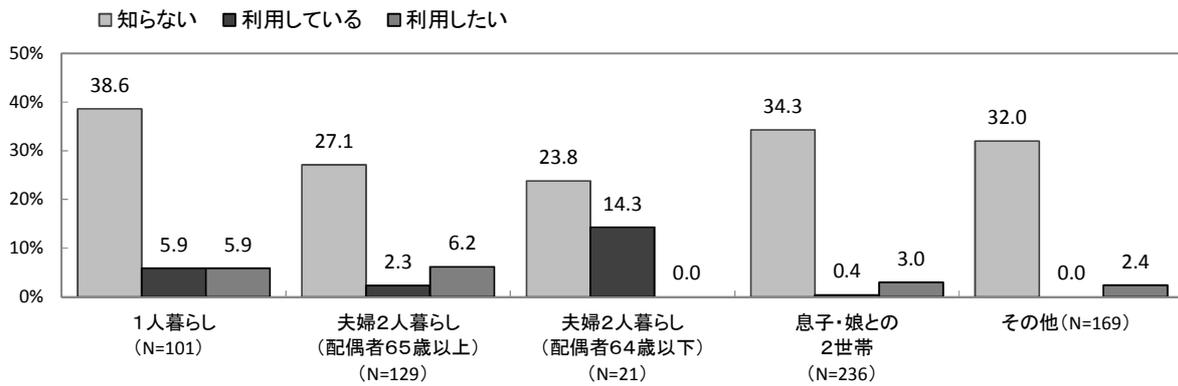


⑤かとう介護ファミリーサポートセンター

《要介護度別》

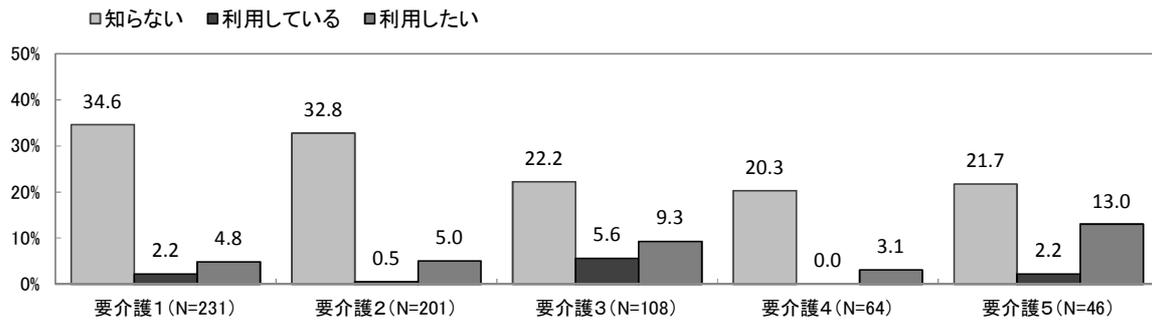


《家族構成別》

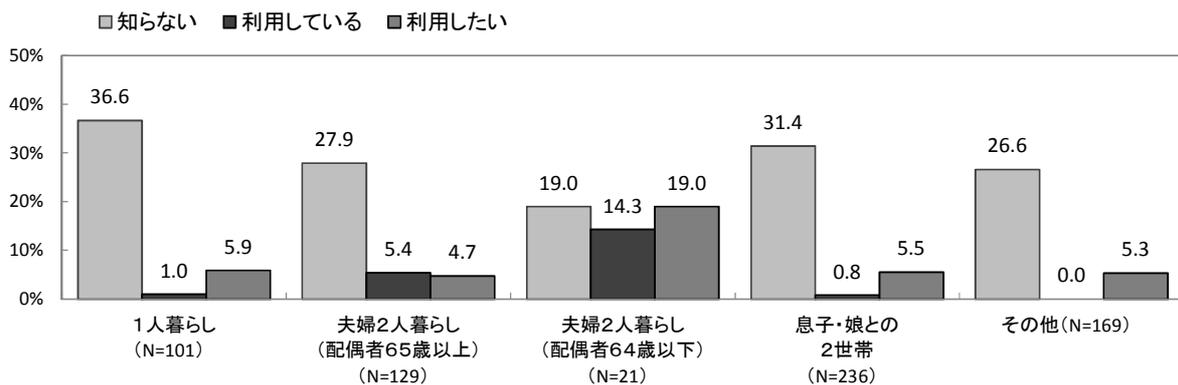


⑥移送サービス

《要介護度別》

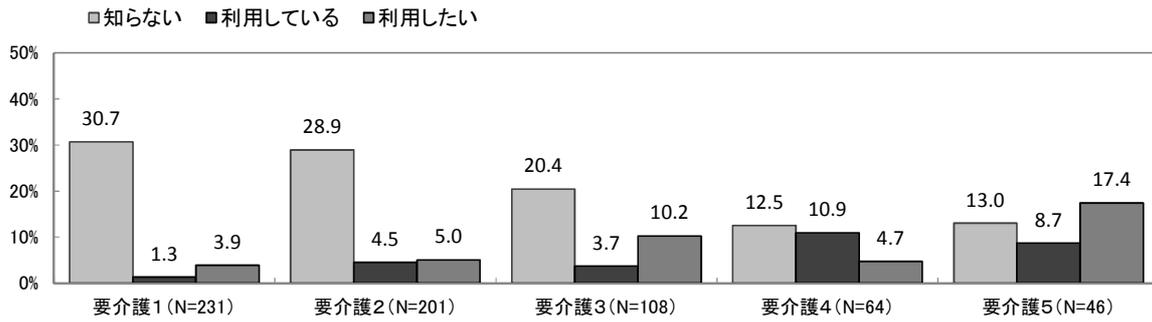


《家族構成別》

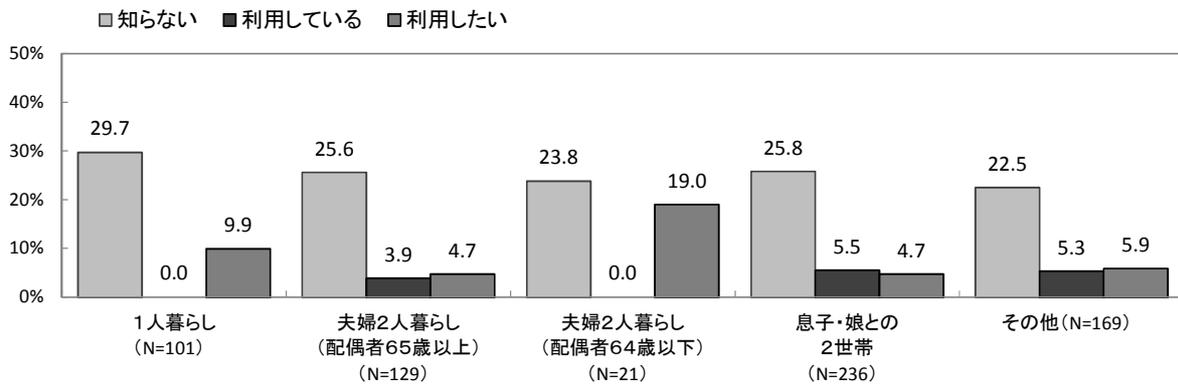


⑦福祉車両の貸出

《要介護度別》

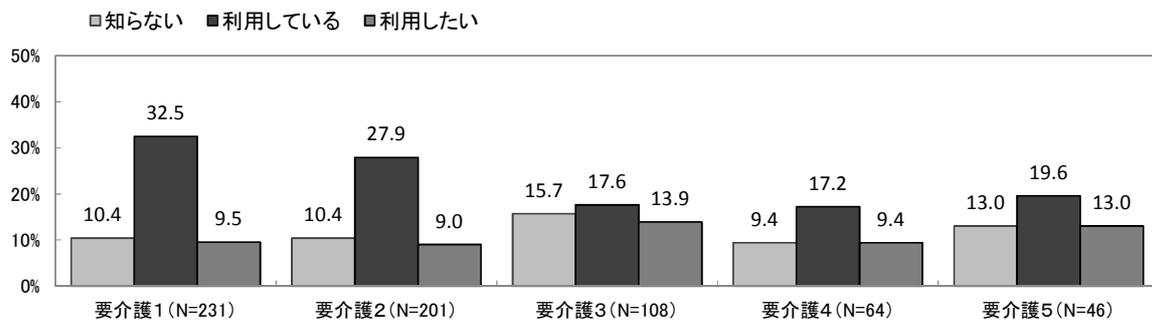


《家族構成別》

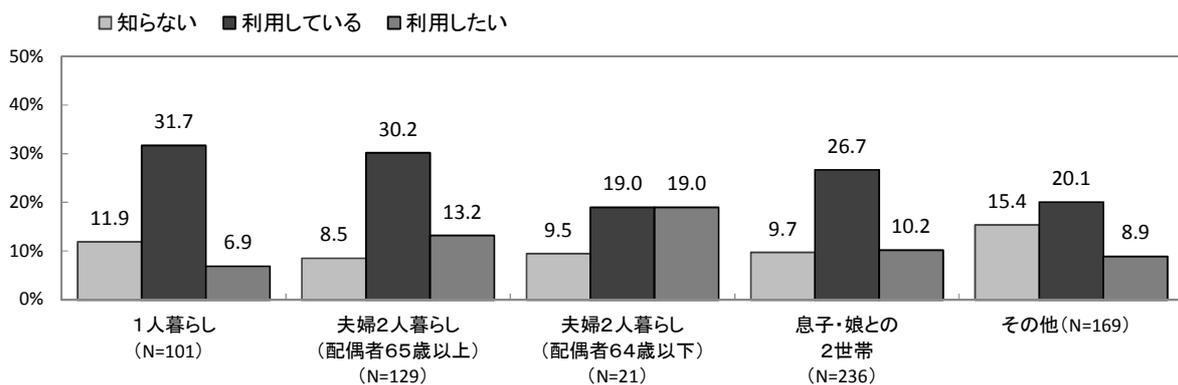


⑧福祉タクシー利用券助成事業

《要介護度別》

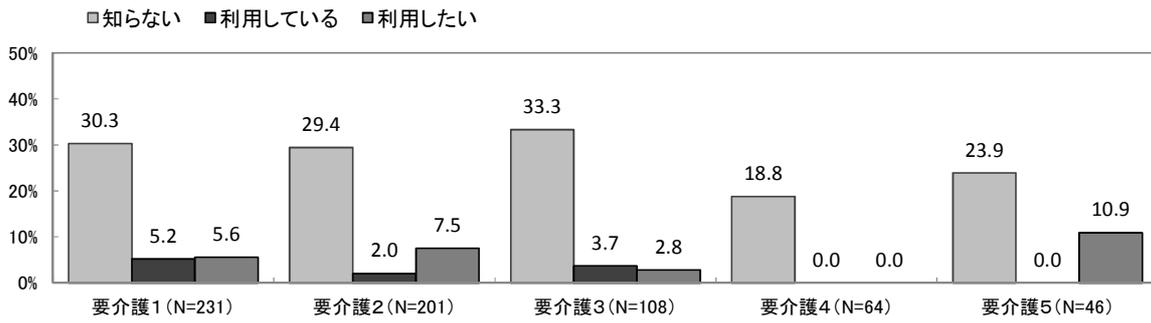


《家族構成別》

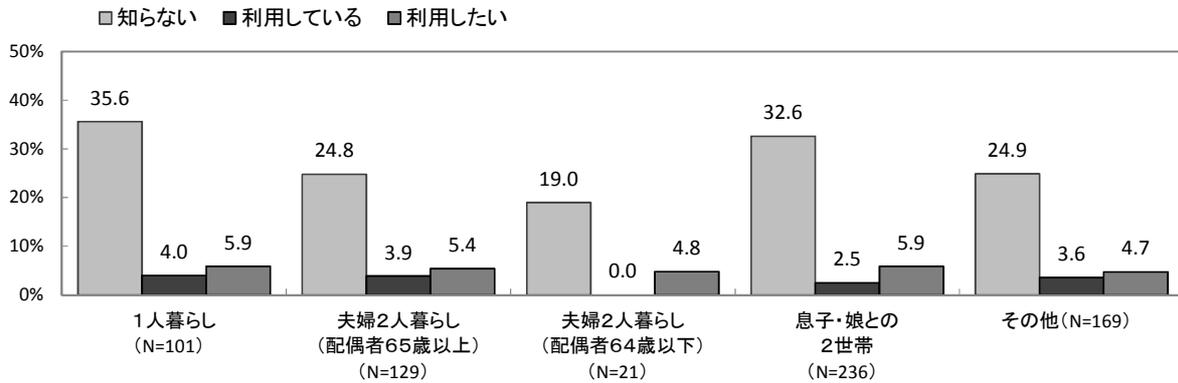


⑨はり・灸・あんま・マッサージ・指圧施術費助成事業

《要介護度別》

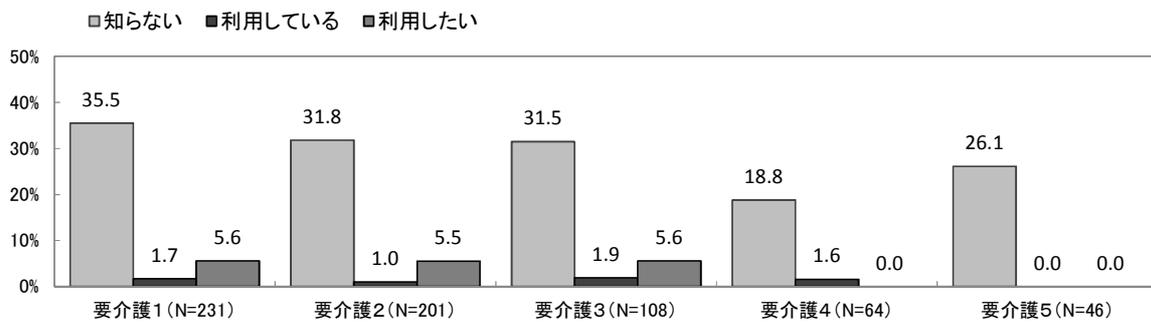


《家族構成別》

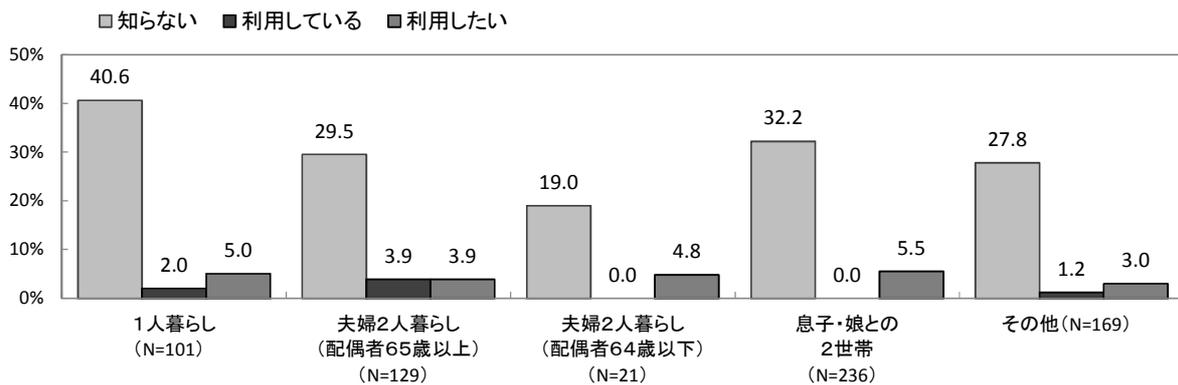


⑩ひとり外出見守り・徘徊SOSネットワーク事業

《要介護度別》

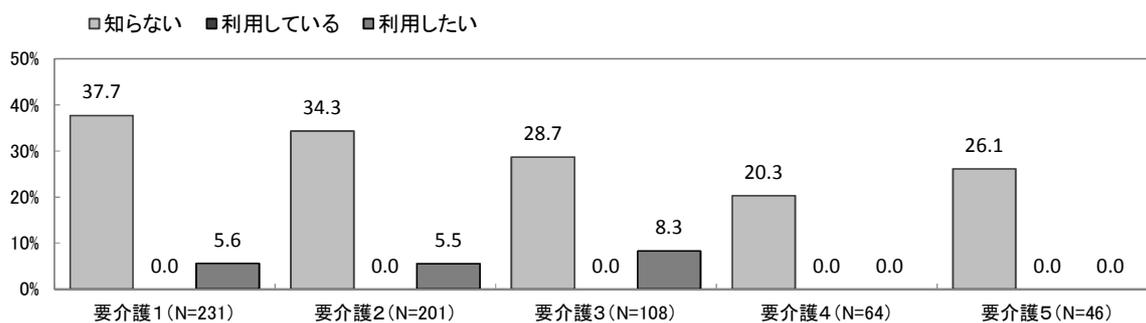


《家族構成別》

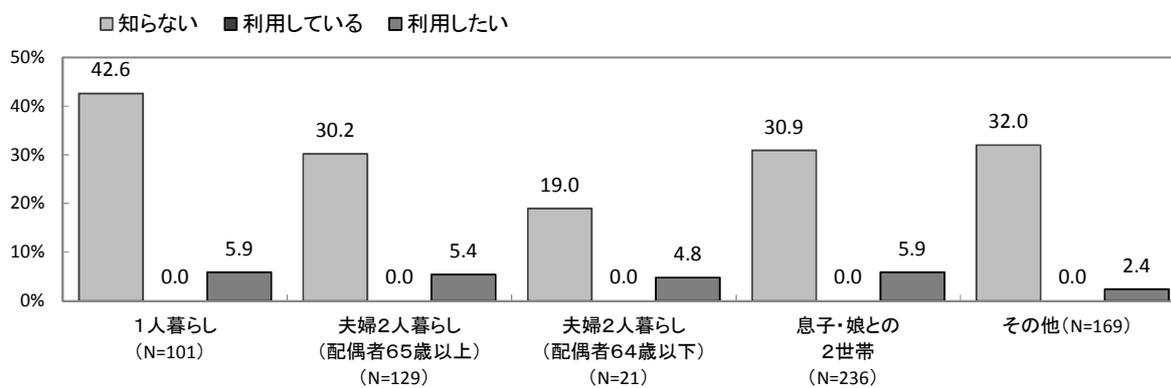


⑪おでかけ安心GPS事業

《要介護度別》



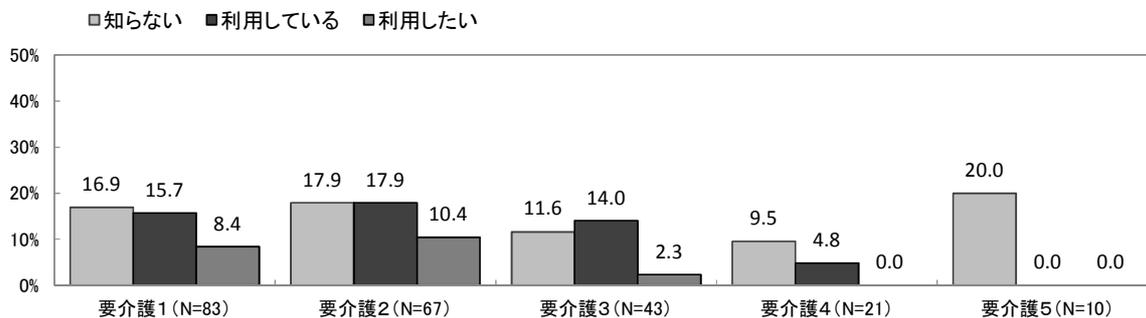
《家族構成別》



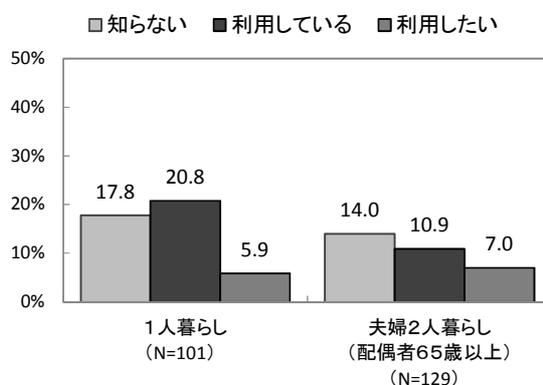
(2) ひとり暮らし・高齢世帯対象のサービスの利用状況

①給食サービス

《要介護度別》

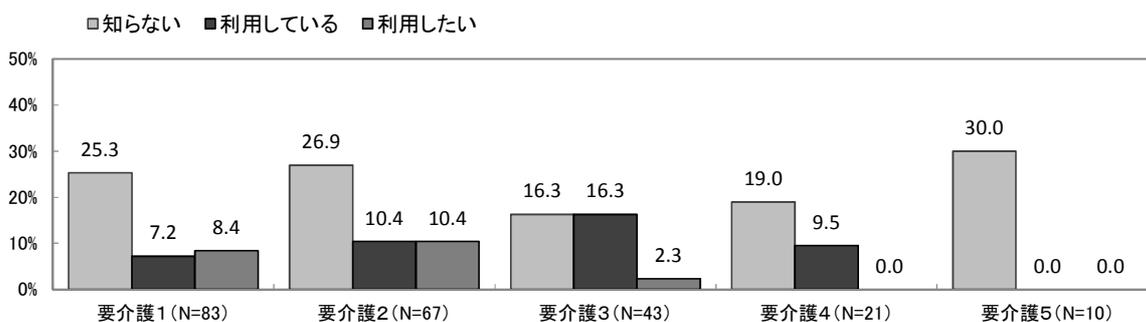


《家族構成別》

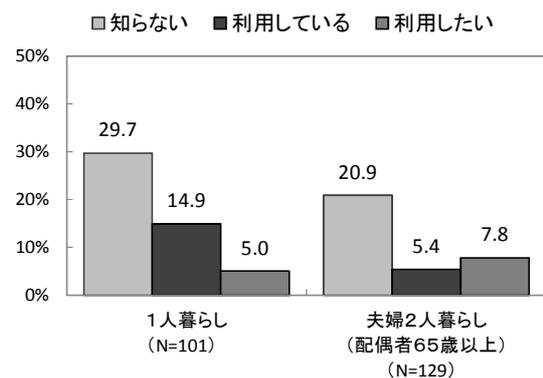


②日常生活用具給付事業

《要介護度別》

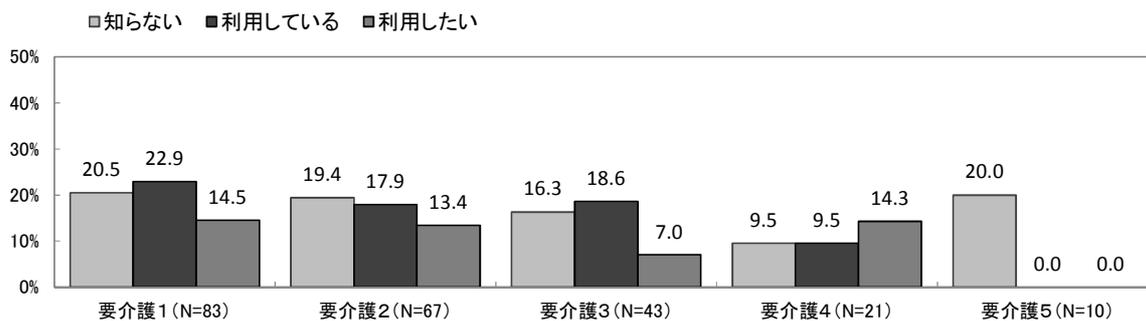


《家族構成別》

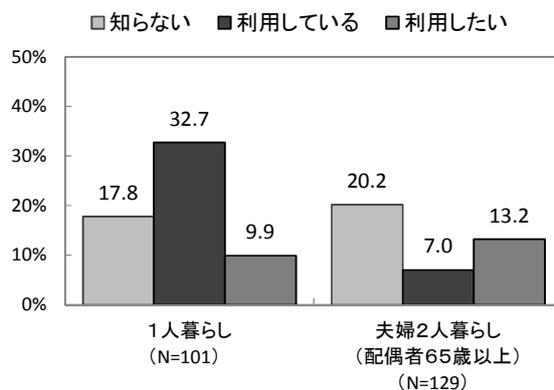


③緊急通報システム事業

《要介護度別》

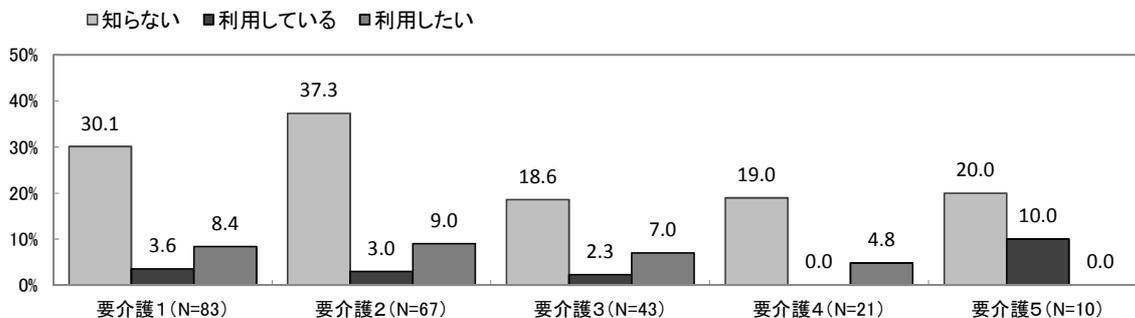


《家族構成別》

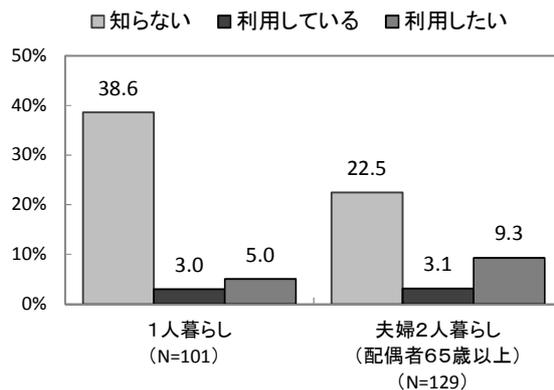


④おうちで安心見守り事業

《要介護度別》



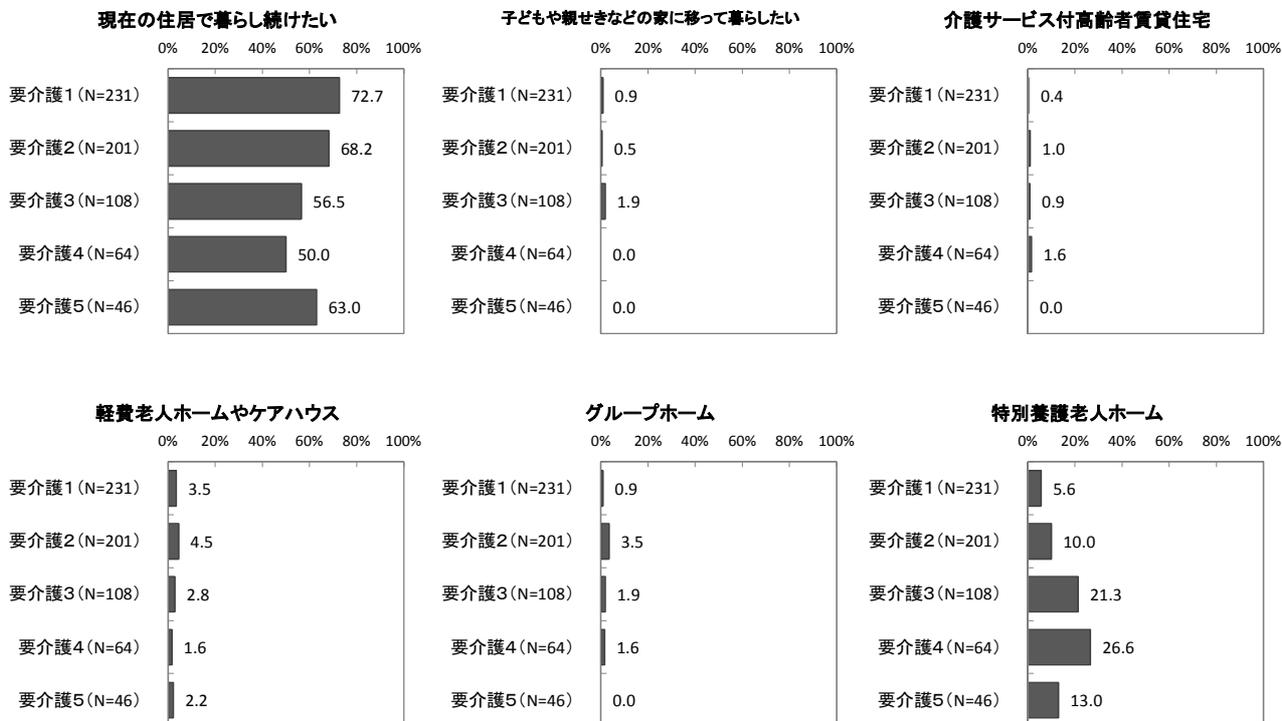
《家族構成別》



7 今後の生活と福祉や介護保険制度について

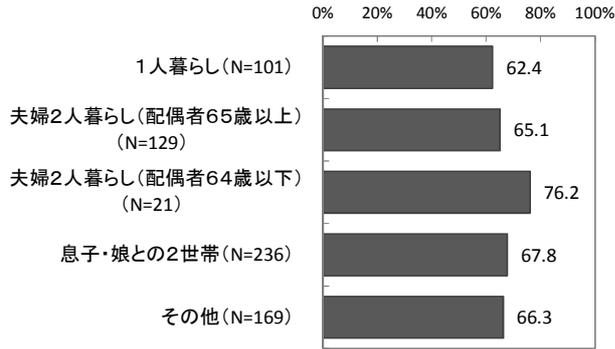
(1) 今後の住まいの希望

《要介護度別》

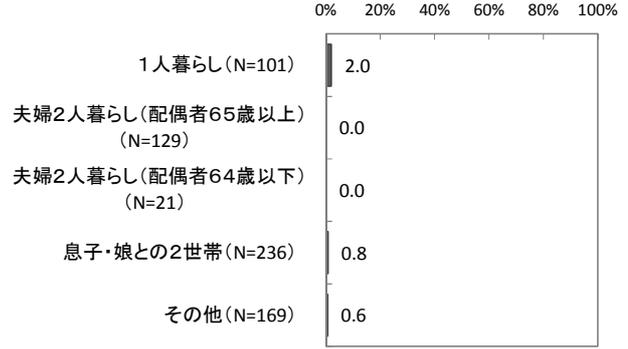


《家族構成別》

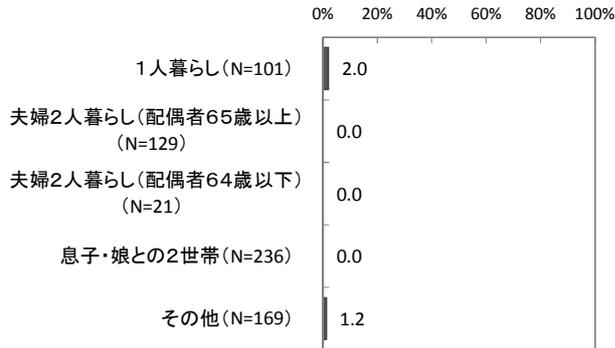
現在の住居で暮らし続けたい



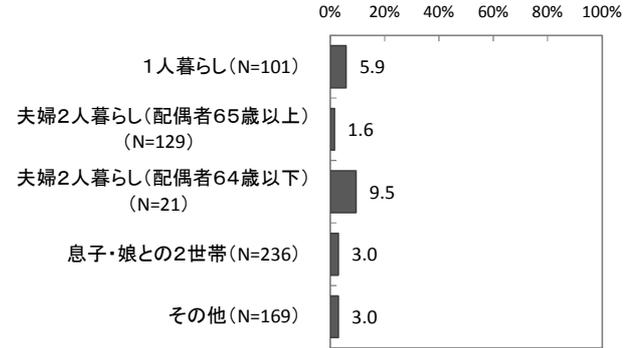
子どもや親せきなどの家に移って暮らしたい



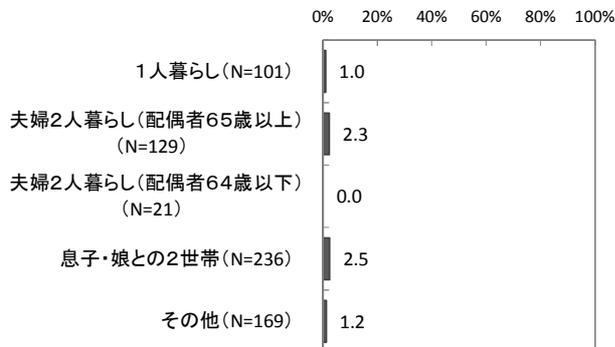
介護サービス付高齢者賃貸住宅



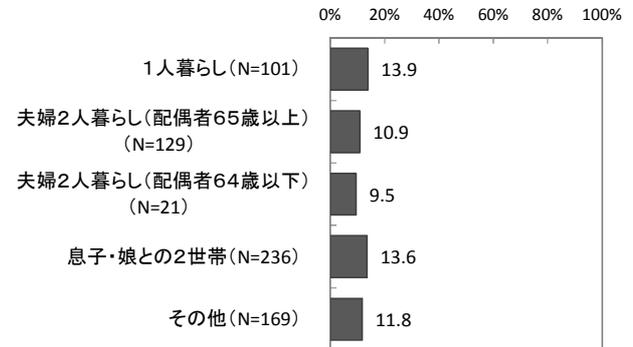
軽費老人ホームやケアハウス



グループホーム



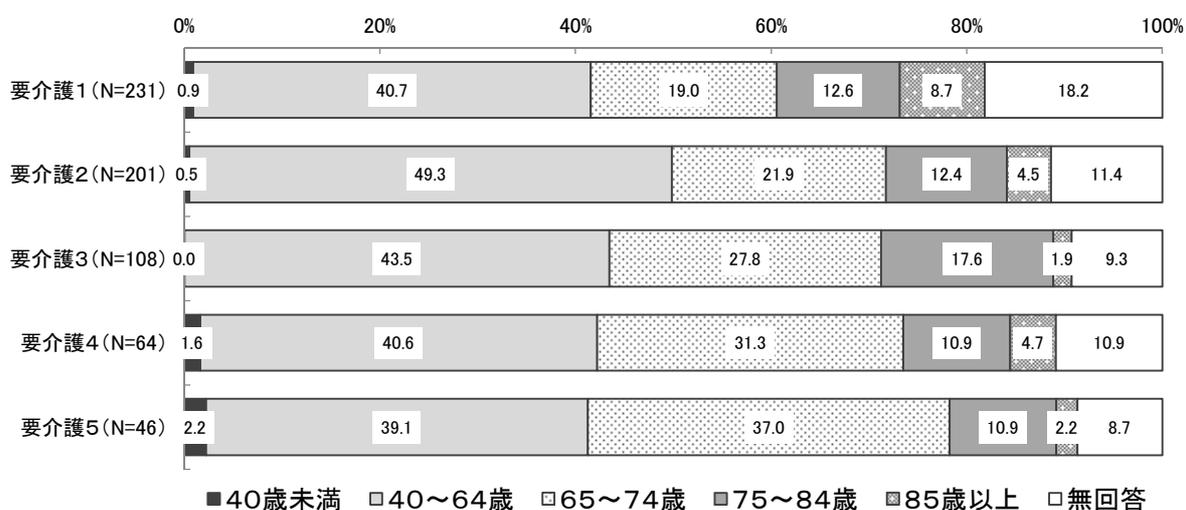
特別養護老人ホーム



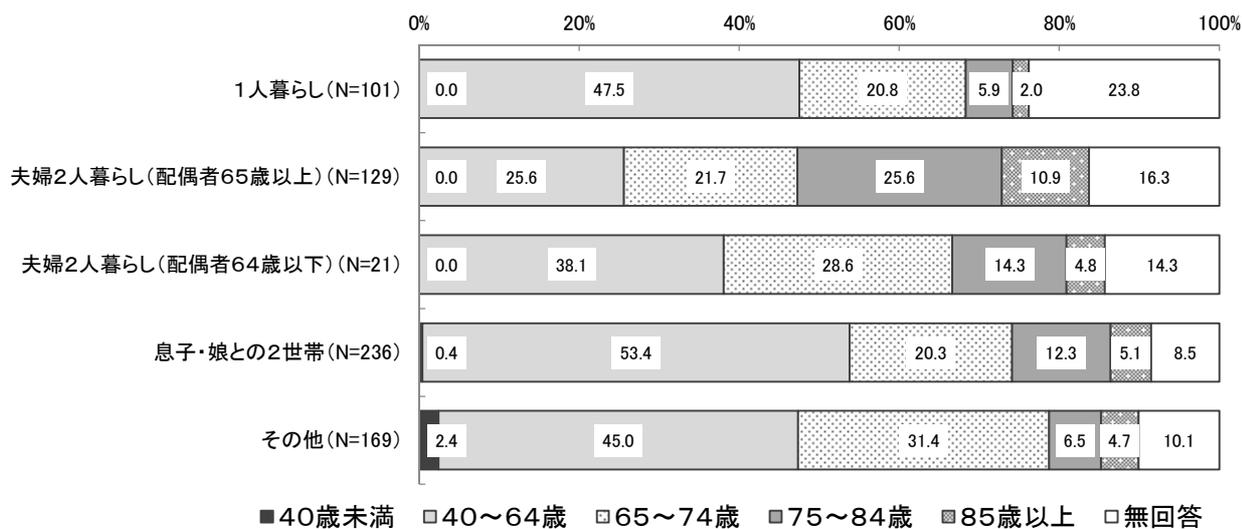
8 介護者の年齢、介護をしている家族の就労、働き方の調整状況

(1) 介護者の年齢

《要介護度別》

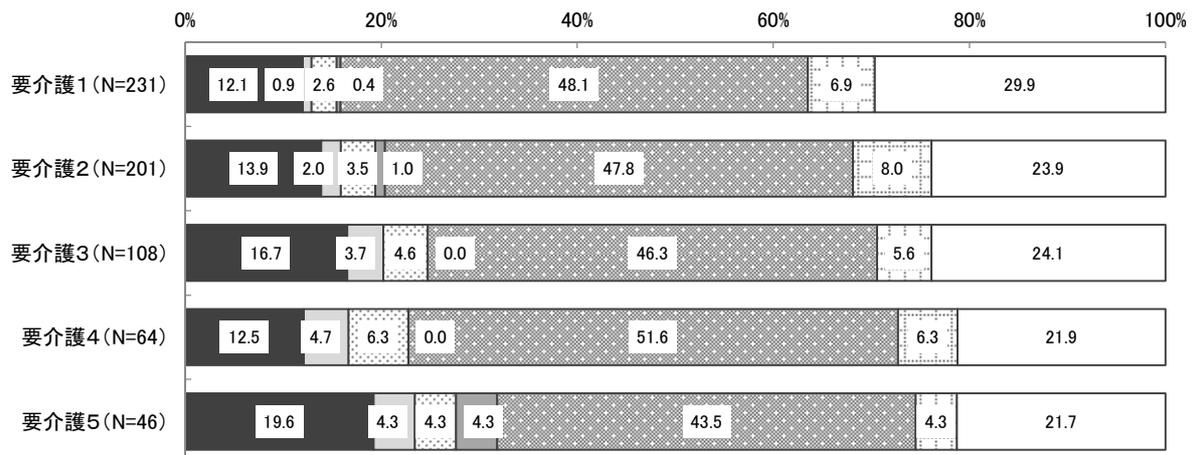


《家族構成別》



(2) 介護のために仕事を辞めた人がいるか

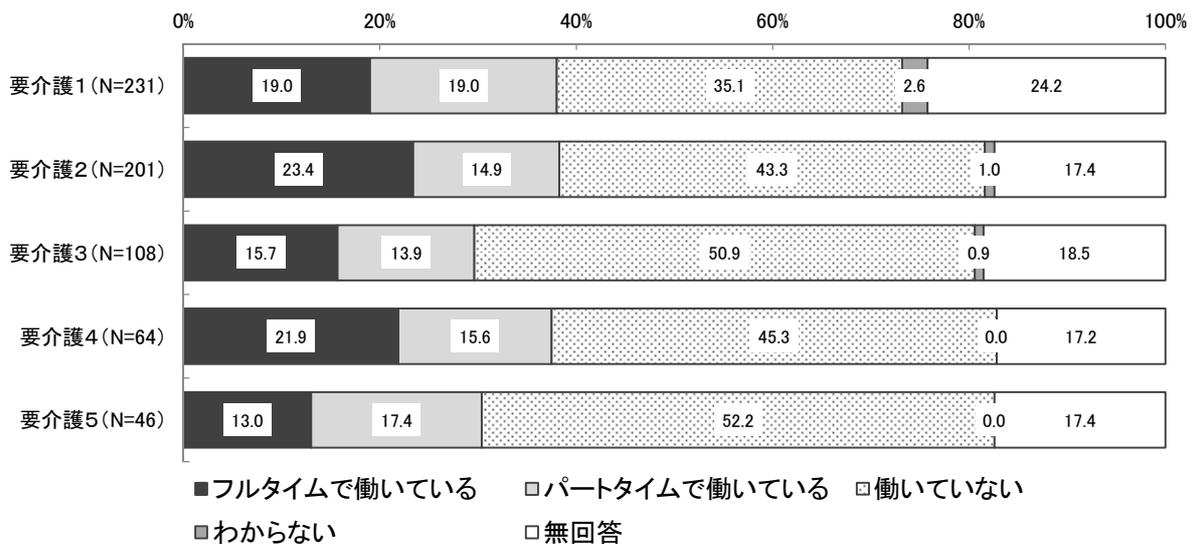
《要介護度別》



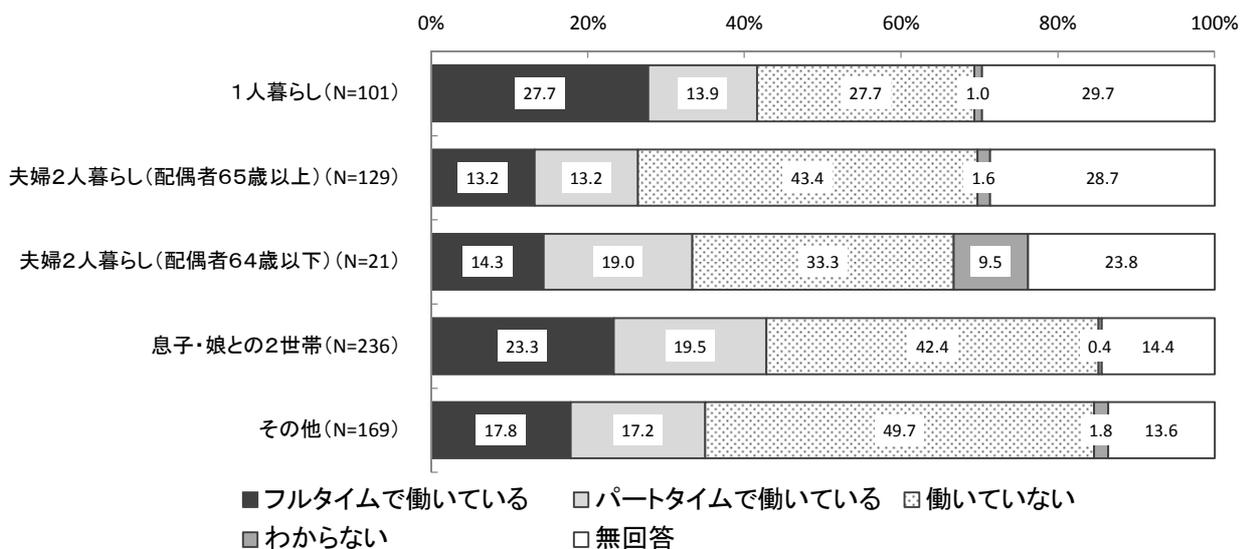
- 主な介護者が仕事を辞めた(転職除く)
- 主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた(転職除く)
- 主な介護者が転職した
- 主な介護者以外の家族・親族が転職した
- 介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない
- わからない
- 無回答

(3) 介護者の勤務形態

《要介護度別》

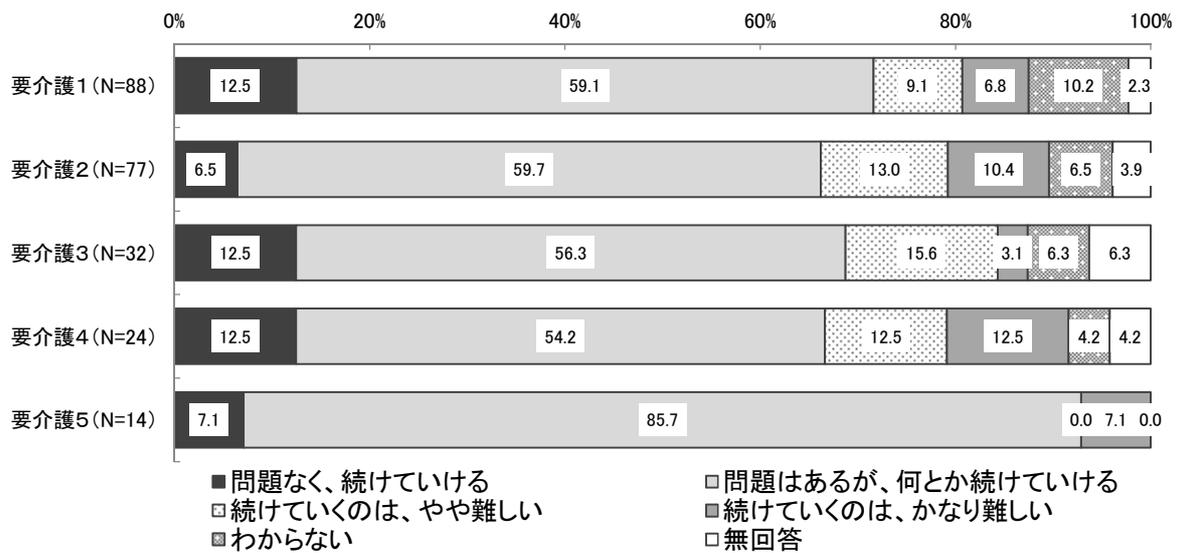


《家族構成別》



(4) 介護者は今後も働きながら介護を続けていけそうか

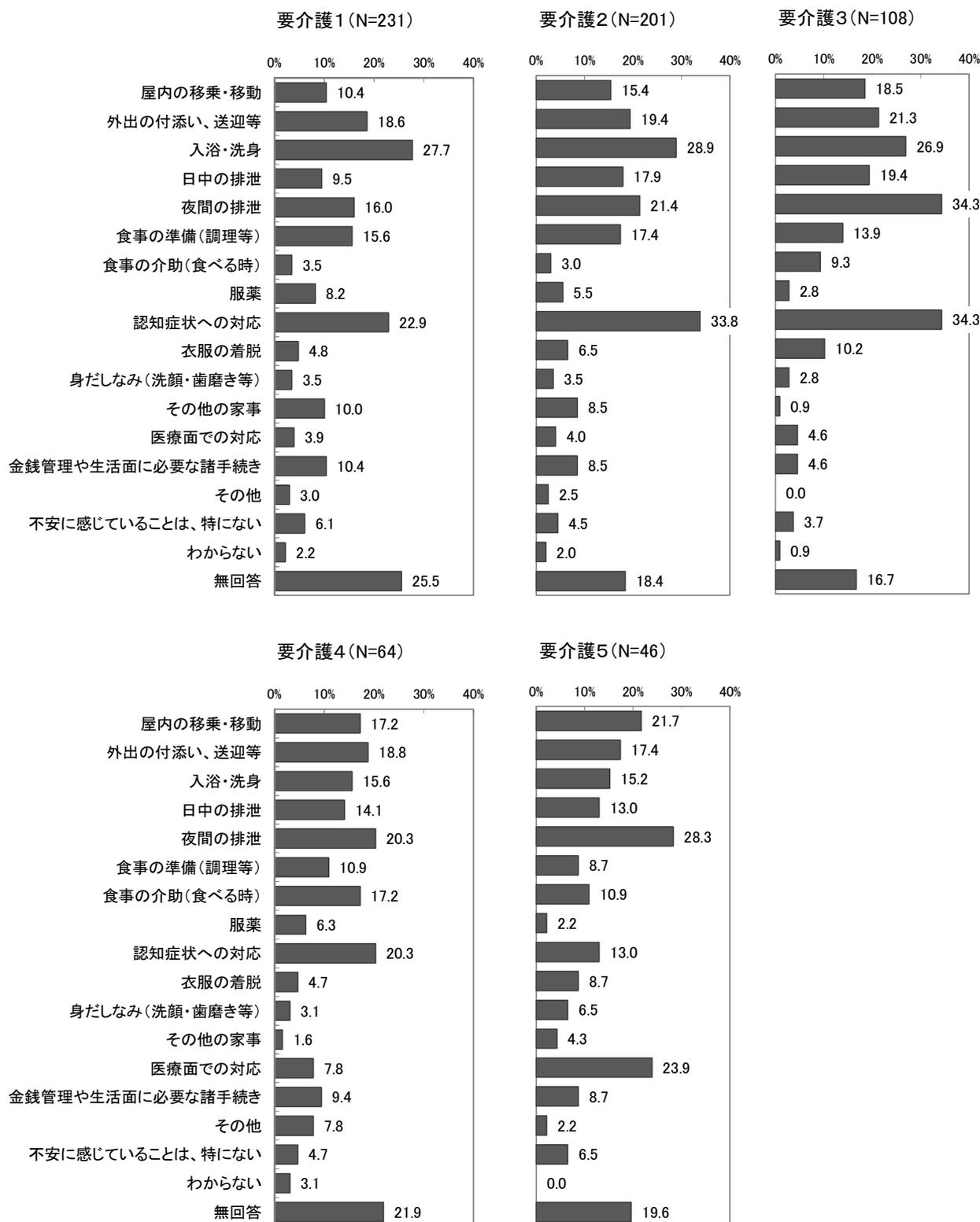
《要介護度別》



9 介護者が不安に感じる介護

(1) 現在の生活を継続していくにあたっての不安

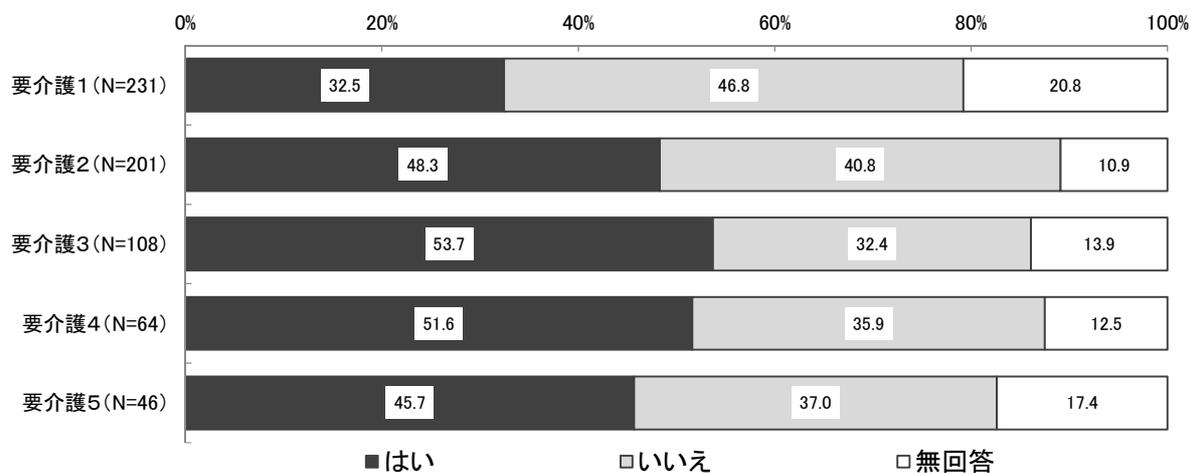
《要介護度別》



10 認知症状と介護について

(1) 本人は、認知症の症状があるか

《要介護度別》



11 要介護度別、家族構成別にみた調査結果のまとめ、考察

(1) 要介護認定者本人についての現状・課題

■認定を受ける原因となった主な病気等

要介護1では認知症に加えて転倒・骨折、整形外科疾患といったロコモティブシンドローム（※）が影響していると考えられる疾患が多くなっています。

要介護2・3では認知症が2割を超えています。本人に認知症があるかを介護者にたずねた設問では、要介護1では認知症状がある人の割合は3割あまりなのに対して、要介護2以上になると5割前後となっていることから、要介護2・3の認定を認知症が原因となって受ける人が多いことがうかがえます。

要介護認定者の減少に向けては、運動器機能の維持・向上や、認知症の予防・早期発見などの対策が引き続き重要であるといえます。

（※）ロコモティブシンドロームとは、骨や関節、筋肉などの衰えが原因で歩行や立ち座りなどの日常生活に支障がある状態のことです。

■移動手段、移送支援

要介護1～3では、移動を家族の運転に頼る人が7割前後いますが、要介護1～3の介護者の2割前後が後期高齢者となっており、認知機能の低下等から運転をしなくなる介護者が増加することが予想されます。また、移送に対して外部の支援を必要とする人の割合は、要介護4・5では現に支援を受けている人の割合が多くなっていますが、要介護2・3では「必要である」との回答が多くなっています。

これらのことから、要介護者の移動手段の確保も重要な課題といえます。

■毎日の生活について外部の支援が必要だと感じること

買い物、ごみ出し、食事の準備、掃除、外出支援、話し相手について、要介護1～3では外部の支援が「必要である」と感じている人がやや多くなっています。

家族構成別にみると、一人暮らしでは、多くの項目について現に支援を受けている人が多くなっていますが、夫婦2人暮らしでは現在は支援を受けていないものの「必要である」と感じている人が多くなっています。

必要なニーズが見過ごされることがないように、行政や関係機関、地域などそれぞれが留意し、適切な支援と結びつけることが重要です。

■介護サービスの利用状況

訪問介護については、おおむね介護度が高いほど利用者が多くなっていますが、介護度が最も高い要介護5でも3割を下回っています。「利用したい」との回答も、いずれの要介護度でも多くありません。

通所介護については、要介護1～3では約7割と多くの人々が利用しています。

短期入所生活介護については、要介護3～5で利用者が多くなっています。また、いずれの介護度でも「利用したい」との回答が比較的多くなっています。

認知症対応型通所介護については、認定を受ける原因となった主な病気等として認知症を挙げる回答が最も多い要介護3で、「利用したい」との回答が最も多くなっています。

家族構成別みると、一人暮らしでは、有料老人ホームやケアハウス、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の利用意向がやや多くなっています。

■今後の住まい

要介護3・4では、今後の住まいとして特別養護老人ホームを希望する人が多く、2割を超えています。

家族構成別にみると、一人暮らしと2世帯では、夫婦2人暮らしと比べて特別養護老人ホームを希望する人がやや多くなっています。

(2) 要介護認定者の介護者についての現状・課題

■介護のために仕事を辞めた人の有無

おおむね介護度が高いほど、介護者が仕事を辞めた割合が高くなっています。

■介護者の勤務形態

要介護1・2・4はフルタイムが2割前後とやや多くなっています。

家族構成別にみると、一人暮らしと2世帯では40～64歳といった子の世代の介護者が多いことから、フルタイムで働いている介護者が多くなっています。

■今後も働きながら介護を続けていけそうか

フルタイムで仕事をしている介護者が多い要介護2・4で、続けていくのは難しいとの回答が多く、2割を超えています。

■現在の生活を継続していくにあたっての不安

要介護1～3では「入浴・洗身」が3割近くと多くなっています。要介護2・3では「認知症状への対応」が3割を超えています。加えて、要介護3では「夜間の排泄」が3割を超えており、要介護3の人の介護者に不安が多いことがうかがえます。

要介護3では特別養護老人ホームを希望する割合が要介護2の倍以上となっていますが、生活への不安を感じる要素が多いことがその理由の一つになっていると考えられることから、これらの不安を解消することで、住み慣れた在宅での生活の継続につながると考えられます。

要介護5では「医療面での対応」や「夜間の排泄」について不安を抱く介護者が多いことから、訪問看護や定期巡回・随時対応型訪問介護看護などのサービスをより活用することが、介護者の不安軽減につながる方法の一つになると考えられます。